

授業科目名	日本近世文学研究 (5A)
科目番号	02DS389
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	清登 典子
授業概要	近世俳諧における季語のうち、秋の季語を取り上げ、和歌に於ける用い方と比較して検討を加える。受講者の発表と討議によって授業を進める。
備考	
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「研究力」「専門知識」
授業の到達目標（学修成果）	日本の詩歌の中心的テーマの一つとなっている季題、季語の役割について学び、理解を深める。
授業計画	<p>和歌から用いられている季節の題としての季題と、連歌、俳諧における季語のあり方とについて、これまでの研究史の流れを学び、近代以降の俳句における役割について検討を加える。受講生の発表と討議に基づいて授業を進める。</p> <p>第 1 回初回授業の日時に manaba のこの科目のコースにアクセスしてください。manaba にアクセスできない人は、kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp にメールを送ってください。</p> <p>第 2 回和歌における季の詞につき、参考文献を受講者が担当して読み、発表と討議とを行う。</p> <p>第 3 回同 上</p> <p>第 4 回連歌における季の詞の役割と変化について連歌論書を受講生が担当して読み、発表と討議で授業を進める。</p> <p>第 5 回同 上</p> <p>第 6 回近世前期の季語のあり方について、近世前期の俳論書を受講生が分担して読み、発表と討議を行う。</p> <p>第 7 回同 上</p> <p>第 8 回近世中期の俳論書を受講生が分担して読み、発表と討議を行う。</p> <p>第 9 回同 上</p> <p>第 10 回近世後期の季語のあり方について、俳論書を受講生が分担して読み、発表と討議を行う。</p> <p>第 11 回同 上</p> <p>第 12 回近代俳句における季語の役割について俳論書を読み、討議を行う。</p> <p>第 13 回同 上</p> <p>第 14 回同 上</p> <p>第 15 回授業のまとめ</p>
履修条件	
成績評価方法	発表内容、討議への参加状況を勘案して成績評価を行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	

教材・参考文献・配付資料等	授業時に指示する
オフィスアワー等（連絡先含む）	清登 典子 水 3(要予約) 人文社会学系棟 A604 kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	季語, 季題, 和歌, 俳諧, 俳句

授業科目名	日本近世文学研究 (5B)
科目番号	02DS390
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 4
担当教員	清登 典子
授業概要	近世俳諧における季語のうち、秋の季語を取り上げ、近世初期俳諧、芭蕉俳諧、蕪村俳諧における用例を比較して検討を加える。受講生の発表と討議によって授業を進める。
備考	
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「研究力」「専門知識」
授業の到達目標（学修成果）	日本の詩歌の中心的テーマの一つである、季節感について具体的な季語を取り上げて検討することで理解を深める。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
授業計画	<p>秋の季語のうちから俳諧文芸以降に用いられるようになった季語を選び、初期俳諧、芭蕉俳諧、蕪村俳諧、近代俳句における用いられ方について調べて発表し、受講生全体で討議を行う。受講生の発表と討議とによって授業を進める。</p> <p>第 1 回授業の目的、内容、調査方法などについて担当教員から説明する。季語の分担を決める。</p> <p>第 2 回俳諧の歴史について講義をする。</p> <p>第 3 回担当学生による季語についての近世初期における用例を調査して発表し、それに基づく討議を行っていく。</p> <p>第 4 回 同上</p> <p>第 5 回 同上</p> <p>第 6 回芭蕉俳諧における秋の季語の用いられ方について調査、発表し、それに基づいた討議を行う。</p> <p>第 7 回 同上</p> <p>第 8 回 同上</p> <p>第 9 回 同上</p> <p>第 10 回蕪村俳諧における秋の季語の用いられ方について調査、発表し、それに基づいた討議を行う。</p> <p>第 11 回 同上</p> <p>第 12 回 同上</p> <p>第 13 回近代俳句における季語の使用について、具体的な作品を取り上げて発表、検討し討議を行う。</p> <p>第 14 回 同上</p> <p>第 15 回授業をまとめる</p>
履修条件	
成績評価方法	発表内容、討議への参加状況を総合的に勘案して評価する
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	

教材・参考文献・配付資料等	授業時に指示する
オフィスアワー等（連絡先含む）	清登 典子 水3 (要予約) 人文社会学系棟 A604 内線 4140 kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	季語, 季題, 初期俳諧, 芭蕉俳諧, 蕪村俳諧, 近代俳句, 季節感

授業科目名	日本近世文学演習 (5A)
科目番号	02DS399
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	清登 典子
授業概要	近世の俳諧作品を取り上げ、内容、表現上の特色について検討を加える。受講生の発表と討議によって授業を進める。
備考	
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「研究力」「専門知識」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	能の詞章である謡曲に基づく発句と絵とからなる俳書『俳度曲』を取り上げて検討を加え、言葉の使い方や技法などについて明らかにする。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
授業計画	<p>担当部分についての発表者の発表と、受講生全体による討議とによって授業を進める。</p> <p>第 1 回初回授業の日時に manaba のこの科目のコースにアクセスしてください。manaba にアクセスできない人は、kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp にメールを送ってください。</p> <p>第 2 回俳諧と謡曲との関係について概説する。</p> <p>第 3 回発表者の担当部分についての発表と、受講生全体による討議を行う。</p> <p>第 4 回同 上</p> <p>第 5 回同 上</p> <p>第 6 回同 上</p> <p>第 7 回同 上</p> <p>第 8 回同 上</p> <p>第 9 回同 上</p> <p>第 10 回同 上</p> <p>第 11 回同 上</p> <p>第 12 回同 上</p> <p>第 13 回同 上</p> <p>第 14 回同 上</p> <p>第 15 回授業のまとめを行う</p>
履修条件	
成績評価方法	発表の内容、討議への参加状況を総合して評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	授業時に指示する。

オフィスアワー等（連絡先含む）	清登 典子 水 3(要予約) 人文社会学系棟 A604 kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	能, 謡曲, 俳諧, 技法, 趣向

授業科目名	日本近世文学演習 (5B)
科目番号	02DS400
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 5
担当教員	清登 典子
授業概要	絵と俳諧とを共に味わう絵俳書として『俳度曲』を取り上げ、絵と俳諧との関係に注目しながら、表現上の特色について検討を加える。受講生の発表と討議によって授業を進める。
備考	
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「研究力」「専門知識」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	絵と俳諧作品とを共に味わう絵俳書の表現効果や表現上の特色について検討を加えることで理解を深める。
授業計画	<p>取り上げる俳諧作品と絵について、発表担当者を決定し、その発表と受講生全員による討議によって授業を進めていく。</p> <p>第 1 回発表担当者の決定、調査の方法、発表のやり方、資料作成の仕方などについて説明する。</p> <p>第 2 回俳諧史における絵俳書の位置づけやテキストとする作品について説明する。</p> <p>第 3 回発表担当者による発表と、それに対する受講生全体の討議を行う。</p> <p>第 4 回 同 上</p> <p>第 5 回 同 上</p> <p>第 6 回 同 上</p> <p>第 7 回 同 上</p> <p>第 8 回 同 上</p> <p>第 9 回 同 上</p> <p>第 10 回 同 上</p> <p>第 11 回 同 上</p> <p>第 12 回 同 上</p> <p>第 13 回 同 上</p> <p>第 14 回 同 上</p> <p>第 15 回 授業のまとめを行う。</p>
履修条件	
成績評価方法	発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	授業時に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	清登 典子 水 3(要予約) 人文社会学系棟 A604 kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	絵画, 俳諧, 絵俳書, 技法, 趣向

授業科目名	文学批評研究 (1A)
科目番号	02DSA01
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 5
担当教員	青柳 悦子
授業概要	20 世紀以降蓄積されてきたさまざまな文学理論を意識しながら、文学研究を学術的に展開するための方法論を発表形式で実践的に学ぶ。学生各自の問題意識にもとづいて研究方法を洗練させていくために、受講生各自が自分の研究にとってもっとも重要な先行研究を紹介し、それをもとに自分の研究の構想を発表する。受講生全員が題材として紹介される先行研究を授業までに読んでくることを義務とし、討議の充実をはかる。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE01 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「3. コミュニケーション能力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	すぐれた先行研究論文をモデルとして、受講生各自が文学研究を学術的に展開する方法を身につける。
授業計画	<p>学生各自の問題意識にもとづいて研究方法を洗練させていくために、受講生各自が自分の研究にとってもっとも重要な先行研究を紹介し、それをもとに自分の研究の構想を発表する。受講生全員が題材として紹介される先行研究を授業までに読んでくることを義務とし、討議の充実をはかる。</p> <p>今年度はコロナウイルス対応のため、授業内容を柔軟に変更することがあります</p> <p>第 1 回ガイダンス 第 2 回先行研究リストの作成と参照優先順位の振り分け 第 3 回モデル論文 (1) 第 4 回モデル論文 (2) 第 5 回モデル論文 (3) 第 6 回モデル論文 (4) 第 7 回モデル論文 (5) 第 8 回モデル論文 (6) 第 9 回モデル論文 (7) 第 10 回総括</p>
履修条件	
成績評価方法	授業参加態度 30%、発表担当 40 パーセント、期末提出物 30%。 期末提出物では、自分の研究課題に関する先行研究の概括と、自分の問題設定の提示をおこなってもらう。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎週の予習として、教員・発表者が事前に配布・配信する資料の読み込み。 自分の担当の準備。

教材・参考文献・配付資料等	教室で指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	木曜 3 時限目 人文社会学系棟 B417 aoyagi.etsuko.gn at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	初回授業の日時（4 月 28 日午後）に manaba の「比較文学」のコースにアクセスしてください。あらかじめ Twins での登録が必要です。manaba のコースにアクセスできない人は、aoyagi.etsuko.gn@u.tsukuba.ac.jp にメールを送ってください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	文学理論, 現代文学, 研究方法

授業科目名	文学批評研究 (1B)
科目番号	02DSA02
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 火 5
担当教員	青柳 悦子
授業概要	すぐれた批評的・理論的著作を対象文献として指定し、毎回担当者を決めた輪読形式で読み進めることにより、文学研究を遂行するための基礎的な知識を身につけ、分析と論述の手法について学ぶ。たとえば、ジェラルド・ジュネット『物語のディスコース』、『続・物語のディスコース』、ジュリア・クリステヴァ『恐怖の権力 「オブジェクション」 試論』、『女の時間』、橋本陽介『物語における時間と話法の比較詩学』、検索に移動 砂野 幸稔『多言語主義再考-多言語状況の比較研究』など。対象テキストは受講者の希望を勘案して決定する。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE02 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「3. コミュニケーション能力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	すぐれた批評的・理論的著作を対象文献として指定し、毎回担当者を決めた輪読形式で読み進めることにより、文学研究を遂行するための基礎的な知識を身につけ、分析と論述の手法について学ぶ。
授業計画	アルベール・カミュをめぐる近年の研究をとりあげ、作品の読解に留まらない文学研究アプローチの開拓について学ぶ。対象テキストと観点は以下の二種。千々岩靖子『カミュ-歴史の裁きに抗して』（名古屋大学出版会、2014年）を題材に、社会的・歴史的研究と哲学的読解の結びつけ。Alice Kaplan, Looking for The Stranger: Albert Camus and the Life of a Literary Classic (The University of Chicago Press, 2016) を題材に、新たな伝記的研究と作品の再評価。 第1回総論、ガイダンス 第2回千々岩靖子『カミュ-歴史の裁きに抗して』（1） 第3回千々岩靖子『カミュ-歴史の裁きに抗して』（2） 第4回千々岩靖子『カミュ-歴史の裁きに抗して』（3） 第5回千々岩靖子『カミュ-歴史の裁きに抗して』（4） 第6回 Alice Kaplan, Looking for The Stranger(1) 第7回 Alice Kaplan, Looking for The Stranger(2) 第8回 Alice Kaplan, Looking for The Stranger(3) 第9回 Alice Kaplan, Looking for The Stranger(4) 第10回総括 輪読テキストは、著作から教員が著作から対象箇所を指定する。
履修条件	
成績評価方法	授業参加態度 60%、期末課題 40%。 期末課題では、この学期の学修内容をもとに、自分の研究への応用を論じる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎週の対象テキストの読み込み。

教材・参考文献・配付資料等	1. 千々岩靖子,『カミュ-歴史の裁きに抗して』(名古屋大学出版会、2014年) 2. Alice Kaplan, Looking for The Stranger: Albert Camus and the Life of a Literary Classic (The University of Chicago Press, 2016)
オフィスアワー等(連絡先含む)	木曜3時限目 人文社会学系棟 B417 aoyagi.etsuko.gn at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	文学批評, 文学理論, 文学研究法, アルベール・カミュ

授業科目名	文学批評研究 (2A)
科目番号	02DSA03
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 5
担当教員	青柳 悦子
授業概要	方法論的意識をより拡充しながら、文学研究を学術的に展開するための能力を高める。とりわけ近年の新たな研究動向に着目し、これからの文学研究に必要な着眼点や有効な問題設定を抽出する。先行研究からとりわけ分析の手法と論述の技法を学び、みずからの研究活動に生かすために、教員および学生各自が自分の研究と関わる優れた著作・論文を選んで紹介するとともに批評的な分析を加える。受講生全員が題材として紹介される先行研究を授業までに読んでくることを義務とし、討議の充実をはかる。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAE03 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	すぐれた批評的・理論的著作を対象文献として指定し、毎回担当者を決めた輪読形式で読み進めることにより、文学研究を遂行するための基礎的な知識を身につけ、分析と論述の手法について学ぶことで、研究能力を深化させる。。
授業計画	
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	文学研究発表演習 A
科目番号	02DSA05
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春 AB 木 6
担当教員	青柳 悦子, 加藤 百合, 吉原 ゆかり
授業概要	受講者全員が研究発表を行い、教員も参加してディスカッションを行うことで、文学・文化研究分野における論文執筆や学会発表の方法の基礎を実践的に学ぶ。発表者は、必ずしも完成された研究内容でない萌芽的な研究であっても、問題意識を鮮明にし、先行研究を概観しつつ当該研究の位置づけを示し、的確に対象テキストの分析をおこなったうえで有意義な考察を展開するよう努め、その成果を学術的な形式にのっとして発信する機会とする。他の受講者は、これらの側面を吟味し、研究の質の向上のための改善策を検討し、建設的な発言能力を磨く。
備考	0ABAE05 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「3. コミュニケーション能力」「4. チームワーク力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「3. 倫理観」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	受講者全員が研究発表を行い、ディスカッションを行うことで、文学・文化研究分野における論文執筆や学会発表の方法の基礎を実践的に身につける。
授業計画	毎回、受講者による研究発表と、それをもとにしたディスカッションをおこなう。 必要に応じて、講演を交える。 第 1 回 4/30 ガイダンス、発表の割り振り 第 2 回 5/7 教員による学術講演 第 3 回 5/14 受講生による発表 (1) 第 4 回 5/21 受講生による発表 (2) 第 5 回 5/28 受講生による発表 (3) 第 6 回 6/4 受講生による発表 (4) 第 7 回 6/11 受講生による発表 (5) 第 8 回 6/18 受講生による発表 (6) 第 9 回 6/20(土) 木曜授業 予備日 第 10 回 6/25 受講生による発表 (7)
履修条件	
成績評価方法	発表内容 50%、毎週のディスカッション参加態度 50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	受講生は発表者が事前に伝える資料を読んで事前学習をおこなう。 自分の発表については十分な準備を重ねる。 初回 4 月 30 日 6 限の授業は、その時間に manaba 上で、資料を配布し授業の進め方を説明しますので、必ず manaba にアクセスしてください。できるだけ 4 月 22 日くらいまでに TWINS での履修登録をお願いします。 その時点で登録が終わっていない受講予定者は、吉原のメール・アドレス yoshihara.yukari.fp@u.tsukuba に受講希望の旨、ご連絡をください。 Microsoft 365、とくに Teams の使い方を https://www.microsoft.com/ja-jp/education/products/office?tab=students?tab=students で熟読してください。
教材・参考文献・配付資料等	発表 1 週間前 暫定版の発表資料を、メールで履修者全員に配布する。授業参加者は、授業当日までに、暫定版に目を通しておく。 授業当日までに 暫定版をアップデートした、当日版発表資料を、manaba にアップロードする。この当日版発表資料に基づいて、発表を行う。

<p>オフィスアワー等（連絡先含む）</p>	<p>青柳 悦子 木曜 3 時限目 人文社会学系棟 B417 aoyagi.etsuko.gn at u.tsukuba.ac.jp 加藤 百合 QWP10153 at nifty.com 吉原 ゆかり 木 3 限 人文社会学系棟 A515 yoshihara.yukari.fp at u.tsukuba.ac.jp</p>
<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>初回 4 月 30 日 6 限の授業は、その時間に manaba 上で、資料を配布し授業の進め方を説明しますので、必ず manaba にアクセスしてください。できるだけ 4 月 22 日くらいまでに TWINS での履修登録をお願いします。 その時点で登録が終わっていない受講予定者は、吉原のメール・アドレス yoshihara.yukari.fp@u.tsukuba に受講希望の旨、ご連絡をください。</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	<p>TA1 名あり。</p>
<p>キーワード</p>	<p>文学研究法, 発信力, 発表力, 研究交流</p>

授業科目名	文学研究発表演習 B
科目番号	02DSA06
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋 AB 木 6
担当教員	青柳 悦子, 加藤 百合, 齋藤 一, 吉原 ゆかり
授業概要	受講者全員がより高度な学術的水準をめざして研究発表を行い、教員も参加してディスカッションを行うことで、文学・文化研究分野における学術論文執筆や学会発表の洗練方法を実践的に学ぶ。発表者は学位論文に結実することを念頭においた研究発表をおこない、問題意識を深化させ、先行研究を批判的に概観しつつ当該研究の独自性を示し、的確かつ説得力ある対象テキスト分析をおこなったうえで学界に寄与する考察を展開するよう努め、その成果を完成度の高い学術的形式にのっとりて発信する機会とする。他の受講者は、これらの側面を吟味し、研究の質の向上のための有効な改善策を検討し、建設的な発言能力を一層磨いて、学術交流のための資質を高める。
備考	0ABAE06 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「3. コミュニケーション能力」「4. チームワーク力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「3. 倫理観」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	受講者全員がより高度な学術的水準をめざして研究発表を行い、ディスカッションを行うことで、文学・文化研究分野における学術論文執筆や学会発表の洗練方法を実践的に身につける。
授業計画	毎回、受講者による研究発表と、それをもとにしたディスカッションをおこなう。 必要に応じて、講演を交える 第 1 回ガイダンス、発表の割り振り 第 2 回受講生による発表 (1) 第 3 回受講生による発表 (2) 第 4 回受講生による発表 (3) 第 5 回受講生による発表 (4) 第 6 回受講生による発表 (5) 第 7 回受講生による発表 (6) 第 8 回受講生による発表 (7) 第 9 回受講生による発表 (8) 第 10 回受講生による発表 (9)
履修条件	
成績評価方法	発表内容 50%、毎週のディスカッション参加態度 50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	受講生は発表者が事前に伝える資料を読んで事前学習をおこなう。 自分の発表については十分な準備を重ねる。
教材・参考文献・配付資料等	毎回の資料として、発表(担当)者がハンドアウトを準備して履修者全員に配布する。 また受講者が事前に読んでおくべき資料として、発表者はその暫定版を予示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	青柳 悦子 木曜 3 時限目 人文社会学系棟 B417 aoyagi.etsuko.gn at u.tsukuba.ac.jp 加藤 百合 QWP10153 at nifty.com 齋藤 一 saito.hajime.gn at u.tsukuba.ac.jp http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/000000018 吉原 ゆかり 木 3 限 人文社会学系棟 A515 yoshihara.yukari.fp at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	TA1 名あり。
キーワード	文学研究法, 発信力, 発表力, 研究交流

授業科目名	文学理論研究 (1A)
科目番号	02DSA07
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	夏季休業中 集中
担当教員	齋藤 一
授業概要	最新の文学理論を自ら応用し作品分析に利用できるまで習熟することを目標とする。そのために、最近の文学理論を理解するために不可欠な、すでに古典的となった欧米の文学理論書、エーリッヒ・アウエルバッハ『ミメーシス』を、主に日本語訳を利用して講読することで、ヨーロッパ文学における現実表象について学ぶ。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE07 と同一。 9/28,9/29
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンス「専門知識」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	20 世紀の著名な批評家、例えばエドワード・W・サイードが深い影響を受けた名著、エーリッヒ・アウエルバッハ『ミメーシス』（1946 年）の日本語訳、特に上巻を講読することで、文学研究の基礎と頂点を同時に学ぶことができる。
授業計画	第 1 回 9 月 28 日 (月) 2 限 (1010~1125):授業全体の概論、アウエルバッハと『ミメーシス』についての概論 第 2 回 3 限 (1215~1330):第 1 章「オデュッセウスの傷痕」 第 3 回 4 限 (1345~1500):同上 第 4 回 5 限 (1515~1630):第 2 章「フォルトゥナタ」 第 5 回 6 限 (1645~1800):同上 第 6 回 9 月 29 日 (火) 2 限 (1010~1125):第 4 章「シカリウスとクラムネシンドゥス」 第 7 回 3 限 (1215~1330):同上 第 8 回 4 限 (1345~1500):第 7 章「アダムとエヴァ」 第 9 回 5 限 (1515~1630):第 8 章「ファリナータとかヴァルカンテ」 第 10 回 6 限 (1645~1800):第 9 章「修道士アルベルト」
履修条件	
成績評価方法	授業参加 (10%) とレポート (90%) によって評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	テキストを事前に丁寧に読むことと、授業後にもう一度テキストを精読することが必要である。
教材・参考文献・配付資料等	エーリッヒ・アウエルバッハ『ミメーシス』上巻、ちくま学芸文庫、1994 年 (*必ず「ちくま学芸文庫」版を古書などで各自購入すること。なお、下巻もできるだけ購入しておくこと。) 原著、英訳、参考書等については授業中に適宜紹介する。 1. エーリッヒ・アウエルバッハ, ミメーシス

オフィスアワー等（連絡先含む）	夏季休業中の集中授業につき、メールで予約を取ること。 saito.hajime.gn at u.tsukuba.ac.jp http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000000184
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	アウエルバッハの議論は大変重要だが相当に難しいので、事前の十分な予習と講義後の復習が不可欠である。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	TA 配置はなし。
キーワード	アウエルバッハ, ミメーシス, 現実, 表象, ヨーロッパ文学

授業科目名	文学理論研究 (1B)
科目番号	02DSA08
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 月 3
担当教員	齋藤 一
授業概要	最新の文学理論を自ら応用し作品分析に利用できるまで習熟することを目標とする。そのために、最近の文学理論を理解するために不可欠な、すでに古典的となった欧米の文学理論書、エドワード・サイード『オリエンタリズム』の英語原典(部分)を、日本語訳を参考にしながら講読することで、脱構築、ポストコロニアル批評の根本的発想を学ぶ。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE08 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンス「専門知識」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	エドワード・サイード『オリエンタリズム』(1978)の日本語訳の重要箇所(特に翻訳の上巻)を講読することで、文学批評、特にポストコロニアル批評の基礎を学ぶことができる。
授業計画	第1回授業全体の概要、サイードと『オリエンタリズム』の概要 第2回「序説」(1) 第3回「序説」(2) 第4回第1章「オリエンタリズムの領域」第1節「東洋人を知る」 第5回同上第2節「心象地理とその諸表象」 第6回同上第3節「プロジェクト」 第7回同上第4節「危機」 第8回第2章「オリエンタリズムの構成と再構成」第1節「再設定された境界線・再定義された問題・世俗化された宗教」 第9回同上第2節「シルヴェストル・ド・サシとエルネスト・ルナン」 第10回「オリエンタリズム再考」
履修条件	
成績評価方法	授業参加(10%)とレポート(90%)によって評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業の該当箇所の予習と復習。
教材・参考文献・配付資料等	エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』(上・下)、平凡社ライブラリー、1993年(*必ず「平凡社ライブラリー」版を購入すること。) 1. エドワード・W・サイード, オリエンタリズム
オフィスアワー等(連絡先含む)	月4をオフィスアワーとする。これ以外の時間についてはメールで予約をすること。 saito.hajime.gn at u.tsukuba.ac.jp http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000000184
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	かなり難しい批評書であることを覚悟して受講すること。

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	TAの配置はなし。
キーワード	サイド, オリエンタリズム, 現実, 表象, ポストコロニアリズム

授業科目名	文学交流論演習 (1A)
科目番号	02DSA12
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 3
担当教員	吉原 ゆかり
授業概要	広義でのテキスト作品 (文学テキスト作品、図像・映像を併用した作品を含む) を通じた文化交流の諸相を知るために、日本語もしくは英語で書かれた、近現代テキスト作品を精読する。学術的レベルでのテキスト作品精読に不可欠な、周辺資料の調査方法、研究資料調査方法を習得する。植民地出身者が宗主国語で書いた作品や、テキストで用いられる言語を第一言語としない人により書かれた作品、高級文化とポピュラー・カルチャーを交錯させる作品など、複数の文化・言語・地域を交流・交差させる作品を取り上げる。
備考	使用言語は、日本語及び英語。 西暦偶数年度開講。 0ABAE12 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンス 研究力、専門知識、思考力に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	広義でのテキスト作品 (文学テキスト作品、図像・映像を併用した作品を含む) を通じた文化交流の諸相を知るために、日本語もしくは英語で書かれた、近現代テキスト作品を精読する力を身に着けることができる。学術的レベルでのテキスト作品精読に不可欠な、周辺資料の調査方法 (英語・日本語)、研究資料調査方法を習得することができる。
授業計画	ジェイン・オースティン『高慢と偏見』の翻案作品である、野上弥生子『真知子』を精読し、同時代状況を調査し、学術論文を精査するスキルを構築する。 第 1 回 4/28 イン트로ダクション 第 2 回 5/12 『真知子』一・二章を読了のうえ、出席してください。 第 3 回 5/16 (土) 『真知子』三章を読了のうえ、出席してください。 第 4 回 5/19 『真知子』四章を読了のうえ、出席してください。 第 5 回 5/26 『真知子』五章を読了のうえ、出席してください。 第 6 回 6/2 『真知子』六章を読了のうえ、出席してください。 第 7 回 6/9 『真知子』七章を読了のうえ、出席してください。 第 8 回 6/16 『真知子』八章を読了のうえ、出席してください。 第 9 回 6/20 (土) 『真知子』九章を読了のうえ、出席してください。 第 10 回 6/23 まとめ
履修条件	
成績評価方法	授業への積極的な参加 25%, 中間課題 25%, 期末課題 50% を基準に、総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業時間外に、インターネットや図書館、国会図書館デジタル配信などでの資料調査を行い、manaba に結果をアップロードする。

教材・参考文献・配付資料等	1. 野上弥生子, 真知子 (新潮文庫) Kindle
オフィスアワー等(連絡先含む)	木 3 限 人文社会学系棟 A515 yoshihara.yukari.fp at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	初回 4 月 28 日 3 限の授業は、その時間に manaba 上で、資料を配布し授業の進め方を 説明しますので、必ず manaba にアクセスしてください。できるだけ 4 月 22 日くらいまでに TWINS での履修登録をお願いします。 その時点で登録が終わっていない受講予定者は、吉原のメール・アドレス yoshihara.yukari.fp@u.tsukuba.ac.jp に受講希望の旨、ご連絡をください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	翻案, 階級, ジェンダー

授業科目名	文学交流論演習 (1B)
科目番号	02DSA13
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 火 3
担当教員	吉原 ゆかり
授業概要	広義でのテキスト作品 (文学テキスト作品、図像・映像を併用した作品を含む) を通じた文化交流についての理解を深めるために、日本語もしくは英語で書かれた、近現代テキストの精読を行う。学術的レベルでのテキスト作品精読に不可欠な、周辺資料の調査方法、研究資料調査方法、研究倫理を習得する。ジェンダー論、ポストコロナル理論をとくに重視する。LGBTQ、女性、人種的マイノリティなど、社会的弱者によって/ついて書かれたテキスト作品を重視する。
備考	使用言語は、日本語及び英語。 西暦偶数年度開講。 0ABAE13 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンス 研究力、専門知識、思考力に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	広義でのテキスト作品 (文学テキスト作品、図像・映像を併用した作品を含む) を通じた文化交流の諸相を知るために、日本語もしくは英語で書かれた、近現代テキスト作品を精読する力を身に着けることができる。学術的レベルでのテキスト作品精読に不可欠な、周辺資料の調査方法 (英語・日本語)、研究資料調査方法を習得することができる。
授業計画	ポストコロナリズム批評入門書を英語で読み、日本語もしくは英語で書かれたテキスト作品研究への、文化理論適用の可能性と問題について考察する。 第 1 回 10/6 イン트로ダクション Ch.1 第 2 回 10/13 Ch.2-3 第 3 回 10/20 Ch. 4-5 第 4 回 10/27 Ch. 6-7 11/5 は吉原学会出張のため休講。 第 5 回 11/10 Ch.8-9 第 6 回 11/17 Ch. 9-10 第 7 回 11/24 Ch.11-12 第 8 回 12/1 Ch. 13 まとめ 第 9 回 12/8 ポストコロナル批評で分析することができる日本語・英語テキストに関して、学生プレゼンテーション 1 第 10 回 12/15 ポストコロナル批評で分析することができる日本語・英語テキストに関して、学生プレゼンテーション 2
履修条件	
成績評価方法	授業への積極的な参加 25%、中間課題 25%、最終課題 50% を基準に、総合的に評価する。 期末課題は、自分が選んだテキスト作品に関して、ポストコロナル批評を適用した学術分析を行う。日本語 10,000 字、英語 5000 ワード目安。形式面も評価対象とする。

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	1. John McLeod, Beginning Postcolonialism
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	階級, ジェンダー, 人種, ポストコロニアル批評

授業科目名	比較文学研究 (1A)
科目番号	02DSA16
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 木 3
担当教員	加藤 百合
授業概要	比較文学のひとつの方法論として翻訳研究を行う。明治時代の言説 (文学論・評論・文芸) を当時の文脈で検証する力をつけることを目標として同時代資料と併せて読み込む訓練を行う。基礎知識となる著作の講読を担当を決めて行う。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE16 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「国際性」「研究力」「専門知識」「思考力」
授業の到達目標 (学修成果)	文学史についての専門知識を深めるために、近代に書かれた文章を初出のかたちで丁寧に講読する。同時代の発言や歴史上京を踏まえて的確に主張を捕捉する思考力を高め研究力を涵養する。
授業計画	近代日本文学の土壌となった時代思想が読み取れるような優れた回想をとりあげ、演習形式で講読を分担しつつ、背景となる時代について、歴史的事象や文芸思潮について、同時代人との対照性について、議論と調査を行いたい。
履修条件	正規のプログラム生以外は前もって相談してください。
成績評価方法	毎回の授業への積極的参加 (担当箇所については、文章を読み辞書のおよび事典的意味の不明な個所がないように、説明できるように、十分準備をして臨む。文献の中から問題を設定しテーマを設定して発表する。全員で議論を行い、知識情報の補足を行い、他の事例との対比などを絶えず取り入れながら理解を深める)。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講読演習 (100%)。講読対象文献および発表テーマのための文献について、予め十分読み込んで自分なりの理解をして授業に臨むこと。発表のレジメ (資料) を人数分つくってこること。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等 (連絡先含む)	随時対応する。メールで面談を予約してください。(QWP10153@nifty.com)
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	初回の授業は、その時間に manaba にアクセスしてください。できるだけ 4 月 22 日くらいまでに TWINS での履修登録をお願いします。その時点で登録が終わっていない受講予定者は、加藤のメールアドレスに受講希望の旨、ご連絡をください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	配置無し
キーワード	文学史, 散文・韻文, 文体, 文学論争, 時代思潮, 翻訳・翻案, 文学受容

授業科目名	比較文学研究 (1B)
科目番号	02DSA17
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 3
担当教員	加藤 百合
授業概要	明治時代の一次資料を丁寧に読む。近代文学を歴史的に位置づけながら追究する。まずは二次資料による現在の解釈を離れて、文献を初出の形で読むことによる研究方法を学ぶ。受講者の知識の領域や興味の範囲を勘案してより具体的な計画をたてる。自らが研究している領域のなかから翻訳・翻案に関わるテーマを見出して発表を準備したうえで、履修者で討論・検討を行う。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE17 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「国際性」「研究力」「専門知識」「思考力」
授業の到達目標（学修成果）	文学史についての専門知識を深めるために、近代に書かれた文章を初出のかたちで丁寧に講読する。同時代の発言や歴史状況を踏まえて的確に主張を捕捉する思考力を高め研究力を涵養する。
授業計画	近代日本文学の土壌となった時代思想が読み取れるような優れた回想をとりあげ、演習形式で講読を分担しつつ、背景となる時代について、歴史的事象や文芸思潮について、同時代人との対照性について、議論と調査を行う訓練をする。
履修条件	正規のプログラム生以外は前もって相談してください。
成績評価方法	毎回の授業への積極的参加（担当箇所については、文章を読み辞書のおよび事典的意味の不明な個所がないように、説明できるように、十分準備をして臨む。文献の中から問題を設定しテーマを設定して発表する。全員で議論を行い、知識情報の補足を行い、他の事例との対比などを絶えず取り入れながら理解を深める）。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講読演習（100%）。講読対象文献および発表テーマのための文献について、予め十分読み込んで自分なりの理解をして授業に臨むこと。発表のレジメ（資料）を人数分つくってくること。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	随時対応する。メールで面談を予約してください。（QWP10153@nifty.com）
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	配置無し

キーワード

文学史, 散文・韻文, 文体, 文学論争, 時代思潮, 翻訳・翻案, 文学受容

授業科目名	古典古代学研究 (1A)
科目番号	02DSA21
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 金 5
担当教員	秋山 学
授業概要	ルネサンス期のラテン語・イタリア語文献を原典で講読する。ルネサンス期イタリアの文化は、三代にわたるメディチ家の人々、すなわちコジモ (1389-1464)、ピエロ (1416-1469)、ロレンツォ (1449-1492) の治世に極まる。この授業ではロレンツォによる『書簡集』を系統的に講読し、芸術家や文化人たちとの交流の諸相を浮き彫りにする。テキストとしては、リッカルド・フビーニ編による『書簡集』より第 1 巻 (1460-1474) を扱う。また必要に応じて聖書に言及し、神学的背景を辿る。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE21 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1:知の活用力」「5:国際性」、専門コンピテンス「1:研究力」「2:専門知識」「4:思考力」に対応する。
授業の到達目標 (学修成果)	イタリア・ルネサンス研究の基礎的知識を身に付ける意味で、今年度はまずジョルジョ・ヴァザーリ『芸術家列伝』をイタリア語原典で講読する。ルネサンス美術史の基本的な知識を身につけるとともに、イタリア語の基礎的文献読解力を高める。
授業計画	ジョルジョ・ヴァザーリの『芸術家列伝』をイタリア語原典で読み進む。背景となる美術史的背景や、ラテン語的表現などについても注意を払う。 リアルタイムで manaba を通じての授業を行います。オンライン授業に参加するための詳細な情報は manaba の当該コースに掲載します。 第 1 回 Giorgio Vasari: Proemio della terza parte delle vite (1); p.3 第 2 回 Giorgio Vasari: Proemio della terza parte delle vite (2); p.4 第 3 回 Giorgio Vasari: Proemio della terza parte delle vite (3); p.5 第 4 回 Giorgio Vasari: Proemio della terza parte delle vite (4); p.6 第 5 回 Giorgio Vasari: Proemio della terza parte delle vite (5); p.7 第 6 回 Giorgio Vasari: Proemio della terza parte delle vite (6); p.8 第 7 回 Giorgio Vasari: Proemio della terza parte delle vite (7); p.9 第 8 回 Giorgio Vasari: Proemio della terza parte delle vite (8); p.10 第 9 回 Giorgio Vasari: Proemio della terza parte delle vite (9); p.11 第 10 回 Giorgio Vasari: Proemio della terza parte delle vite (10); p.12-13 第 11 回 学期末試験。
履修条件	イタリア語を履修していなくても差し支えないが、ラテン語初級をすでに履修していることを望みたい。
成績評価方法	授業参加への積極性 40% と学期末試験 60% により評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	イタリア語の文法知識を確実にすべく予習復習、文法書の確認に時間を割かれたい。

教材・参考文献・配付資料等	<p>必要なテキストは適宜コピーして配布する。</p> <p>1. Rosanna Bettarini (a cura di), Giorgio Vasari: Le vite de' pi ù eccellenti pittori scultori e architettori, Studio per edizioni scelte, Firenze (1550 e 1568).</p>
オフィスアワー等（連絡先含む）	akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に適宜連絡を取られたい。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>初回 5 月 1 日 5 限の授業は、その時間に manaba 上で、資料を配布し授業の進め方を説明するので、必ず manaba にアクセスされたい。4 月 22 日頃までに TWINS で履修登録をされたい。その時点で登録が終わっていない受講予定者は、akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に受講希望の旨、連絡されたい。</p> <p>ラテン語初級は学類対象に開講しているが、履修希望者は適宜相談されたい。</p> <p>他の授業科目との関連:学類対象のラテン語・ギリシア語初級, 古典文学史など, 必要に応じて聴講されたい。適宜教員に連絡して相談されたい。</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	イタリア語, ルネサンス研究, 美術史, ラテン語.

授業科目名	古典古代学研究 (1B)
科目番号	02DSA22
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 金 5
担当教員	秋山 学
授業概要	ルネサンス期のラテン語・イタリア語文献を原典で講読する。ルネサンス期イタリアの文化は、三代にわたるメディチ家の人々、すなわちコジモ (1389-1464)、ピエロ (1416-1469)、ロレンツォ (1449-1492) の治世に極まる。この授業ではロレンツォによる『書簡集』を系統的に講読し、芸術家や文化人たちとの交流の諸相を浮き彫りにする。テキストとしては、リッカルド・フビーニ編による『書簡集』より第 2 巻 (1474-1478) を扱う。また必要に応じて聖書に言及し、神学的背景を辿る。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE22 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1:知の活用力」「5:国際性」、専門コンピテンス「1:研究力」「2:専門知識」「4:思考力」に対応する。
授業の到達目標 (学修成果)	イタリア・ルネサンス研究の基礎的知識を身に付ける意味で、今学期も継続してジョルジョ・ヴァザーリ『芸術家列伝』をイタリア語原典で講読する。ルネサンス美術史の基本的な知識を身につけるとともに、イタリア語の基礎的文献読解力を高める。
授業計画	ジョルジョ・ヴァザーリの『芸術家列伝』をイタリア語原典で読み進む。背景となる美術史的背景や、ラテン語的表現などについても注意を払う。 第 1 回 Giorgio Vasari: Vita di Leonardo da Vinci (1); p.15 第 2 回 Giorgio Vasari: Vita di Leonardo da Vinci (2); p.16 第 3 回 Giorgio Vasari: Vita di Leonardo da Vinci (3); p.17 第 4 回 Giorgio Vasari: Vita di Leonardo da Vinci (4); p.18 第 5 回 Giorgio Vasari: Vita di Leonardo da Vinci (5); p.19 第 6 回 Giorgio Vasari: Vita di Leonardo da Vinci (6); p.20 第 7 回 Giorgio Vasari: Vita di Leonardo da Vinci (7); p.21 第 8 回 Giorgio Vasari: Vita di Leonardo da Vinci (8); p.22 第 9 回 Giorgio Vasari: Vita di Leonardo da Vinci (9); p.23 第 10 回 Giorgio Vasari: Vita di Leonardo da Vinci (10); p.24 第 11 回学期末試験。
履修条件	イタリア語を履修していなくても差し支えないが、ラテン語初級をすでに履修していることを望みたい。
成績評価方法	授業参加への積極性 40% と学期末試験 60% により評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	イタリア語の文法知識を確実にすべく予習復習、文法書の確認に時間を割かれない。
教材・参考文献・配付資料等	必要なテキストは適宜コピーして配布する。 1. Rosanna Bettarini (a cura di), Giorgio Vasari: Le vite de' pi ù eccellenti pittori scultori e architettori, Studio per edizioni scelte, Firenze (1550 e 1568).

オフィスアワー等（連絡先含む）	akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に適宜連絡を取られたい。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	ラテン語初級は学類対象に開講しているが、履修希望者は適宜相談されたい。 他の授業科目との関連:学類対象のラテン語・ギリシア語初級, 古典文学史など, 必要に応じて聴講されたい。適宜教員に連絡して相談されたい。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	イタリア語, ルネサンス研究, 美術史, ラテン語.

授業科目名	古典古代学演習 (1A)
科目番号	02DSA25
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 金 2
担当教員	秋山 学
授業概要	弘法大師空海以来、本邦での一千年に及ぶ梵字悉曇学の伝承を、江戸期に『梵学津梁』全1千巻のかたちで集大成した慈雲尊者飲光のヴィジョンを継承し、サンスクリット文献学を悉曇学の延長線上において捉える。サンスクリット文法に関しては、辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波全書、1974年)の体系的記述を全面的に参照する。テキストとしては『普賢行願讃』の本文伝承を論じ、かつ併せて本邦における仏教諸派の教義史をも参照する。また印欧語文法学を参照し、ギリシア語・文学にも論及する。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE25 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1:知の活用力」「5:国際性」、専門コンピテンス「1:研究力」「2:専門知識」「3:倫理観」「4:思考力」に対応する。
授業の到達目標(学修成果)	サンスクリット仏教文献の基礎的知識を身に付ける意味で、ジャータカマーラ(本生譚)を読む。デーヴァナーガリーで読むのが理想であるが、まず手始めに辻直四郎『読本』よりアルファベット化したテキストを用いてジャータカの文体に慣れる。秋学期にはデーヴァナーガリーテキストを用いる予定。
授業計画	ジャータカマーラ(本生譚)をサンスクリット原典で講読する。春学期は「免本生」を読む予定。 リアルタイムでmanabaを通じての授業を行います。オンライン授業に参加するための詳細な情報はmanabaの当該コースに掲載します。 第1回免本生(1),p.88. 第2回免本生(2),p.88-89. 第3回免本生(3),p.89. 第4回免本生(4),p.89-90. 第5回免本生(5),p.90. 第6回免本生(6),p.91. 第7回免本生(7),p.92. 第8回免本生(8),p.93. 第9回免本生(9),p.94. 第10回免本生(10),p.95. 第11回学期末試験。
履修条件	サンスクリットの初級を終えていることが望ましい。
成績評価方法	授業参加への積極性 40% と学期末試験 60% により評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	サンスクリット文法の知識を確実にすべく、予習復習に励まされたい。

教材・参考文献・配付資料等	<p>必要な資料は適宜コピーして配布する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 辻直四郎, 『サンスクリット読本』春秋社,1975. 2. 辻直四郎, 『サンスクリット文法』岩波書店,1974. 3. 辻直四郎校閲 鎧淳訳, J. ゴンダ 『サンスクリット語初等文法』春秋社,1974. 4. 干潟龍祥, 『本生経類の思想史的研究』山喜房,1978.
オフィスアワー等（連絡先含む）	akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に適宜連絡を取られたい。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>初回 5 月 1 日 2 限の授業は、その時間に manaba 上で、資料を配布し授業の進め方を説明するので、必ず manaba にアクセスされたい。4 月 22 日頃までに TWINS で履修登録をされたい。その時点で登録が終わっていない受講予定者は、akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に受講希望の旨、連絡されたい。</p> <p>サンスクリット初級は学類対象に開講しているので、必要なら履修されたい。適宜教員に連絡を取り、相談されたい。</p> <p>他の授業科目との関連:サンスクリット初級。</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	サンスクリット, ジャータカマーラ (本生譚), 辻直四郎, 干潟龍祥.

授業科目名	古典古代学演習 (1B)
科目番号	02DSA26
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 金 2
担当教員	秋山 学
授業概要	弘法大師空海以来、本邦での一千年に及ぶ梵字悉曇学の伝承を、江戸期に『梵学津梁』全1千巻のかたちで集大成した慈雲尊者欽光のヴィジョンを継承し、サンスクリット文献学を悉曇学の延長線上において捉える。サンスクリット文法に関しては、辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波全書、1974年)の体系的記述を全面的に参照する。テキストとしては『阿弥陀経』の本文伝承を論じ、かつ併せて本邦における仏教諸派の教義史をも参照する。また印欧語文学を参照し、ギリシア語・文学にも論及する。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE26 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1:知の活用力」「5:国際性」、専門コンピテンス「1:研究力」「2:専門知識」「3:倫理観」「4:思考力」に対応する。
授業の到達目標(学修成果)	サンスクリット仏教文献の基礎的知識を身に付ける意味で、今学期もジャータカマール(本生譚)を読む。春学期の学習を承け、秋学期はデーヴァナーガリー字体のテキストで読む。ジャータカの原典に親しみ、数々の説話に題材を提供した大乘仏教の源泉に触れる。
授業計画	ジャータカマール(本生譚)をサンスクリット原典で講読する。秋学期は「尺毘本生」を読む予定。 第1回講 ibij taka (1), p.6. 第2回講 ibij taka (2), p.6-7. 第3回講 ibij taka (3), p.7. 第4回講 ibij taka (4), p.8. 第5回講 ibij taka (5), p.9. 第6回講 ibij taka (6), p.10. 第7回講 ibij taka (7), p.11. 第8回講 ibij taka (8), p.12. 第9回講 ibij taka (9), p.13. 第10回講 ibij taka (10), p.14. 第11回学期末試験。
履修条件	サンスクリット初級を履修してあることが望ましい。
成績評価方法	授業参加への積極性 40% と学期末試験 60% により評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	サンスクリット文法の知識を確実にすべく、予習復習に励まされたい。
教材・参考文献・配付資料等	必要な資料・テキストは適宜コピーして配布する。 1. Hendrik Kern (ed.), The J taka-Mala, Indological Book House, Varanasi 1972. 2. 干潟龍祥, 『本生経類の思想史的研究』山喜房, 1978. 3. 辻直四郎, 『サンスクリット文法』岩波全書, 1974.
オフィスアワー等(連絡先含む)	akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に適宜連絡を取られたい。

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>サンスクリット初級は学類対象に開講しているので、必要なら履修されたい。適宜教員に連絡を取り、相談されたい。</p> <p>他の授業科目との関連:サンスクリット初級.</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	サンスクリット, ジャータカマーラ (本生譚), 辻直四郎, 干潟龍祥.

授業科目名	和漢比較文学研究 (1A)
科目番号	02DSA29
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 4
担当教員	谷口 孝介
授業概要	古代和歌の表現に習熟し、古代文学関連の文献の扱い方を学ぶことを主な目的とし、『古今和歌集』から「寛平御時后宮歌合」歌を取りあげる。なかでも『新撰万葉集』所収歌について和歌を翻案した漢詩との表現の異同を考察する。あわせて詩的言語の注解方法に習熟するとともに『万葉集』から『古今和歌集』に到る古代和歌の表現形成を探求する。扱う資料の概観を行った後、12 番歌、13 番歌について演習担当者を決めて報告を求め、討議を行う。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE29 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」「5. 国際性」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「3. 倫理観」「4. 思考力」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	相対性のなかで文学表現の価値を考察することができるようになる
授業計画	各歌担当者が古今集歌の諸本の異同、諸注釈所説を整理したうえで、漢詩翻案の方法について考える。 第 1 回講義の目的と方法 第 2 回講義で扱う資料の概観 第 3 回古今集 12 番歌の校異の検討 第 4 回古今集 12 番歌の注解と討議 第 5 回古今集 12 番歌翻案漢詩の校異の検討 第 6 回古今集 12 番歌翻案漢詩の注解と討議 第 7 回古今集 13 番歌の校異の検討 第 8 回古今集 13 番歌の注解と討議 第 9 回古今集 13 番歌翻案漢詩の校異の検討 第 10 回古今集 13 番歌翻案漢詩の注解と討議
履修条件	
成績評価方法	1 評価方法:分担箇所の注釈報告及び討議参加の態度 2 割合:報告 70%、討議参加 30% 3 評価基準:問題点を整理することができたか、解決のいとぐちを提示することができたかを基準に評価する
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	1 講義 (30%) と演習 (70%) とを併用する 2 次回の授業範囲を予習し、注釈などに目を通しておくこと
教材・参考文献・配付資料等	とくに定めないが、各自『古今集』の全注本を用意しておくこと。 1. 久曾神昇, 『古今和歌集成立論』風間書房,1960,1961 2. 西下経一・滝沢貞夫編, 『古今集校本』笠間書院,1977 3. 片桐洋一, 『古今和歌集全評釈』講談社,1998 4. 新撰万葉集研究会編, 『新撰万葉集注釈』巻上 (一)(二) 和泉書院,2005・2006
オフィスアワー等（連絡先含む）	木:3 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm at u.tsukuba.ac.jp

<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>初回 4 月 28 日 4 限の授業は、その時間に manaba 上で、資料を配布し授業の進め方を説明しますので、必ず manaba にアクセスしてください。できるだけ 4 月 22 日くらいまでに TWINS での履修登録をお願いします。</p> <p>その時点で登録が終わっていない受講予定者は、谷口のメールアドレスに受講希望の旨、ご連絡をください。</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	
<p>キーワード</p>	<p>古今集, 和歌, 漢詩, 詩的言語, 翻案, 異言語接触</p>

授業科目名	和漢比較文学研究 (1B)
科目番号	02DSA31
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 火 4
担当教員	谷口 孝介
授業概要	古代和歌の表現に習熟し、古代文学関連の文献の扱い方を学ぶことを主な目的とする。『古今和歌集』から「寛平御時后宮歌合」歌を取りあげる。なかでも『新撰万葉集』所収歌について和歌を翻案した漢詩との表現の異同を考察する。あわせて詩的言語の注解方法に習熟するとともに『万葉集』から『古今和歌集』に到る古代和歌の表現形成を探求する。15 番歌、46 番歌について演習担当者を決めて報告を求め、討議を行う。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE31 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」「5. 国際性」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	文化・言語の接触において生じる新しい価値について思考できるようになる
授業計画	各歌担当者が古今集歌の諸本の異同、諸注釈所説を整理したうえで、漢詩翻案の方法について考える。 第 1 回講義の目的と方法 第 2 回講義で扱う資料の概観 第 3 回古今集 15 番歌の校異の検討 第 4 回古今集 15 番歌の注解と討議 第 5 回古今集 15 番歌翻案漢詩の校異の検討 第 6 回古今集 15 番歌翻案漢詩の注解と討議 第 7 回古今集 46 番歌の校異の検討 第 8 回古今集 46 番歌の注解と討議 第 9 回古今集 46 番歌翻案漢詩の校異の検討 第 10 回古今集 46 番歌翻案漢詩の注解と討議
履修条件	
成績評価方法	1 評価方法:分担箇所の注釈報告及び討議参加の態度 2 割合:報告 70%、討議参加 30% 3 評価基準:問題点を整理することができたか、解決のいとぐちを提示することができたかを基準に評価する
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	1 講義 (30%) と演習 (70%) とを併用する 2 次回の授業範囲を予習し、注釈などに目を通しておくこと
教材・参考文献・配付資料等	とくに定めないが、各自『古今集』の全注本を用意しておくこと。 1. 久曾神昇, 『古今和歌集成立論』風間書房,1960・1961 2. 西下経一・滝沢貞夫編, 『古今集校本』笠間書院,1977 3. 片桐洋一, 『古今和歌集全評釈』講談社,1998 4. 新撰万葉集研究会編, 『新撰万葉集注釈』巻上 (一)(二) 和泉書院,2005・2006
オフィスアワー等（連絡先含む）	木:3 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm at u.tsukuba.ac.jp

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	古今集, 和歌, 漢詩, 詩的言語, 翻案, 異言語接触

授業科目名	日本古典文学研究 (1A)
科目番号	02DSA34
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 木 5
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』注釈所引の年代記類をとりあげ、私撰国史のひろがりについて考える。あわせて、問題を自分のものとするために考察を進める技術、知識を得る。具体的には、『源氏物語』、『源氏物語』注釈史と、時代をつうじてさまざまに書かれた年代記類とが不可分にかかわりをもつことを、年表型、三国対照型の形式をもつものに中心的に注目して考察する。また、『源氏物語』の全巻注釈の早い段階の注釈書類が依拠したと指摘されている『一代要記』をとりあげ、双方のかかわりを具体例の精査のなかで展望する。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE34 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「批判的・創造的思考力」、「文化的現象の分析力」、「国際的な主体性」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	広い視野の上に立つ国際的なコミュニケーション能力・主体性の養成に不可欠な日本・アジア領域における文化研究の知識・方法について学修する。 『源氏物語』薄雲巻をよむ。古注所引の歴史記述に注目し、史実と物語のあいだについて考え、年代記類生成の現場を探ることをめざす。
授業計画	『源氏物語』薄雲巻をよむ。 第1回資料の調べ方にかんする演習。 第2回『源氏物語』注釈書概説(古注)。 第3回『源氏物語』注釈書概説(旧注)。 第4回年代記類と『源氏物語』注釈について。 第5回『源氏物語』古注所引の歴史記述について。 第6回『源氏物語』薄雲巻演習(導入演習。第一回)。 第7回『源氏物語』薄雲巻演習(導入演習。第二回)。 第8回『源氏物語』薄雲巻演習(古注所引の年代記類にかんする演習。第一回)。 第9回『源氏物語』薄雲巻演習(古注所引の年代記類にかんする演習。第二回)。 第10回まとめの討議。
履修条件	
成績評価方法	演習参加(報告と討議)による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業外における学修は、図書館に所蔵される資料を中心に行えるよう、毎時指示する。学修時間にかんしても、その際に指定する。
教材・参考文献・配付資料等	1. 角川ソフィア文庫『源氏物語 四』
オフィスアワー等(連絡先含む)	金 6 限オフィスアワー。電子メールでご連絡のうえ、いらっしゃるのが確実です。 人文社会学系棟 A605 yoshimori.kanako.fn at u.tsukuba.ac.jp

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	今学期の授業のすすめ方については、初回授業時頃、manaba 上で指示する予定です。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	『源氏物語』，『一代要記』，年代記

授業科目名	日本古典文学研究 (1B)
科目番号	02DSA35
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 5
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	文学史という視点で『源氏物語』をよみ、中古、中世の教養の基盤について考察する知識、技術を得る。注釈史、享受史がとぎれることがなかったという点で『源氏物語』は、物語作品として特異な存在といえる。そのことに留意し、『源氏物語』を文学史のなかで捉えだすことをこころみる。その過程でとくに、伝本の問題に注目する。これまで書物の伝来の問題として注目されてきた『源氏物語』の諸本について、その注釈史と不可分の問題をもつことについて具体的に考察する。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE35 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「批判的・創造的思考力」、「文化的現象の分析力」、「国際的な主体性」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	広い視野の上に立つ国際的なコミュニケーション能力・主体性の養成に不可欠な日本・アジア領域における文化研究の知識・方法について学修する。 『源氏物語』薄雲巻をよむ。古注と旧注のあいだに注目して、注釈史を学ぶ。あわせて、問題を自分のものとするために考察を進める技術、知識を得る。
授業計画	『源氏物語』薄雲巻をよむ。 第1回『源氏物語』注釈史概説。 第2回『源氏物語』薄雲巻演習（注釈史導入演習）。 第3回『源氏物語』薄雲巻演習（『紫明抄』第一回）。 第4回『源氏物語』薄雲巻演習（『紫明抄』第二回）。 第5回『源氏物語』薄雲巻演習（『河海抄』第一回）。 第6回『源氏物語』薄雲巻演習（『河海抄』第二回）。 第7回『源氏物語』薄雲巻演習（『河海抄』第三回）。 第8回『源氏物語』薄雲巻演習（『花鳥余情』第一回）。 第9回『源氏物語』薄雲巻演習（『花鳥余情』第二回）。 第10回まとめの討議。
履修条件	
成績評価方法	演習参加（報告と討議）による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業外における学修は、図書館に所蔵される資料を中心に行えるよう、毎時指示する。学修時間にかんしても、その際に指定する。
教材・参考文献・配付資料等	1. 角川ソフィア文庫『源氏物語 四』
オフィスアワー等（連絡先含む）	金 6 限オフィスアワー。電子メールでご連絡のうえ、いらっしゃるのが確実です。 人文社会学系棟 A605 yoshimori.kanako.fn at u.tsukuba.ac.jp

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	『源氏物語』，『河海抄』，『花鳥余情』

授業科目名	日本古典文学研究 (2A)
科目番号	02DSA36
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 木 4
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』注釈史の問題をとりあげる。注釈史のなかで『源氏物語』中の語に漢字をあて、出典を記す注が見られる。それらが、同時代の字書類に引用されて『源氏物語』を離れて生きていった実態をあきらかにすることをこころみる。さらに、従来、近代以降の常識ではジャンルが異なるため、そのかわりについて注目されることの少なかった『三教指帰』と『源氏物語』注釈史とがかわりをもつことについて考察する。近代以降『源氏物語』理解とのかかわりがわからなくなっていた注がどのような空間のなかで生きていたかについて具体的に考察してゆく。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAE36 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	
授業計画	
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	日本古典文学研究 (2B)
科目番号	02DSA37
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 5
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』について、文学史の諸問題を意識し、本文間の異文が生じた経緯を、注釈書、梗概書の記事から考察する。さらに、享受者に、武士、連歌師が加わったことで、この作品の理解がどのように変わっていったかを具体的に考え、『源氏物語』の本文、注釈の歴史について、考察をすすめる技術、知識を得る。また、平安物語作品で、注釈史のとぎれることのなかった特異な作品として、『源氏物語』の他に『伊勢物語』を指摘できるが、その双方が引用する漢籍が、直接引用ではなく、清原宣賢周辺の抄物経由であることを指摘、その宣賢が依拠したものという視点から、中世・近世期の教養の基盤をなす『日本書紀』注釈史との接点についても考察してゆく。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAE37 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	
授業計画	
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	日本近代文学研究 (1A)
科目番号	02DSA38
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 木 4
担当教員	馬場 美佳
授業概要	近代の作品 (散文) について、歴史的・文化的背景をできるだけ明確することで、同時代的な文脈における実証的な観点からの評価を試みるものである。とくに前近代から近代にかけての変革期である明治期の文学を扱う。出版事情等の書誌的な調査も重視する。授業は演習形式で行い、語釈・注釈などの調査事項と、作品解釈について各自発表を行ってもらうものとする。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE38 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の活用力」「コミュニケーション能力」「研究力」「専門知識」「思考力」「総合力」に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	日本近代文学研究の態度から、発展的な課題を発見すること。
授業計画	作品を丁寧に語釈・注釈し、同時代のいかなる文学観や創作方法を念頭に置いて書かれているか分析していく。演習形式。 第 1 回日本近代文学の特徴について概説 (明治篇) 第 2 回幕末期の散文 第 3 回幕末期の韻文 第 4 回明治前期の散文 第 5 回明治前期の韻文 第 6 回明治中期の散文 第 7 回明治中期の韻文 第 8 回明治後期の散文 第 9 回明治後期の韻文 第 10 回総括
履修条件	
成績評価方法	1 人 1 回以上の演習担当およびその成果、かつ演習への参加態度によって評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	テキストの詳細は授業初回時に提示する。配布資料は発表担当者が人数分用意する。 1. 『新古典文学大系明治編』(岩波書店) 2. 『文藝時評大系』明治篇 (ゆまに書房)
オフィスアワー等 (連絡先含む)	
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	【初回注意】受講希望者は初回授業時に manaba にアクセスし、コースニュースの内容を確認してください。

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	日本近代文学, 明治文学, 散文, 韻文

授業科目名	日本近代文学研究 (1B)
科目番号	02DSA39
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 4
担当教員	馬場 美佳
授業概要	近代の作品 (散文) について、歴史的・文化的背景をできるだけ明確することで、同時代的な文脈における実証的な観点からの評価を試みるものである。とくに近代の文学的諸制度が確立・隆盛する大正・昭和期の文学を扱う。出版事情等の書誌的な調査も重視する。授業は演習形式で行い、語釈・注釈などの調査事項と、作品解釈について各自発表を行ってもらおうものとする。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE39 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の活用力」「コミュニケーション能力」「研究力」「専門知識」「思考力」「総合力」に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	日本近代文学研究の態度から、発展的な課題を発見すること。
授業計画	作品を丁寧に語釈・注釈し、同時代のいかなる文学観や創作方法を念頭に置いて書かれているか分析していく。演習形式。 第 1 回日本近代文学の特徴について概説 (大正篇) 第 2 回大正前期の散文 第 3 回大正前期の韻文 第 4 回大正中期の散文 第 5 回大正中期の韻文 第 6 回大正後期の散文 第 7 回大正後期の韻文 第 8 回大正末期の散文 第 9 回大正末期の韻文 第 10 回総括
履修条件	
成績評価方法	1 人 1 回以上の演習担当およびその成果、かつ演習への参加態度によって評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	テキストの詳細は授業初回時に提示する。配布資料は発表担当者が人数分用意する。 1. 『編年体大正文学全集』(ゆまに書房) 2. 『文藝時評大系』大正篇 (ゆまに書房)
オフィスアワー等 (連絡先含む)	
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	日本近代文学, 大正文学, 散文, 韻文

授業科目名	日本近代文学研究 (2A)
科目番号	02DSA41
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 木 4
担当教員	馬場 美佳
授業概要	近代の作品 (韻文) について、歴史的・文化的背景をできるだけ明確することで、同時代的な文脈における実証的な観点からの評価を試みるものである。とくに前近代から近代にかけての変革期である明治期の文学を扱う。出版事情等の書誌的な調査も重視する。授業は演習形式で行い、語釈・注釈などの調査事項と、作品解釈について各自発表を行ってもらうものとする。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAE41 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の活用力」「コミュニケーション能力」「研究力」「専門知識」「思考力」「総合力」に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	日本近代文学研究の態度から、発展的な課題を発見すること。
授業計画	作品を丁寧に語釈・注釈し、同時代のいかなる文学観や創作方法を念頭に置いて書かれているか分析していく。演習形式。 第 1 回日本近代文学の特徴について概説 (昭和戦前~終戦期篇) 第 2 回昭和初期の散文 第 3 回昭和初期の韻文 第 4 回昭和戦中・前期の散文 第 5 回昭和戦中・前期の韻文 第 6 回昭和戦中・後期の散文 第 7 回昭和終中・後期の韻文 第 8 回昭和終戦期の散文 第 9 回昭和終戦期の韻文 第 10 回総括
履修条件	
成績評価方法	1 人 1 回以上の演習担当およびその成果、かつ演習への参加態度によって評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	テキストの詳細は授業初回時に提示する。配布資料は発表担当者が人数分用意する。 1. 『文藝時評大系』昭和篇 1~3(ゆまに書房)
オフィスアワー等 (連絡先含む)	
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	日本近代文学, 昭和文学, 散文, 韻文

授業科目名	日本近代文学研究 (2B)
科目番号	02DSA42
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 4
担当教員	馬場 美佳
授業概要	近代の作品 (韻文) について、歴史的・文化的背景をできるだけ明確することで、同時代的な文脈における実証的な観点からの評価を試みるものである。とくに近代の文学的諸制度が確立・隆盛する大正・昭和期の文学を扱う。出版事情等の書誌的な調査も重視する。授業は演習形式で行い、語釈・注釈などの調査事項と、作品解釈について各自発表を行ってもらおうものとする。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAE42 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の活用力」「コミュニケーション能力」「研究力」「専門知識」「思考力」「総合力」に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	日本近代文学研究の態度から、発展的な課題を発見すること。
授業計画	作品を丁寧に語釈・注釈し、同時代のいかなる文学観や創作方法を念頭に置いて書かれているか分析していく。演習形式。 第 1 回日本近代文学の特徴について概説 (昭和戦後~平成篇) 第 2 回昭和戦後占領期の散文 第 3 回昭和戦後占領期の韻文 第 4 回昭和中期の散文 第 5 回昭和中期の韻文 第 6 回昭和後期の散文 第 7 回昭和後期の韻文 第 8 回平成期の散文 第 9 回平成期の韻文 第 10 回総括
履修条件	
成績評価方法	1 人 1 回以上の演習担当およびその成果、かつ演習への参加態度によって評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	テキストの詳細は授業初回時に提示する。配布資料は発表担当者が人数分用意する。 1. 『戦後占領期短篇小説コレクション』(藤原書店) 2. 『文藝時評大系』昭和篇 1~3(ゆまに書房)
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本近代文学, 昭和文学, 平成文学, 散文, 韻文

授業科目名	イギリス文学研究 (1A)
科目番号	02DSA43
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 5
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	この授業は、(1) シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の基本的技能の習得、(2) 先行研究のサーヴェイ力の構築、(3) 論文作成技術の習得、の3点を到達目標としている。具体的には、OED 等に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この2点を軸として、Twelfth Night を対象にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を議論を通して涵養する。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE43 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の活用力」「専門知識」「思考力」「総合力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	シェイクスピアの戯曲テキストを正確に読解でき、専門知識を習得できるようになる。先行研究についての的確なサーヴェイと重要なデータの抽出ができるようになる。論理的で説得力のある論文作成のスキルを習得することができ、思考力を涵養することができるようになる。
授業計画	第1回イントロダクション 第2回*Twelfth Night*1 幕1場並びに1幕2場前半部の講読および議論 第3回*Twelfth Night*1 幕2場後半部並びに1幕3場前半部の講読および議論 第4回*Twelfth Night*1 幕3場後半部の講読および議論 第5回*Twelfth Night*1 幕4場並びに1幕5場前半部の講読および議論 第6回*Twelfth Night*1 幕5場中盤部の講読および議論 第7回*Twelfth Night*1 幕5場後半部の講読および議論 第8回*Twelfth Night*2 幕1場並びに2幕2場の講読および議論 第9回*Twelfth Night*2 幕3場前半部の講読および議論 第10回*Twelfth Night*2 幕3場後半部の講読および議論並びにまとめ
履修条件	
成績評価方法	A. 平常パフォーマンス (40%): 「知の活用力」「専門知識」「思考力」「総合力」 B. 期末レポート (60%): 「知の活用力」「専門知識」「思考力」「総合力」
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	予習時に参考文献を精読し、専門用語の意味を正確に理解しておくこと。
教材・参考文献・配付資料等	1. Keir Elam, ed., *Twelfth Night, The Arden Shakespeare, Third Series* 出版社: Bloomsbury 発行年: 2008 ISBN: 978-1-903436-99-8

オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	初回授業の日時に manaba のこの科目のコースにアクセスしてください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	シェイクスピア, エリザベス朝演劇, 祝祭喜劇

授業科目名	イギリス文学研究 (1B)
科目番号	02DSA44
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 火 5
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	この授業は、(1) シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の発展的技術の習得、(2) 先行研究のサーヴェイカの構築、(3) 論文作成技術の習得、の3点を到達目標としている。具体的には、OED 等に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この2点を軸として、Twelfth Night を対象にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を涵養した上で、オリジナリティのある論文作成のスキルを議論を通して習得させる。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE44 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の活用力」「専門知識」「思考力」「総合力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	シェイクスピアの戯曲テキストを正確に読解でき、専門知識を習得できるようになる。先行研究についての的確なサーヴェイと重要なデータの抽出ができるようになる。論理的で説得力のある論文作成のスキルを習得することができ、思考力を涵養することができるようになる。
授業計画	第1回*Twelfth Night*3 幕 2 場の講読および議論 第2回*Twelfth Night*3 幕 3 場の講読および議論 第3回*Twelfth Night*3 幕 4 場前半部の講読および議論 第4回*Twelfth Night*3 幕 4 場中盤部の講読および議論 第5回*Twelfth Night*3 幕 4 場後半部 (1) の講読および議論 第6回*Twelfth Night*3 幕 4 場後半部 (2) の講読および議論 第7回*Twelfth Night*4 幕 1 場の講読および議論 第8回*Twelfth Night*4 幕 2 場前半部の講読および議論 第9回*Twelfth Night*4 幕 2 場後半部並びに 4 幕 3 場の講読および議論 第10回*Twelfth Night*5 幕 1 場前半部の講読および議論並びにまとめ
履修条件	
成績評価方法	A. 平常パフォーマンス (30%): 「知の活用力」「専門知識」「思考力」「総合力」 B. 期末レポート (70%): 「知の活用力」「専門知識」「思考力」「総合力」
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	予習時に参考文献を精読し、専門用語の意味を正確に理解しておくこと。

教材・参考文献・配付資料等	1. Keir Elam, ed., *Twelfth Night, The Arden Shakespeare, Third Series* 出版社: Bloomsbury 発行年: 2008 ISBN: 978-1-903436-99-8
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	シェイクスピア, エリザベス朝演劇, 祝祭喜劇

授業科目名	フランス文学研究 (1A)
科目番号	02DSA52
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 金 3
担当教員	小川 美登里
授業概要	20 世紀以降のフランス文学作品の精読を中心として、作品の作られた背景や歴史、同時代の作品との関連などについて考察する。とりわけ第二次世界大戦後の文学作品と批評 (内在批評、記号論分析、精神分析など) との関係にも触れることで、文学研究の方法論を学ぶ。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE52 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンス 2「専門知識」
授業の到達目標 (学修成果)	フランス語で書かれた作品 (詩、小説、批評など) を読解する能力を身につけることで、分析能力を養う。
授業計画	フランス文学作品をフランス語で精読することによって読解能力を養うとともに、分析に必要なスキルを身につける。また、原文の日本語への翻訳作業をとおして前景化される言語や翻訳をめぐる問題にも着目することによって、フランス文学という分析対象の内部と外部からの批評を試みる。 第 1 回イントロダクション:フランス文学の眺望 (二十世紀以降のフランス文学) 第 2 回エコクリティークとは何か:ロマン主義の遺産と二十世紀文学の特徴 (シュールレアリズムを中心に) 第 3 回「物の見方」とフランシス・ポンジュにおけるエコ・ミメシス 第 4 回フランス現代詩と自然 (フィリップ・ジャコテ) 第 5 回小説は自然を語るか:マルグリット・デュラスと自然 (1) 第 6 回小説は自然を語るか:マルグリット・デュラスと自然 (2) 第 7 回植民地とエコロジー:オクターブ・マヌイを中心に 第 8 回学生による発表 (1) 第 9 回学生による発表 (2) 第 10 回授業の総括とまとめ 扱うテキストは詩、小説、批評など多岐に渡るが、その具体的な選定については、受講者の研究テーマや興味に合わせて対応する。
履修条件	テキストを読解するために必要なフランス語能力 (初級・中級程度の文法習得者)
成績評価方法	1 評価方法:授業参加、授業内での発表 2 割合:授業参加 50 パーセント、発表 50 パーセント 3 評価基準:授業内での参加態度、発表の評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業内で扱うテキストの予習、授業内の発表の準備

教材・参考文献・配付資料等	教材や参考文献については、適宜、授業内で指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	基本的には水曜午後であるが、あらかじめ連絡をとることが望ましい 人文社会学系棟 B409 ogawa.midori.gu at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	初回授業の日時に manaba の k の科目にアクセスしてください。manaba にアクセスできない人は ogawa.midori.gu@u.tsukuba.ac.jp にメールを送ってください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	フランス語圏文学, テキスト分析, 批評, ジェンダー, 芸術, 言語

授業科目名	フランス文学研究 (1B)
科目番号	02DSA53
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 水 3
担当教員	小川 美登里
授業概要	20 世紀以降のフランス文学作品の精読を中心として、作品の作られた背景や歴史、同時代の作品との関連などについて考察する。19 世紀の「小説」の時代を経て、20 世紀にはジャンルの解体が行なわれた。多様なテキストのあり方やその可能性について考える。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE53 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンス 1「研究力」、専門コンピテンス 2「専門知識」
授業の到達目標（学修成果）	フランス文学（詩、小説、批評）の知識を深めることによって、研究対象やテーマの扱い方、方法論、分析能力を養う。
授業計画	フランス語で書かれた詩、小説、批評などを取り上げ、それらを読解・分析・批評する方法とスキルを身につける。二十世紀以降、言語表象作品はますます多様化し、映画、絵画、音楽、漫画（バンド・デシネ）などとボーダーレスに繋がっている。従来の批評の枠組みを超え出るような作品のあり方について考える。 第 1 回批評の展望:精神分析、構造主義、内在批評、そして・・・(現代の批評) 第 2 回ボーダーレスな世界:読者、作家、批評家 (パスカル・キニャールの場合 1) 第 3 回ボーダーレスな世界:読者、作家、批評家 (パスカル・キニャールの場合 2) 第 4 回絵画と小説 (1):ミシェル・ピュートル 第 5 回絵画と小説 (2):クロード・シモン 第 6 回絵画と小説 (3):ピエール・クロソウスキー 第 7 回映画と小説 (1):交わらない二つの世界 (デュラス) 第 8 回映画と小説 (2):小説家がシナリオライターになるとき (デュラス、ロブ＝グリ工) 第 9 回学生による発表 (1) 第 10 回学生による発表 (2) 具体的に扱う作品については、一応の目安を置くとはいえ、受講者の研究テーマや興味にも呼応するように柔軟に対応する。
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業のための準備 (テキストについての予習)、授業内での発表の準備
教材・参考文献・配付資料等	授業で具体的に使用する教材や文献については、適宜準備する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	基本的には水曜午後であるが、あらかじめ連絡をとることが望ましい 人文社会学系棟 B409 ogawa.midori.gu at u.tsukuba.ac.jp

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	フランス語で書かれた資料を読解するため、フランス語を習得していることが望ましい。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	フランス文学, テキスト, フィクション, 批評, ジェンダー, 言語, 芸術

授業科目名	フランス文学演習 (1A)
科目番号	02DSA56
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 木 3
担当教員	増尾 弘美
授業概要	ブルーストの『失われた時を求めて』を題材に、この作品で取り上げられた文学作品が語り手によってどのように批評され、また登場人物にどのように語られているか、特定の人物による批評がどのような意味をもつか、さらに物語の進行とどのように関わるのかについて考察する。具体的な作家としてはラシーヌ、セヴィニエ夫人、サン＝シモン等を取り上げるが、サン＝シモンに関してはブルースト自身による模作も存在するので、それも考察対象とする。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE56 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンス 2.「専門知識」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	フランス語の文献を読み解くことによって、専門知識を身につける。
授業計画	第 1 回ラシーヌについて 第 2 回ラシーヌとブルーストについて 第 3 回ラシーヌと『失われた時を求めて』の登場人物との関わりについて 第 4 回セヴィニエ夫人について 第 5 回セヴィニエ夫人とブルーストについて 第 6 回セヴィニエ夫人と『失われた時を求めて』の登場人物との関わりについて 第 7 回サン＝シモンについて 第 8 回サン＝シモンとブルーストについて 第 9 回ブルーストによるサン＝シモンの模作について 第 10 回サン＝シモンと『失われた時を求めて』の登場人物との関わりについて
履修条件	
成績評価方法	学期末レポート (60%) と授業時での発表 (40%) で総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業で学んだことを、学位論文の執筆に役立てること。
教材・参考文献・配付資料等	1. ITEM,Bulletin d'Informations proustiennes 2. SAMP,Bulletin Marcel Proust
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	初回、4月30日(木)3限の授業時に manaba のこの科目のコースにアクセスしてください。

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	フランス文学, プルースト

授業科目名	フランス文学演習 (1B)
科目番号	02DSA57
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 3
担当教員	増尾 弘美
授業概要	プルーストの『失われた時を求めて』を題材に、この作品で取り上げられた文学作品が語り手によってどのように批評され、また登場人物にどのように語られているか、特定の人物による批評がどのような意味をもつか、さらに物語の進行とどのように関わるのかについて考察する。具体的な作家としてはバルザック、フローベール、サント＝ブーヴ等を取り上げるが、プルースト自身による彼らの模作も射程に入れながら、模作や批評がどのように小説へと変貌を遂げたのかについても考察する。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE57 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンス 2.「専門知識」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	フランス語の文献を読み解くことによって、専門知識を身につける。
授業計画	第 1 回バルザックについて 第 2 回プルーストによるバルザックの模作について 第 3 回バルザックと『失われた時を求めて』の登場人物との関わりについて 第 4 回フローベールについて 第 5 回プルーストによるフローベールの模作について 第 6 回プルーストによるフローベール論について 第 7 回サント＝ブーヴについて 第 8 回プルーストによるサント＝ブーヴの模作について 第 9 回プルーストによるサント＝ブーヴ反論について 第 10 回「サント＝ブーヴとバルザック」について
履修条件	
成績評価方法	学期末レポート (60%) と授業時の発表 (40%) で総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業で学んだことを学位論文執筆に生かすこと。
教材・参考文献・配付資料等	1. ITEM,Bulletin d'Informations proustiennes 2. SAMP,Bulletin Marcel Proust 3. Annick Bouillaguet,Proust lecteur de Balzac et de Flaubert, Champion, 2000 4. Donatien Grau,Tout contre Sainte-Beuve, Bernard Grasset, 2013
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	フランス文学, プルースト

授業科目名	フランス文学演習 (2B)
科目番号	02DSA59
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 3
担当教員	増尾 弘美
授業概要	プルーストの『失われた時を求めて』を題材に、この作品で取り上げられた音楽作品が語り手によってどのように批評され、また登場人物にどのように語られているか、特定の人物による批評がどのような意味をもつか、さらに物語の進行とどのように関わるのかについて考察する。『ペレアスとメリザンド』のドビュッシー、19 世紀フランスでワグネリズムの興隆を見たワーグナー、そして後期弦楽四重奏曲が流行ったベートーヴェンを主な考察対象とする。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAE59 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンス 2.「専門知識」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	フランス語文献を読み解くことによって、専門知識を身につける。
授業計画	第 1 回バルザックについて 第 2 回プルーストによるバルザックの模作について 第 3 回バルザックと『失われた時を求めて』の登場人物との関わりについて 第 4 回フローベールについて 第 5 回プルーストによるフローベールの模作について 第 6 回プルーストによるフローベール論について 第 7 回サント＝ブーヴについて 第 8 回プルーストによるサント＝ブーヴの模作について 第 9 回プルーストによるサント＝ブーヴ反論について 第 10 回「サント＝ブーヴとバルザック」について
履修条件	
成績評価方法	学期末レポート (60%) と授業時の発表 (40%) で総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業で学んだことを、学位論文執筆に生かしていくこと。
教材・参考文献・配付資料等	1. ITEM, Bulletin d'Informations proustiennes 2. SAMP, Bulletin Marcel Proust 3. Annick Bouillaguet, Proust lecteur de Balzac et de Flaubert, Champion, 2000
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	フランス文学, プルースト

授業科目名	Transnational Literature (1)
科目番号	02DSA61
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 4
担当教員	ヘーゼルハウス, ヘラト
授業概要	<p>“ Transnational Literary Studies ” does not only comprise literature (and other media) that is produced across borders and in various languages (including translation), it also analyzes the common multi-lingual and multi-cultural basis inherent in aesthetic productivity. The focus point of this course is on text, author, genre, period, aesthetics, media, methods or translation, depending on the needs and interests of its participants and the research focus of the instructor.</p>
備考	<p>西暦偶数年度開講。 0ABAE61 と同一。 英語で授業。</p>
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	<p>This class looks at the literature of /by/on refugees published in English translations. It focuses on the Syrian and Ex-Yugoslav conflicts. The guiding question will be how literature can express refugee experience and pain, and how unfamiliar readers can come to understand the various problems of refugees and the literary techniques to convey them.</p>
授業計画	<p>The course offers a variety of literary texts under the aspect of "refugee experience". These range from the ongoing Syrian conflict to the never-ending Ex-Yugoslav situation. The syllabus is open to changes.</p> <p>The class will discuss the various texts listed below, either in form of mails and short interpretations or in form of online discussions (based on available technology).</p> <p>In the first two meetings we will discuss how to best conduct this class.</p> <p>第 1 回 Introduction to the class and to "refugee" literature 第 2 回 Examples from Syria I: Lazkani I 第 3 回 Examples from Syria I: Lazkani II 第 4 回 Examples from Syria II: Abdallah I 第 5 回 Theory: Regarding the Pain of Others 第 6 回 End-of-Term Papers Preparation 第 7 回 Examples from Serbia: Albahari I 第 8 回 Examples from Serbia: Albahari II 第 9 回 Examples from Serbia: Albahari III 第 10 回 Final Discussion</p>
履修条件	
成績評価方法	<p>Reading of material and participation in discussions through mails and short interpretations.</p>

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	Preparation of reading material and supportive information.
教材・参考文献・配付資料等	List of texts in class.
オフィスアワー等（連絡先含む）	By mail, etc.: Please contact: heselhaus.herrad.fw@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>Coronavirus management:</p> <p>Because of the pandemic all classes in Tsukuba University, including this one, will be held online. This is very unfortunate for this class because it is so much based on lively discussion in the classroom. I hope we can find a productive way to do this class. For the time being, I am asking you to check manaba where shortly before Tuesday, April 28th, 4th period, I will post some reading material and inform you how we may be able to conduct the class. If you have any suggestion, please write a mail to my address (heselhaus.herrad.fw@u.tsukuba.ac.jp).</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	Refugees, Transnational Literature, Translation, communication, Pain

授業科目名	Applied Humanities (1)
科目番号	02DSA62
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 火 4
担当教員	ヘーゼルハウス, ヘラト
授業概要	The study of “ Applied Humanities ” focuses on the interface between traditional literary studies and society. In this course the focus will be on humanities ’ contribution to society and on career strategies. Students will have the opportunity to discuss their own approaches and design their own academic profiles. The course will also include analysis and discussion of literary and theoretical texts in an “ Applied Humanities ” perspective and introduce the relevant methodology.
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE62 と同一。 英語で授業。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	Fake News, Fake Research and the Value of Information Fake news and fake research publications have become an ever bigger problem not only to the world at large, but even to academic performance. Today, students and even researchers are confronted with the problem of fake performances on both sides: tempted and discouraged, as perpetrators and victims of a growing unethical academia. In this new atmosphere of ” fake”, the class will ask about the value of academic research and information, and how to safeguard international standards of knowledge and participation.
授業計画	The course starts with discussing recent examples of fake news: from the U.S. election (Trump; Russia Interference), Trump’s Peace Plan for the Israeli-Palestinian conflict, Fukushima Nuclear Accident, Global Warming, and the New Corona Virus outbreak. It then turns to fake academic performances (plagiarism, faking of research results, and corporate corruption). Finally, it looks at how students and researchers today are affected by this and how adherence to academic standards is compromised or protected. 第 1 回 Introduction: FAKE FAKE FAKE 第 2 回 Fake News in international politics I: U.S. I 第 3 回 Fake News in international politics I: U.S. II and Israel 第 4 回 Fake News in global science scenarios I: Fukushima Nuclear Accident 第 5 回 Fake News in global science scenarios II: Global Warming and Plastic Waste 第 6 回 Fake News in global science scenarios III: New Corona Virus 第 7 回 Fake Research I: International and national academic standards and academic ethics

	<p>第 8 回 Fake Research II: Plagiarism, Faking Research Results, and the corrupt corporate background</p> <p>第 9 回 Fake Research III: How students and researchers are affected</p> <p>第 10 回 Final discussion</p>
履修条件	
成績評価方法	Active participation in class 60%; End-of-term paper or presentation 40%.
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	Preparation of material and supportive information.
教材・参考文献・配付資料等	List of materials in class.
オフィスアワー等（連絡先含む）	Office hours by appointment. Please contact: heselhaus.herrad.fw@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	Fake News, Fake Research, Value of Information, Academic Ethics, Politics of Participation

授業科目名	中国文学研究 (1A)
科目番号	02DSA65
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 木 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	論理的な思考力を鍛えて知の活用力をつけるために、120 巻本『文選』の精読を通してその特徴を把握することが当該授業の到達目標である。具体的には、巻 43 所収の詩・巻 56 所収の挽歌・巻 63 所収の騷・巻 71 所収の教・巻 79 所収の弾事・巻 91 所収の序・巻 113 所収の詠・巻 47 所収の詩・巻 61 所収の雜擬を読む。独創的な構想力を身につけ、知を共創する能力を養うため、授業は、演習担当者を決めて報告を求め、討議を行いながら進める。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE65 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 1「知の活用力」および専門コンピテンス 1「研究力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	研究力をつけ、120 巻本の特徴を把握する。
授業計画	第 1 回巻 43 の詩を読む。 第 2 回巻 56 の挽歌を読む。 第 3 回巻 63 の騷を読む。 第 4 回巻 71 の教を読む。 第 5 回巻 79 の弾事を読む。 第 6 回巻 91 の序を読む。 第 7 回巻 113 の詠を読む。 第 8 回巻 47 の詩を読む。 第 9 回巻 61 の雜擬を読む。 第 10 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	出席時の授業への積極性及び授業内提出物 (50%)、発表および授業最終日提出物 (50%)。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	演習 (100%)。配付資料および参考文献等を精読し、専門用語の意味を正確に理解しておくこと。自分なりの考えをまとめておくこと。発表担当分については、資料を準備し、質疑に備えること。
教材・参考文献・配付資料等	1. 上海古籍出版社、『唐鈔文選集注彙存』
オフィスアワー等（連絡先含む）	火:火 6 オフィスアワー 人文社会学系棟 文芸言語専攻
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	初回の授業日時 (4/30 木 5 限) に manaba のこの科目のコースにアクセスしてください。これに先立ち、1 週間前 (4/23 木 5 限) までに TWINS での履修登録をお願いします。それまでに登録が終わらなかった場合および当日 manaba にアクセスできなかった場合は、 kishiro.mayako.ga@u.tsukuba.ac.jp にメールしてください。
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	配置なし
キーワード	古典文学, 歴史, 思想, 文献資料

授業科目名	中国文学研究 (1B)
科目番号	02DSA66
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	論理的な思考力を鍛えて知の活用力をつけるために、鈔本で『文選』を読み、諸本の注釈と比較検討をすることが当該授業の到達目標である。具体的には、巻 47 所収の詩・巻 56 所収の雑歌詩・巻 66 所収の騷・巻 71 所収の策秀才文・巻 85 所収の書・巻 93 所収の頌・巻 116 所収の碑・巻 48 所収の詩・巻 68 所収の七を読む。独創的な構想力を身につけ、知を共創する能力を養うため、授業は、演習担当者を決めて報告を求め、討議を行いながら進める。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAE66 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 1「知の活用力」および専門コンピテンス 2「専門知識」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	専門知識を身につけ、注釈の比較検討をする。
授業計画	第 1 回巻 47 の詩を読む。 第 2 回巻 56 の雑歌詩を読む。 第 3 回巻 66 の騷を読む。 第 4 回巻 71 の策秀才文を読む。 第 5 回巻 85 の書を読む。 第 6 回巻 93 の頌を読む。 第 7 回巻 116 の碑を読む。 第 8 回巻 48 の詩を読む。 第 9 回巻 68 の七を読む。 第 10 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	出席時の授業への積極性及び授業内提出物 (50%)、発表および授業最終日提出物 (50%)。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	演習 (100%)。配付資料および参考文献等を精読し、専門用語の意味を正確に理解しておくこと。自分なりの考えをまとめておくこと。発表担当分については、資料を準備し、質疑に備えること。
教材・参考文献・配付資料等	1. 上海古籍出版社、『唐鈔文選集注彙存』
オフィスアワー等（連絡先含む）	火:火 6 オフィスアワー 人文社会学系棟 文芸言語専攻
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	配置なし
キーワード	古典文学, 歴史, 思想, 文献資料

授業科目名	中国文学研究 (2A)
科目番号	02DSA67
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 木 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	論理的な思考力を鍛えて知の活用力をつけるために、集注本で『文選』を読み、各注の特徴を確認することが当該授業の到達目標である。具体的には、巻 48 所収の詩・巻 59 所収の雑詩・巻 68 所収の七・巻 73 所収の表・巻 88 所収の檄・巻 94 所収の賛・巻 56 所収の楽府・巻 66 所収の騷・巻 98 所収の史論を読む。独創的な構想力を身につけ、知を共創する能力を養うため、授業は、演習担当者を決めて報告を求め、討議を行いながら進める。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAE67 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 1「知の活用力」および専門コンピテンス 1「研究力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	知の活用力を駆使し、各注の特徴を確認する。
授業計画	第 1 回巻 48 の詩を読む。 第 2 回巻 59 の雑詩を読む。 第 3 回巻 68 の七を読む。 第 4 回巻 73 の表を読む。 第 5 回巻 88 の檄を読む。 第 6 回巻 94 の賛を読む。 第 7 回巻 56 の楽府を読む。 第 8 回巻 66 の騷を読む。 第 9 回巻 98 の史論を読む。 第 10 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	出席時の授業への積極性及び授業内提出物 (50%)、発表および授業最終日提出物 (50%)。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	演習 (100%)。配付資料および参考文献等を精読し、専門用語の意味を正確に理解しておくこと。自分なりの考えをまとめておくこと。発表担当分については、資料を準備し、質疑に備えること。
教材・参考文献・配付資料等	1. 上海古籍出版社、『唐鈔文選集注彙存』
オフィスアワー等（連絡先含む）	火:火 6 オフィスアワー 人文社会学系棟 文芸言語専攻
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	配置なし
キーワード	古典文学, 歴史, 思想, 文献資料

授業科目名	中国文学研究 (2B)
科目番号	02DSA68
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	論理的な思考力を鍛えて知の活用力をつけるために、『唐鈔文選集注彙存』を読み、補注をつけることが当該授業の到達目標である。具体的には、巻 56 所収の楽府・巻 61 所収の雜擬・巻 71 所収の令・巻 79 所収の彈事・巻 88 所収の難・巻 98 所収の史論・巻 59 所収の雜詩・巻 85 所収の書・巻 91 所収の序を読む。独創的な構想力を身につけ、知を共創する能力を養うため、授業は、演習担当者を決めて報告を求め、討議を行いながら進める。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAE68 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 1「知の活用力」および専門コンピテンス 2「専門知識」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	専門知識を活用し、補注をつける。
授業計画	第 1 回巻 56 の楽府を読む。 第 2 回巻 61 の雜擬を読む。 第 3 回巻 71 の令を読む。 第 4 回巻 79 の彈事を読む。 第 5 回巻 88 の難を読む。 第 6 回巻 98 の史論を読む。 第 7 回巻 59 の雜詩を読む。 第 8 回巻 85 の書を読む。 第 9 回巻 91 の序を読む。 第 10 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	出席時の授業への積極性及び授業内提出物 (50%)、発表および授業最終日提出物 (50%)。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	演習 (100%)。配付資料および参考文献等を精読し、専門用語の意味を正確に理解しておくこと。自分なりの考えをまとめておくこと。発表担当分については、資料を準備し、質疑に備えること。
教材・参考文献・配付資料等	1. 上海古籍出版社、『唐鈔文選集注彙存』
オフィスアワー等（連絡先含む）	火:火 6 オフィスアワー 人文社会学系棟 文芸言語専攻
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	配置なし
キーワード	古典文学, 歴史, 思想, 文献資料

授業科目名	文学論文演習 (1A)
科目番号	02DSB01
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春 ABC 随時
担当教員	馬場 美佳, 谷口 孝介, 青柳 悦子, 佐野 隆弥, 増尾 弘美, ヘーゼルハウス, ヘラト, 秋山 学, 吉森 佳奈子, 吉原 ゆかり, 加藤 百合, 小川 美登里, 齋藤 一, 稀代 麻也子
授業概要	文学研究諸領域のいずれかにおいて博士論文を執筆しようとして計画している大学院生に対して、当該研究領域の立場から、テーマ設定等、主として最初期段階の研究方法について議論を行い、それぞれの論文執筆の準備に資する。
備考	0BBAE11 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の創成力」「2. マネージメント能力」「3. コミュニケーション能力」「4. リーダーシップ力」「5. 国際性」、 専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「3. 倫理観」「4. 思考力」「5. 総合力」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	博士論文を執筆するために必要な技法と能力を身につける。あわせて研究倫理に関する理解を深める
授業計画	各教員による研究指導
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	各担当教員が履修者に個別に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	谷口 孝介 木:3 時限目 人文社会学系棟 A523 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp 馬場 美佳 木曜 5 限 人文社会学系棟 B418 baba.mika.ge at u.tsukuba.ac.jp 青柳 悦子 木曜 3 時限目 人文社会学系棟 B417 aoyagi.etsuko.gn at u.tsukuba.ac.jp 佐野 隆弥 takaya-sano.ge at u.tsukuba.ac.jp 増尾 弘美 木曜 5 限 人文社会学系棟 B410 masuo.hiromi.fm at u.tsukuba.ac.jp ヘーゼルハウス, ヘラト 水:午後は会議 木:オフィスアワー 12:45-13:45 人文社会学系棟 A510 herrad at ga2.so-net.ne.jp 秋山 学 火:4 限 OH (要アポ) 木:3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp 吉森 佳奈子 金 6 限オフィスアワー。電子メールでご連絡のうえ、いらっしゃるのが 確実です。 人文社会学系棟 A605 yoshimori.kanako.fn at u.tsukuba.ac.jp 吉原 ゆかり 木 3 限 人文社会学系棟 A515 yoshihara.yukari.fp at u.tsukuba.ac.jp 加藤 百合 QWP10153 at nifty.com 小川 美登里 基本的には水曜午後であるが、あらかじめ連絡をとることが望ましい 人文社会学系棟 B409 ogawa.midori.gu at u.tsukuba.ac.jp 齋藤 一 saito.hajime.gn at u.tsukuba.ac.jp http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/000000018 稀代 麻也子 火:火 6 オフィスアワー

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	論文, 研究計画, 資料収集

授業科目名	文学論文演習 (1B)
科目番号	02DSB02
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋 ABC 随時
担当教員	馬場 美佳, 谷口 孝介, 青柳 悦子, 佐野 隆弥, 増尾 弘美, ヘーゼルハウス, ヘラト, 秋山 学, 吉森 佳奈子, 吉原 ゆかり, 加藤 百合, 小川 美登里, 齋藤 一, 稀代 麻也子
授業概要	文学研究諸領域のいずれかにおいて博士論文を執筆しようとして計画している大学院生に対して、当該研究領域の立場から、研究資料の選択等、主として初期段階の研究方法についての議論を行い、それぞれの論文執筆の準備に資する。
備考	0BBAE12 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の創成力」「2. マネージメント能力」「3. コミュニケーション能力」「4. リーダーシップ力」「5. 国際性」、 専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「3. 倫理観」「4. 思考力」「5. 総合力」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	博士論文を執筆するために必要な技法と能力を身につける。あわせて研究倫理に関する理解を深める
授業計画	各教員による研究指導
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	各担当教員が履修者に個別に指示する
オフィスアワー等（連絡先含む）	谷口 孝介 木:3 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp 馬場 美佳 木曜 5 限 人文社会学系棟 B418 baba.mika.ge at u.tsukuba.ac.jp 青柳 悦子 木曜 3 時限目 人文社会学系棟 B417 aoyagi.etsuko.gn at u.tsukuba.ac.jp 佐野 隆弥 takaya-sano.ge at u.tsukuba.ac.jp 増尾 弘美 木曜 5 限 人文社会学系棟 B410 masuo.hiromi.fm at u.tsukuba.ac.jp ヘーゼルハウス, ヘラト 水:午後は会議 木:オフィスアワー 12:45-13:45 人文社会学系棟 A510 herrad at ga2.so-net.ne.jp 秋山 学 火:4 限 OH (要アポ) 木:3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp 吉森 佳奈子 金 6 限オフィスアワー。電子メールでご連絡のうえ、いらっしゃるのが確実です。 人文社会学系棟 A605 yoshimori.kanako.fn at u.tsukuba.ac.jp 吉原 ゆかり 木 3 限 人文社会学系棟 A515 yoshihara.yukari.fp at u.tsukuba.ac.jp 加藤 百合 QWP10153 at nifty.com 小川 美登里 基本的には水曜午後であるが、あらかじめ連絡をとることが望ましい 人文社会学系棟 B409 ogawa.midori.gu at u.tsukuba.ac.jp 齋藤 一 saito.hajime.gn at u.tsukuba.ac.jp http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/000000018 稀代 麻也子 火:火 6 オフィスアワー

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	論文, 研究計画, 資料収集

授業科目名	日本語文法研究 (1A)
科目番号	02DT411
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	橋本 修
授業概要	日本語の意味論・語用論における、主として 1980 年代~現在までの研究からいくつかのトピックを選び検討・議論する。初回受講者の希望にもよるが、導入としては有田節子 2015 を取り上げる予定。
備考	2016 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	現代共通語を中心とした日本語意味論・語用論の方法論・現在までの研究成果を把握し、当該領域における議論能力を向上させる。
授業計画	第 1 回授業計画の説明、資料の紹介、受講者のバックグラウンド等とのすりあわせ 第 2 回有田節子 (2015) の紹介、検討 第 3 回有田節子 (2015) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議 第 4 回福田嘉一郎 (2015) の紹介、検討 第 5 回福田嘉一郎 (2015) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議 第 6 回井上優 (2010) の紹介、検討 第 7 回井上優 (2010) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議 第 8 回丹羽哲也 (2013) の紹介、検討 第 9 回丹羽哲也 (2013) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議 第 10 回受講者による発表、討議 (1) 第 11 回受講者による発表、討議 (2) 第 12 回受講者による発表、討議 (3) 第 13 回受講者による発表、討議 (4) 第 14 回受講者による発表、討議 (5) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	授業での議論への貢献、提出物等の内容を勘案して評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等 (連絡先含む)	
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	現代日本語文法論, 意味論, 語用論

授業科目名	日本語文法研究 (1B)
科目番号	02DT412
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	橋本 修
授業概要	現代日本語・古典日本語の意味論・語用論におけるトピックを、史的变化にも留意しながら検討する。初回受講者の希望にもよるが、導入としては衣畑智秀 2014 を扱う予定。
備考	2016 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	現代共通語・古典日本語を中心とした日本語意味論・語用論の方法論・現在までの研究成果を把握し、自身の論文作成能力、先行研究への批判能力を身につける。
授業計画	<p>第 1 回授業計画の説明、資料の紹介、受講者のバックグラウンド等とのすりあわせ</p> <p>第 2 回井上優 (2009) の紹介、検討</p> <p>第 3 回井上優 (2009) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議</p> <p>第 4 回天野みどり (2015) の紹介、検討</p> <p>第 5 回天野みどり (2015) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議</p> <p>第 6 回青木博史 (2013) の紹介、検討</p> <p>第 7 回青木博史 (2013) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議</p> <p>第 8 回坪本篤朗 (2009) の紹介、検討</p> <p>第 9 回坪本篤朗 (2009) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議</p> <p>第 10 回受講者による発表、討議 (1)</p> <p>第 11 回受講者による発表、討議 (2)</p> <p>第 12 回受講者による発表、討議 (3)</p> <p>第 13 回受講者による発表、討議 (4)</p> <p>第 14 回受講者による発表、討議 (5)</p> <p>第 15 回まとめ 少なくとも 1 回の発表 (オリジナル内容でも先行研究のサーベイでも可)</p>
履修条件	
成績評価方法	議論への貢献、提出物の内容を勘案して評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等 (連絡先含む)	
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	現代日本語, 古典日本語, 意味論, 語用論

授業科目名	日本語文法研究 (2A)
科目番号	02DT413
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	橋本 修
授業概要	日本語の意味論・語用論的研究の方法論について、具体的なケースワークの中で検討する。受講者の希望にもよるが、導入としては本多啓 2016 と関連論文を読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代共通語を中心とした日本語意味論・語用論研究の現況を把握し、各自の目的に即した情報、議論の技術を身につける。
授業計画	現代共通語を中心とした日本語意味論・語用論について、近年の論考を検討する。受講者のオリジナルな内容についても検討の対象とする。 第 1 回受講者の学的バックグラウンドの情報交換、前提のすりあわせ、研究倫理についての確認他。 第 2 回本多啓 2016 の紹介・検討、議論。 第 3 回本多啓 2016 に関する諸研究についての議論。 第 4 回有田節子 2007(特に 4 章、7 章) の紹介・検討、議論。 第 5 回有田節子 2007 に関連する諸研究についての議論。 第 6 回三原 2015(特に 4 章、6 章) の紹介・検討、議論。 第 7 回三原 2015 に関連する諸研究についての議論。 第 8 回熊本千明 2014 の紹介・検討、議論。 第 9 回熊本千明 2014 に関する諸研究についての議論。 第 10 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 11 回オリジナルな内容についての議論 (2) 第 12 回オリジナルな内容についての議論 (3) 第 13 回オリジナルな内容についての議論 (4) 第 14 回オリジナルな内容についての議論 (5) 第 15 回第 2~14 回の内容・議論についての補足、まとめ。
履修条件	
成績評価方法	議論への貢献を中心に評価する。希望により提出物の内容も評価に加える。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語文法, 意味論, 語用論

授業科目名	日本語文法研究 (2B)
科目番号	02DT414
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	橋本 修
授業概要	古典日本語を含む、日本語文法論の検討。受講者の希望にもよるが、導入としては金水 2015 とその周辺論文を読む予定。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	意味論・語用論を中心とした日本語文法論についての、適切な情報収集能力、議論の技術、プレゼンテーションの能力を獲得する。
授業計画	日本語意味論・語用論を中心的に扱うが、通時的側面を重視した内容がやや多めになる。 第 1 回受講者のバックグラウンドの確認・調整。議論の前提等のすりあわせ。研究倫理についての確認他。 第 2 回金水敏 2015 の紹介・検討、議論。 第 3 回金水敏 2015 に関連する諸研究についての議論。 第 4 回三宅知宏 2016 の紹介・検討、議論。 第 5 回三宅知宏 2016 に関連する諸研究についての議論。 第 6 回青木博史 2016 の紹介・検討、議論。 第 7 回青木博史 2016 に関する諸研究についての議論。 第 8 回小柳智一 2015 の紹介・検討、議論。 第 9 回小柳智一 2015 に関する諸研究についての議論。 第 10 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 11 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 12 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 13 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 14 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 15 回第 2~14 回の内容・議論についての補足、まとめ。
履修条件	
成績評価方法	議論への貢献を中心に評価する。希望があれば提出物の内容についても評価に加える。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語文法, 意味論, 語用論

授業科目名	日本語文法研究 (3A)
科目番号	02DT415
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	橋本 修
授業概要	現代日本語・古典日本語の文法論で近年扱われているトピックについて議論する。受講者のオリジナルな論考を提示してもらうこともある。
備考	2018 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	日本語文法論のうち、近年の意味論・語用論の動向を知り、各自の研究に生かせる形で理解を深める。
授業計画	第 1 回 背景知識の確認・照合 第 2 回~第 3 回 丹羽哲也 2010 の講読、討議 第 4 回~第 14 回 受講者の発表・サーベイと討議 第 15 回 まとめ、情報提供
履修条件	
成績評価方法	発表、サーベイ、討議への貢献による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	なし
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語文法, 意味論, 語用論

授業科目名	日本語文法研究 (3B)
科目番号	02DT416
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	橋本 修
授業概要	現代日本語・古典日本語の文法論で近年扱われているトピックについて議論する。受講者のオリジナルな論考を提示してもらうこともある。
備考	2018 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語、古典日本語の文法論で近年扱われているテーマについての研究動向を踏まえながら、オリジナルな研究を組み立てる力、議論を行う力を身につける。
授業計画	第 1 回 背景的知識の確認、照合 第 2 回~第 3 回 大木一夫 2008 の講読、討議 第 4 回~第 14 回 受講者の発表・サーベイと討議 第 15 回 まとめと情報提供
履修条件	
成績評価方法	発表、サーベイ、討議への貢献による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	なし
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語文法論, 日本語文法史, 意味論, 語用論

授業科目名	日本語文法研究 (4A)
科目番号	02DT417
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 5
担当教員	橋本 修, 矢澤 真人
授業概要	日本語意味論・語用論に関する動向を検討し、いくつかのトピックについて論考の検討・解説を行う。可能な範囲で他言語との対照も視野に含める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	日本語文法論、特に意味論・語用論について、当該領域の概観・問題点を探り、先行研究や自分の研究を適切に評価・検討できる能力を身につける。
授業計画	<p>日本語の意味論、語用論を中心とした広義文法現象をあつかう。状況により応用的側面も扱うことがある。日程についても、受講者の学会発表等の事情で、内容の変更・扱う順序の変更の生じることがある。</p> <p>第 1 回ガイダンス 取り扱う資料の概観・検討・調整他</p> <p>第 2 回意味論 1-1 南部智史 2007 のサーベイ</p> <p>第 3 回意味論 1-2 南部智史 2007 を踏まえた、文法の計量研究についての検討・討議</p> <p>第 4 回意味論 2-1 坂井美日 2012 のサーベイ</p> <p>第 5 回意味論 2-2 坂井美日 2012 のサーベイを踏まえた、日本語準体法・名詞化表現についての検討・討議</p> <p>第 6 回意味論 3-1 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (1)</p> <p>第 7 回意味論 3-2 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (2)</p> <p>第 8 回意味論 3-3 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (3)</p> <p>第 9 回意味論 3-4 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (3)</p> <p>第 10 回意味論 3-5 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (4)</p> <p>第 11 回語用論 1-1 太田垣 2018 のサーベイ</p> <p>第 12 回語用論 1-2 太田垣 2018 を踏まえた、比喩と名詞述語文に関する検討・討議</p> <p>第 13 回語用論 2-1 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (1)</p> <p>第 14 回語用論 2-2 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (2)</p> <p>第 15 回まとめ・展望</p>
履修条件	
成績評価方法	発表、討議への貢献、提出物により評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	<p>事前に入手しておく文献はありません。</p> <p>授業時に各種指示・紹介します。(各回の記述も参照)</p>
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語意味論, 日本語語用論, 談話文法, 文法史

授業科目名	日本語文法研究 (4B)
科目番号	02DT418
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 5
担当教員	橋本 修, 矢澤 真人
授業概要	日本語意味論・語用論における近年の論考を、方言・古典語等も視野に入れながら検討する。導入としては青木博史編 2011 所収の論文を検討する予定。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	日本語文法論、特に意味論・語用論について、当該領域 (副助詞句とその周辺) の史的再構、通時的变化を含めた概観を行い、現段階での問題点や今後の研究テーマの洗い出しを行って、各自の研究能力の向上に資する。
授業計画	<p>第 1 回ガイダンス 取り扱う資料の概観・検討・調整</p> <p>第 2 回意味論 1-1 幸松英恵 2015,2016 のサーベイ</p> <p>第 3 回意味論 1-2 幸松英恵 2015,2016 を踏まえた、推量形モダリティの検討・討議。</p> <p>第 4 回意味論 2-1 参加者の提案と、それについての検討・討議 (1)</p> <p>第 5 回意味論 2-2 参加者の提案と、それについての検討・討議 (2)</p> <p>第 6 回意味論 2-3 参加者の提案と、それについての検討・討議 (3)</p> <p>第 7 回文法史 1-1 近藤泰弘 2000(一部) のサーベイ</p> <p>第 8 回文法史 1-2 近藤泰弘 2000 を踏まえた、中古語従属節のとらえかたについての検討・討議</p> <p>第 9 回文法史 2-1 大野小百合 1993 のサーベイ</p> <p>第 10 回文法史 2-2 大野小百合 1993 を踏まえた、諸方言の名詞化バリエーションについての検討・討議</p> <p>第 11 回文法に関する応用的研究 1</p> <p>第 12 回参加者のオリジナル発表・討議 (1)</p> <p>第 13 回参加者のオリジナル発表・討議 (2)</p> <p>第 14 回参加者のオリジナル発表・討議 (3)</p> <p>第 15 回まとめ・展望</p>
履修条件	
成績評価方法	発表・討論への貢献、提出物を総合的に評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	テキストの事前準備は不要。各回の使用資料を授業時に決めながら選定する。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	意味論, 副助詞, 形式副詞

授業科目名	日本語文法研究 (5A)
科目番号	02DT419
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 5
担当教員	橋本 修
授業概要	現代日本語の主として意味論・語用論・語彙論についての研究動向と研究課題について検討する。受講者による発表も行う。
備考	2020 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	意味論を中心とした日本語文法論の研究動向を把握し、適切な議論を行う能力を身につける。
授業計画	<p>第 1 回授業計画の説明、資料の紹介、受講者のバックグラウンド等とのすりあわせ</p> <p>第 2 回金水敏 (2012) の紹介、検討</p> <p>第 3 回金水敏 (2012) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議</p> <p>第 4 回加藤重広 (2014) の紹介、検討</p> <p>第 5 回加藤重広 (2014) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議</p> <p>第 6 回安部朋世 (2014) の紹介、検討</p> <p>第 7 回安部朋世 (2014) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議</p> <p>第 8 回西山佑司 (2013) の紹介、検討</p> <p>第 9 回西山佑司 (2013) 周辺の論考の紹介、関連する論点についての討議</p> <p>第 10 回受講者による発表、討議 (1)</p> <p>第 11 回受講者による発表、討議 (2)</p> <p>第 12 回受講者による発表、討議 (3)</p> <p>第 13 回受講者による発表、討議 (4)</p> <p>第 14 回受講者による発表、討議 (5)</p> <p>第 15 回まとめ 受講者のバックグラウンド・要望等により、取り扱う論考が変更になることがある。</p>
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回~第 3 回授業時に説明、紹介する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	日本語文法論, 意味論, 語用論

授業科目名	日本語文法研究 (5B)
科目番号	02DT420
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 5
担当教員	橋本 修
授業概要	現代日本語、古典日本語の意味論、語用論について、研究史を含めて検討する。受講者による発表も行う。
備考	2020 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代語・古典日本語文法についての知識を深め、当該領域に関する適切な議論を行う能力を身につける。
授業計画	<p>第 1 回授業計画の説明、資料の紹介・説明、受講者のバックグラウンド等とのすりあわせ。</p> <p>第 2 回福嶋健伸 (2014) の紹介、検討</p> <p>第 3 回福嶋健伸 (2014) 周辺の研究紹介、論点の整理、討議</p> <p>第 4 回井島正博 (2002) の紹介、検討</p> <p>第 5 回井島正博 (2002) 周辺の研究紹介、論点の整理、討議</p> <p>第 6 回高山善行 (2014) の紹介、検討</p> <p>第 7 回高山善行 (2014) 周辺の研究紹介、論点の整理、討議</p> <p>第 8 回江口正 (2014) の紹介、検討</p> <p>第 9 回江口正 (2014) 周辺の研究紹介、論点の整理、討議</p> <p>第 10 回宮地朝子 (2010) の紹介、検討</p> <p>第 11 回宮地朝子 (2010) 周辺の研究紹介、論点の整理、討議</p> <p>第 12 回受講者による発表・討議 (1)</p> <p>第 13 回受講者による発表・討議 (2)</p> <p>第 14 回受講者による発表・討議 (3)</p> <p>第 15 回まとめ</p>
履修条件	
成績評価方法	講義内容の理解、討議への貢献 (質疑
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回・第 2 回授業時に提示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	現代語文法, 古典語文法

授業科目名	現代日本語研究 (1A)
科目番号	02DT441
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。この授業は、言語学的な追究とともに、それが現在の社会的な課題を解決するのにどのように寄与するのかについての検討も行う。
備考	2016 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語の語彙・文法的な事象について、さまざまな方向から検討する。日本語の学術的な追究を目指すだけでなく、現代社会における言語と結びついた種々の課題を解決するために、どのような研究が必要か、併せて検討していく。
授業計画	<p>現代日本語の語彙・文法的な事象について、さまざまな方向から検討する。本年度は、「言語研究の実践的応用」プロジェクトと連携したゼミ形式で行う。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回言語研究の実践的応用のあり方 (1) 「言語教育の実践的応用」プロジェクトの基本的なアカデミックプランニングについて紹介する。</p> <p>第 3 回言語研究の実践的応用のあり方 (2) 「言語教育の実践的応用」プロジェクトにおける言語学的な課題とそのアプローチについて検討する。</p> <p>第 4 回言語研究の実践的応用のあり方 (3) 引き続き「言語教育の実践的応用」プロジェクトにおける言語学的な課題とそのアプローチについて検討する。</p> <p>第 5 回言語研究の実践的応用の報告 (1) これまでの授業内容を受けて、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 6 回言語研究の実践的応用の報告 (2) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 7 回言語研究の実践的応用の報告 (3) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 8 回言語研究の実践的応用の報告 (4) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 9 回言語研究の実践的応用の報告 (5) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 10 回言語研究の実践的応用の報告 (6) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 11 回言語研究の実践的応用の報告 (7) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 12 回言語研究の実践的応用の報告 (8) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p>

	<p>第 13 回言語研究の実践的応用の報告 (9) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 14 回言語研究の実践的応用の報告 (10) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 15 回言語研究の実践的応用の総括 授業全体をふり返り、総括を行う。</p>
履修条件	
成績評価方法	出席状況, 授業時の発表, およびディスカッションへの参加等を勘案し, 総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	必要に応じて, 作文支援プロジェクトの報告書や発表資料等を配布する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	<p>火: 2 時限 (要予約) 4 時限 (要予約) 水: 2 時限 (要予約) 木: 2 時限 (要予約) 5 時限 金: 3 時限</p> <p>人 文 社 会 学 系 棟 A606 yazawa.makoto.gn at u.tsukuba.ac.jp</p> <p>http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/myazawa/</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	現代日本語, 語彙論, 文法論, 作文, 課題解決型研究

授業科目名	現代日本語研究 (1B)
科目番号	02DT442
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。表現や理解に関わる複合な現象について、日本語学の観点から検討する。この授業では、従来の言語学的知見が、このような課題に対しどのように寄与するか、また、解決のためにはどのような研究が望まれているのか等、複合的融合的課題を解決するための言語学的アプローチとは何かを考えていく。
備考	2016 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語の語彙・文法的な事象について、さまざまな方向から検討する。日本語の学術的な追究を目指すだけでなく、現代社会の言語的課題を解決するために、どのような研究が必要か、併せて検討していく。
授業計画	<p>現代日本語の語彙・文法的な事象について、さまざまな方向から検討する。本年度は、語彙・文法的事項と解釈・表現との関わりを軸に検討を進める。受講生の発表を含む。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回表現・解釈と語彙論・文法論 (1) 現代日本語に関わる語彙・文法的な課題を抽出し、その解決のためのアプローチを模索する。国語教育の課題に対する日本語学的なアプローチについて検討する。</p> <p>第 3 回表現・解釈と語彙論・文法論 (2) 現代日本語に関わる語彙・文法的な課題を抽出し、その解決のためのアプローチを模索する。日本語教育の課題に対する日本語学的なアプローチについて検討する。</p> <p>第 4 回表現・解釈と語彙論・文法論 (3) 現代日本語に関わる語彙・文法的な課題を抽出し、その解決のためのアプローチを模索する。辞書論の課題に対する日本語学的なアプローチについて検討する。</p> <p>第 5 回表現・解釈と語彙論・文法論 (4) 現代日本語に関わる語彙・文法的な課題を抽出し、その解決のためのアプローチを模索する。異文化理解・言語摩擦に対する日本語学的なアプローチについて検討する。</p> <p>第 6 回表現・解釈に対する言語学的アプローチ (1) 担当者の発表をもとに、現代日本語で表現や解釈を行う際に見られる課題を抽出し、それを解決するための日本語学的なアプローチを模索する。</p> <p>第 7 回表現・解釈に対する言語学的アプローチ (2) 引き続き、担当者の発表をもとに、現代日本語で表現や解釈を行う際に見られる課題を抽出し、それを解決するための日本語学的なアプローチを模索する。</p>

	<p>第 8 回表現・解釈に対する言語学的アプローチ (3) 引き続き, 担当者の発表をもとに, 現代日本語で表現や解釈を行う際に見られる課題を抽出し, それを解決するための日本語学的なアプローチを模索する。</p> <p>第 9 回表現・解釈に対する言語学的アプローチ (4) 引き続き, 担当者の発表をもとに, 現代日本語で表現や解釈を行う際に見られる課題を抽出し, それを解決するための日本語学的なアプローチを模索する。</p> <p>第 10 回表現・解釈に対する言語学的アプローチ (5) 引き続き, 担当者の発表をもとに, 現代日本語で表現や解釈を行う際に見られる課題を抽出し, それを解決するための日本語学的なアプローチを模索する。</p> <p>第 11 回表現・解釈に対する言語学的アプローチ (6) 引き続き, 担当者の発表をもとに, 現代日本語で表現や解釈を行う際に見られる課題を抽出し, それを解決するための日本語学的なアプローチを模索する。</p> <p>第 12 回表現・解釈に対する言語学的アプローチ (7) 引き続き, 担当者の発表をもとに, 現代日本語で表現や解釈を行う際に見られる課題を抽出し, それを解決するための日本語学的なアプローチを模索する。</p> <p>第 13 回表現・解釈に対する言語学的アプローチ (8) 引き続き, 担当者の発表をもとに, 現代日本語で表現や解釈を行う際に見られる課題を抽出し, それを解決するための日本語学的なアプローチを模索する。</p> <p>第 14 回表現・解釈に対する言語学的アプローチ (9) 引き続き, 担当者の発表をもとに, 現代日本語で表現や解釈を行う際に見られる課題を抽出し, それを解決するための日本語学的なアプローチを模索する。</p> <p>第 15 回総括 授業全体をふりかえり, 総括を行う。</p>
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	必要に応じて資料を配付する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	火: 2 時限 (要予約) 4 時限 (要予約) 水: 2 時限 (要予約) 木: 2 時限 (要予約) 5 時限 金: 3 時限 人 文 社 会 学 系 棟 A606 yazawa.makoto.gn at u.tsukuba.ac.jp http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/myazawa/
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	

キーワード

現代日本語, 文法論, 語彙論, 解釈, 表現, 課題解決型研究

授業科目名	現代日本語研究 (2A)
科目番号	02DT443
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。言語学的な追究と社会的な課題解決との関わりについて検討する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語の語彙・文法的な事象をさまざまな角度から分析し検討する。単に日本語の学術的な追究を目指すだけでなく、現代社会における言語と結びついた種々の課題を解決するために必要な研究について検討する。
授業計画	<p>現代日本語の語彙・文法的な事象について、さまざまな角度から分析し検討する。現在進行中の研究プロジェクト「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」と連携する形で、言語研究の実践的応用のあり方について検討する。必要に応じ、受講者の自主的な発表を交える。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回母語教育と日本語研究 (1) グローバル時代の母語教育には何が求められるのか、それを実現するためにはどのような日本語研究が必要となるのかを軸に、言語研究の実践的応用について考える。</p> <p>第 3 回母語教育と日本語研究 (2) 現在進行中の「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」の基本的なアカデミックプランニングについて紹介するとともに、言語研究に関わる課題を紹介する。</p> <p>第 4 回母語教育と日本語研究 (3) 「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」に関わる言語学的な課題とそのアプローチ、これまでの研究成果等について検討する。</p> <p>第 5 回母語教育と日本語研究 (4) 引き続き、「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」に関わる言語学的な課題とそのアプローチ、これまでの研究成果等について検討する。</p> <p>第 6 回母語教育と日本語研究 (5) 引き続き、「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」に関わる言語学的な課題とそのアプローチ、これまでの研究成果等について検討する。</p> <p>第 7 回表現・理解活動と日本語研究 (1) これまでの授業内容を受けて、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 8 回表現・理解活動と日本語研究 (2) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 9 回表現・理解活動と日本語研究 (3) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p>

	<p>第 10 回表現・理解活動と日本語研究 (4) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 11 回表現・理解活動と日本語研究 (5) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 12 回表現・理解活動と日本語研究 (6) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 13 回表現・理解活動と日本語研究 (7) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 14 回表現・理解活動と日本語研究 (8) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。</p> <p>第 15 回まとめ</p>
履修条件	
成績評価方法	出席状況, 授業時の発表, およびディスカッションへの参加等を勘案し, 総合的に評価する
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	必要に応じて, 作文支援プロジェクトの報告書や発表資料等を配布する。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	現代日本語, 語彙論, 文法論, 課題解決型研究, 母語教育

授業科目名	現代日本語研究 (2B)
科目番号	02DT444
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。表現や理解に関わる複合な現象について、日本語学の観点から検討する。従来の言語学的知見が、このような課題に対しどのように寄与するか、また、解決のためにはどのような研究が望まれているのか等、複合的融合的観点から検討する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語の語彙・文法的な事象について、さまざまな方向から検討する。特に日本語の学術的な追究を目指すだけでなく、現代社会の課題を解決するために、どのような言語研究が必要か検討していく。
授業計画	<p>多言語使用・多文化理解を推進するための言語研究について、受講者の発表を交えて検討する。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回 MLC を支援する日本語研究 (1) 「マルチリンガルコミュニケーション時代の母語教育」研究プロジェクトの基本的な構想について紹介する。</p> <p>第 3 回 MLC を支援する日本語研究 (2) 多言語使用・多言語理解の推進のためにどのような言語研究が必要なのか検討する。</p> <p>第 4 回 MLC を支援する日本語研究 (3) 引き続き、多言語使用・多言語理解の推進のためにどのような言語研究が必要なのか検討する。</p> <p>第 5 回 MLC を支援する日本語研究 (4) 多言語使用・多言語理解の推進のためにどのような言語支援ツールの開発が望まれるのか、それに必要な言語研究とは何かについて検討する。</p> <p>第 6 回 MLC を支援する日本語研究 (5) 引き続き、多言語使用・多言語理解の推進のためにどのような言語支援ツールの開発が望まれるのか、それに必要な言語研究とは何かについて検討する。</p> <p>第 7 回 MLC と日本語研究 (1) これまでの授業内容を受けて、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。</p> <p>第 8 回 MLC と日本語研究 (2) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。</p> <p>第 9 回 MLC と日本語研究 (3) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。</p>

	<p>第 10 回 MLC と日本語研究 (4) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。</p> <p>第 11 回 MLC と日本語研究 (5) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。</p> <p>第 12 回 MLC と日本語研究 (6) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。</p> <p>第 13 回 MLC と日本語研究 (7) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。</p> <p>第 14 回 MLC と日本語研究 (8) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。</p> <p>第 15 回まとめ</p>
履修条件	
成績評価方法	出席状況、授業時の発表やディスカッション、対外的な研究発表等を勘案し、総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	マルチリンガルコミュニケーション, 母語教育, 母語研究, 対照研究, 言語支援ツール

授業科目名	現代日本語研究 (3A)
科目番号	02DT445
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析するとともに、言語教育分野における課題と言語研究との関わりについて検討していく。
備考	2018 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析するための知識と方法を身につける。
授業計画	<p>現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していく。今年度は、「格」に関わる現象を軸に検討を進める。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回日本語の「格」の研究の歴史 (1) 主として国学流の文法論における関わる「てにをは」論を見る。</p> <p>第 3 回日本語の「格」の研究の歴史 (2) 主として明治期の洋学流文典類における「格」の扱いを見る。</p> <p>第 4 回日本語の「格」の研究の歴史 (3) 大槻文彦や山田孝雄, 松下大三郎, 橋本進吉など, 戦前の代表的な文法研究者の「格」の扱いを見る。</p> <p>第 5 回日本語の「格」の研究の歴史 (4) 戦後の文法研究における「格」の扱いを見るとともに、現在の課題について検討する。</p> <p>第 6 回日本語の「格」に関わる分析と考察 (1) 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 7 回日本語の「格」に関わる分析と考察 (2) 引き続き、現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 8 回日本語の「格」に関わる分析と考察 (3) 引き続き、現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 9 回日本語の「格」に関わる分析と考察 (4) 引き続き、現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 10 回日本語の「格」に関わる分析と考察 (5) 引き続き、現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 11 回日本語の「格」に関わる分析と考察 (6) 引き続き、現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 12 回日本語の「格」に関わる分析と考察 (7) 引き続き、現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 13 回日本語の「格」に関わる分析と考察 (8) 引き続き、現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 14 回日本語の「格」に関わる分析と考察 (9) 引き続き、現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p>

	第 15 回日本語の「格」に関わる分析と考察 (10) 引き続き, 現代日本語に見られる「格」に関わる現象の記述と分析を行うとともに, 全体の総括を行う (受講者の発表を含む)。
履修条件	
成績評価方法	出席, 授業時の発表および期末のレポートにより総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等 (連絡先含む)	
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	現代日本語, 格, 文典, てにをは

授業科目名	現代日本語研究 (3B)
科目番号	02DT446
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法教育と文法研究の関わりについて検討していく。
備考	2018 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析するための、知識と方法を修得する。
授業計画	<p>現代日本語における「を」格の明示と動詞の自他に関わる現象について検討する。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回春庭の自他研究 (1) 本居春庭の『詞の通路』に見られる自他論について検討する。</p> <p>第 3 回春庭の自他研究 (2) 引き続き、本居春庭の『詞の通路』に見られる自他論について検討する。</p> <p>第 4 回近代日本語研究における自他論 (1) 明治期の文典類に見られる自他論について検討する。</p> <p>第 5 回近代日本語研究における自他論 (2) 大槻文彦や山田孝雄などの文法研究者の所説を軸に検討する。</p> <p>第 6 回現代の日本語研究における自他論 (1) 現在の自他研究の現状と課題について検討する。</p> <p>第 7 回現代の日本語研究における自他論 (2) 引き続き、自他研究の現状と課題について検討する。</p> <p>第 8 回現代の日本語研究における自他の分析 (1) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 9 回現代の日本語研究における自他の分析 (2) 引き続き、現在の日本語における自他について、調査と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 10 回現代の日本語研究における自他の分析 (1) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 11 回現代の日本語研究における自他の分析 (2) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 12 回現代の日本語研究における自他の分析 (3) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 13 回現代の日本語研究における自他の分析 (4) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p> <p>第 14 回現代の日本語研究における自他の分析 (5) 現在の日本語における自他について、調査と分析を行う (受講者の発表を含む)。</p>

	第 15 回現代の日本語研究における自他の分析 (6) 現在の日本語における自他について, 調査と分析を行うとともに, 全体を総括する。
履修条件	
成績評価方法	出席と授業時の発表および期末のレポートにより総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	格, 自他, 現代日本語

授業科目名	現代日本語研究 (4A)
科目番号	02DT447
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 4
担当教員	矢澤 真人, 橋本 修
授業概要	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していくとともに, 文法研究と語彙研究との関わりについて検討していく。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	現代日本語における種々の言語現象を題材に、データ分析の手法や理論的な説明など、日本語研究に必要な知識と技能を身につけることを目的とする。
授業計画	<p>現代日本語における種々の言語現象の分析を進める。本年度は、「言語研究の実践的応用」プロジェクトと連動して、ゼミ形式で行う。</p> <p>第 1 回 (ガイダンス) 授業に関する基本的な説明を行う</p> <p>第 2 回 言語研究の実践的応用のあり方 (1) 「言語研究の実践的応用」プロジェクトの基本的なアカデミックプランニングについて紹介する。</p> <p>第 3 回 言語研究の実践的応用のあり方 (2) 「言語研究の実践的応用」プロジェクトの基本的な課題について紹介する。</p> <p>第 4 回 言語研究の実践的応用のあり方 (3) 「言語研究の実践的応用」プロジェクトと連動する「グローバル時代の母語教育」プロジェクトについて紹介する。</p> <p>第 5 回 言語研究の実践的応用のあり方 (4) 「言語研究の実践的応用」プロジェクトと連動する「次世代型辞典開発」プロジェクトについて紹介する。</p> <p>第 6 回 言語研究の実践的応用の展開 (1) 「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 7 回 言語研究の実践的応用の展開 (2) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 8 回 言語研究の実践的応用の展開 (3) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 9 回 言語研究の実践的応用の展開 (4) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 10 回 言語研究の実践的応用の展開 (5) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 11 回 言語研究の実践的応用の展開 (6) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 12 回 言語研究の実践的応用の展開 (7) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 13 回 言語研究の実践的応用の展開 (8) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 14 回 言語研究の実践的応用の展開 (9) 引き続き、「言語研究実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p>

	第 15 回言語研究の実践的応用の総括 授業全体を振り返り、総括を行う。
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語研究, 日本語研究の周辺領域, 言語教育, 言語情報サービス

授業科目名	現代日本語研究 (4B)
科目番号	02DT448
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 4
担当教員	矢澤 真人, 橋本 修
授業概要	現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法情報と語彙情報の辞書における記述について検討していく。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	現代日本語の種々の現象について、具体的な例をもとに分析していく。
授業計画	<p>言語研究の実践的応用プロジェクトと連動したゼミ形式により、言語研究の成果を言語教育や言語情報サービスに活かすための方策、および、それらの現場でどのような言語研究が求められているのかについて、検討する。主として、受講者の発表により、授業を進める。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回現代日本語の研究と応用 (1) 国語教育や日本語教育など、言語教育の分野において求められている言語学的な知見について検討する。</p> <p>第 3 回現代日本語の研究と応用 (2) 辞書編集や言語処理など、言語情報サービスの分野において求められている言語学的な知見について検討する。</p> <p>第 4 回現代日本語の研究と実践的応用 (1) 言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 5 回現代日本語の研究と実践的応用 (2) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 6 回現代日本語の研究と実践的応用 (3) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 7 回現代日本語の研究と実践的応用 (4) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 8 回現代日本語の研究と実践的応用 (5) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 9 回現代日本語の研究と実践的応用 (6) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 10 回現代日本語の研究と実践的応用 (7) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 11 回現代日本語の研究と実践的応用 (8) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 12 回現代日本語の研究と実践的応用 (9) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 13 回現代日本語の研究と実践的応用 (10) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p>

	<p>第 14 回現代日本語の研究と実践的応用 (11) 引き続き、言語研究の周辺の分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 15 回現代日本語の研究と応用 総括 現代日本語における研究成果と言語教育や辞書編集、言語処理など関連分野との関わりについて、全体の総括を行う。</p>
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	言語研究, 言語教育, 言語情報サービス

授業科目名	現代日本語研究 (5A)
科目番号	02DT449
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 6
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していくとともに、外国語との対照について検討していく。
備考	2020 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について検討する。
授業計画	<p>現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していく。今年度は、格関係と連用修飾関係との関わりを軸に検討していく。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回現代日本語の語順 (1) 格成分や連用修飾成分の語順を観察する。</p> <p>第 3 回現代日本語の語順 (2) 格成分や連用修飾成分の語順について分析・検討する。</p> <p>第 4 回現代日本語の語順 (3) 格成分や連用修飾成分の語順と文型についてに検討する。</p> <p>第 5 回現代日本語の格関係 (1) 文法格の用法について観察する。</p> <p>第 6 回現代日本語の格関係 (2) 文法格の用法を分析・検討する。</p> <p>第 7 回現代日本語の格関係 (3) 文法格と意味格との関わりについて検討する。</p> <p>第 8 回現代日本語の格関係 (4) 格の交替現象について観察する。</p> <p>第 9 回現代日本語の格関係 (5) 格の交替現象について分析・検討する。</p> <p>第 10 回現代日本語の連用修飾関係 (1) 結果や状態を表す連用修飾関係について観察・検討する。</p> <p>第 11 回現代日本語の連用修飾関係 (2) 状態や連続を表す連用修飾関係について観察・検討する。</p> <p>第 12 回現代日本語の連用修飾関係 (3) 頻度や傾向を表す連用修飾関係について観察・検討する。</p> <p>第 13 回現代日本語の連用修飾関係 (4) 主観的な判断を表す連用修飾関係について観察・検討する。</p> <p>第 14 回現代日本語の連用修飾関係 (5) 格成分と連用修飾成分との相関について観察・検討する。</p> <p>第 15 回まとめ</p>
履修条件	
成績評価方法	出席 (20%), 授業への参加状況 (20%), 期末レポート (60%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	

教材・参考文献・配付資料等	授業時にプリントを配布する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	現代日本語研究 (5B)
科目番号	02DT450
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 6
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法研究の翻訳論への寄与について検討していく。
備考	2020 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について検討する。春学期の講義をもとに、受講者による調査や報告、考察の発表をもとに検討する。
授業計画	<p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (1) 受講者の発表</p> <p>第 3 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (2) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 4 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (3) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 5 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (4) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 6 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (5) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 7 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (6) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 8 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (7) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 9 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (8) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 10 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (9) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 11 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (10) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 12 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (11) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 13 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (12) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 14 回現代日本語の文における格関係と連用修飾関係に関わる現象について (13) 受講者の発表。前回の続き</p> <p>第 15 回まとめ・補足</p>
履修条件	

成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	英語意味論演習 (1A)
科目番号	02DT521
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知と構文の意味機能の関係を扱った論文を中心に行なう。
備考	2016 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、認知と構文の意味機能の関係に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	予約により、随時。

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論, 機能論

授業科目名	英語意味論演習 (1B)
科目番号	02DT522
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、言語使用と構文の意味機能の関係を扱った論文を中心に行なう。
備考	2016 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、言語使用と構文の意味機能の関係に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等（連絡先含む）	予約により、随時。 研究室: 人文社会学系棟 A511 hirose.yukio.ft@u.tsukuba.ac.jp

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論, 機能論

授業科目名	英語意味論演習 (2A)
科目番号	02DT523
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心に行なう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、語用論・機能論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論, 機能論

授業科目名	英語意味論演習 (2B)
科目番号	02DT524
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心に行なう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、認知言語学に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論, 機能論

授業科目名	英語意味論演習 (3A)
科目番号	02DT525
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心に行なう。
備考	2018 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、認知言語学に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論, 機能論

授業科目名	英語意味論演習 (3B)
科目番号	02DT526
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心に行なう。
備考	2018 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、語用論・機能論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論, 機能論

授業科目名	英語意味論演習 (4A)
科目番号	02DT527
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心に行なう。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、語用論・機能論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	語用論, 機能論, 文献・論文のまとめと紹介, 批判的検討

授業科目名	英語意味論演習 (4B)
科目番号	02DT528
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心に挙げる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、認知言語学に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 認知意味論, 文献・論文のまとめと紹介, 批判的検討

授業科目名	英語意味論演習 (5A)
科目番号	02DT529
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、言語と認知の関係を扱った論文を中心に行なう。
備考	2020 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、言語と認知の関係に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論, 機能論

授業科目名	英語意味論演習 (5B)
科目番号	02DT530
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、文法と言語使用の関係を扱った論文を中心に行なう。
備考	2020 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、文法と言語使用の関係に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論, 機能論

授業科目名	英語統語論演習 (1A)
科目番号	02DT531
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、情報構造に関する論文を中心に行なう。
備考	2016 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、情報構造に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語統語論演習 (1B)
科目番号	02DT532
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、カートグラフィー理論に関する論文を中心に行なう。
備考	2016 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、カートグラフィー理論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語統語論演習 (2A)
科目番号	02DT533
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、併合に関する論文を中心に行なう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、併合に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語統語論演習 (2B)
科目番号	02DT534
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、ラベリングに関する論文を中心に行なう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、ラベリングに関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語統語論演習 (3A)
科目番号	02DT535
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、関係節に関する論文を中心に行なう。
備考	2018 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、関係節に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成統語論, 言語理論, 普遍文法

授業科目名	英語統語論演習 (3B)
科目番号	02DT536
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、数量表現に関する論文を中心に行なう。
備考	2018 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、数量表現に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成統語論, 言語理論, 普遍文法

授業科目名	英語統語論演習 (4A)
科目番号	02DT537
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、統語論と形態論の関係に関する論文を中心に行なう。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、疑問文に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語統語論演習 (4B)
科目番号	02DT538
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、インターフェイスに関する論文を中心に行なう。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、否定文に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (14) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語統語論演習 (5A)
科目番号	02DT539
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、品詞論に関する論文を中心に行なう。
備考	2020 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、品詞論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語統語論演習 (5B)
科目番号	02DT540
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、修飾構造に関する論文を中心に行なう。
備考	2020 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、品詞論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特になし。特になし。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語学特講 (1A)
科目番号	02DT541
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、基礎力の充実および発信力の強化を図る。
備考	2016 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	主に修士論文執筆前の学生の受講を想定し、英語学の研究および勉強の仕方の基本を学ぶ。 具体的には、考えをまとめて発信する能力の充実を図る。
授業計画	第 1 回イントロダクション、ガイダンス 第 2 回論文を書くために必要な資料収集 1 第 3 回論文を書くために必要な資料収集 2 第 4 回アブストラクタイティング 1 第 5 回アブストラクタイティング 2 第 6 回アブストラクタイティング 3 第 7 回アブストラクタイティング 4 第 8 回中間のまとめ 第 9 回英語で考えをまとめる 1 第 10 回英語で考えをまとめる 2 第 11 回英語で考えをまとめる 3 第 12 回発表演習 1 第 13 回発表演習 2 第 14 回発表演習 3 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	授業への貢献度合い及びタームペーパーによる
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	授業時に案内 木曜 2 限 人文社会学系棟 B507 kanetani.masaru.gb[at]u.tsukuba.a*c.jp(at を at に変え、*を消す)

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	英語学特講 (1B)
科目番号	02DT542
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学の文献を教材として用いながら、特に修士論文執筆前の院生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力の強化を図る。
備考	2016 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	主に修士論文執筆前の学生の受講を想定し、英語学の研究および勉強の仕方の基本を学ぶ。 具体的には、テキストの輪読を通して、言語学理論の個別言語への応用方法を学習するとともに、英語で書かれた文献の読み方、英語学の方法論を幅広く学習する。
授業計画	第 1 回イントロダクション (授業の概要、テキスト、進め方)、認知言語学の概要 第 2 回テキストの精読と討論 1 第 3 回テキストの精読と討論 2 第 4 回テキストの精読と討論 3 第 5 回テキストの精読と討論 4 第 6 回テキストの精読と討論 5 第 7 回テキストの精読と討論 6 第 8 回中間のまとめ 第 9 回テキストの精読と討論 7 第 10 回テキストの精読と討論 8 第 11 回テキストの精読と討論 9 第 12 回テキストの精読と討論 10 第 13 回テキストの精読と討論 11 第 14 回テキストの精読と討論 12 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	「英語学特講 (1B)」:授業中の活動およびタームペーパーで評価する。 「英語学演習 II」:授業中の活動およびテキストの内容に基づくレポートで評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	授業時に案内します

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	英語学特講 (2A)
科目番号	02DT543
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学研究を進めるうえで必要な基礎知識、英語表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、基礎力の充実および実践的な発信力の強化を図る。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	
授業計画	<p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回研究発表演習 1:自分の研究の発表と質疑応答の演習</p> <p>第 3 回研究発表演習 2:自分の研究の発表と質疑応答の演習</p> <p>第 4 回研究発表演習 3:自分の研究の発表と質疑応答の演習</p> <p>第 5 回研究発表演習 4:自分の研究の発表と質疑応答の演習</p> <p>第 6 回研究発表演習 5:自分の研究の発表と質疑応答の演習</p> <p>第 7 回アブストラクト演習 1:研究発表応募のための英文アブストラクトを書く演習</p> <p>第 8 回アブストラクト演習 2:研究発表応募のための英文アブストラクトを書く演習</p> <p>第 9 回アブストラクト演習 3:研究発表応募のための英文アブストラクトを書く演習</p> <p>第 10 回アブストラクト演習 4:研究発表応募のための英文アブストラクトを書く演習</p> <p>第 11 回英語での研究発表演習 1</p> <p>第 12 回英語での研究発表演習 2</p> <p>第 13 回英語での研究発表演習 3</p> <p>第 14 回英語での研究発表演習 4</p> <p>第 15 回まとめ</p>
履修条件	
成績評価方法	授業中の活動およびタームペーパーで評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等 (連絡先含む)	
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	

授業科目名	英語学特講 (2B)
科目番号	02DT544
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語で書かれた認知言語学の文献の輪読を通して、修士論文執筆前の院生が、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	
授業計画	<p>第 1 回ガイダンス (授業の概要、テキスト、進め方)、認知言語学の概要</p> <p>第 2 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 1</p> <p>第 3 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 2</p> <p>第 4 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 3</p> <p>第 5 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 4</p> <p>第 6 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 5</p> <p>第 7 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 6</p> <p>第 8 回中間のまとめ</p> <p>第 9 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 7</p> <p>第 10 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 8</p> <p>第 11 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 9</p> <p>第 12 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 10</p> <p>第 13 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 11</p> <p>第 14 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 12</p> <p>第 15 回まとめ</p>
履修条件	
成績評価方法	02DT544 英語学特講 (2B):授業への貢献度合い及びチームペーパーによる。 01B8323 英語学演習 III:授業への貢献度合い及び期末レポートによる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回授業で案内する。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	木曜 2 限 人文社会学系棟 B507 kanetani.masaru.gb[at]u.tsukuba.a*c.j*p(at を at に変え、*を消す)

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	英語学特講 (3A)
科目番号	02DT545
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、基礎的な表現力・発信力の充実を図る。
備考	2018 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	英語学の文献を教材として用いながら、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などに関する基礎知識の養成を図る。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 第 3 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 第 4 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 第 5 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 第 6 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 第 7 回要約演習と討議 第 8 回要約演習と討議 第 9 回要約演習と討議 第 10 回要約演習と討議 第 11 回プレゼンテーション演習 第 12 回プレゼンテーション演習 第 13 回プレゼンテーション演習 第 14 回プレゼンテーション演習 第 15 回まとめ 各回の内容はあくまでも参考であり、変更の可能性がある。
履修条件	
成績評価方法	授業への貢献、タームペーパーで総合的に評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回授業時に提示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	

授業科目名	英語学特講 (3B)
科目番号	02DT546
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆以前の大学院生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力の強化を図る。
備考	2018 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標 (学修成果)	英語学の文献を教材として用いながら、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識の養成と、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考に関わる応用力の強化を図る。
授業計画	<p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (1)</p> <p>第 3 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (2)</p> <p>第 4 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (3)</p> <p>第 5 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (4)</p> <p>第 6 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (5)</p> <p>第 7 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (6)</p> <p>第 8 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (7)</p> <p>第 9 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (8)</p> <p>第 10 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (9)</p> <p>第 11 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (10)</p> <p>第 12 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (11)</p> <p>第 13 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (12)</p> <p>第 14 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (13)</p> <p>第 15 回まとめ 各回の内容はあくまでも参考であり、変更の可能性がある。</p>
履修条件	
成績評価方法	02DT546 英語学特講 (3B):授業への貢献度合い及びタームペーパーによる。 01B8324 英語学演習 IV:授業への貢献度合い及び期末レポートによる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回授業で案内。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	木曜 2 限 人文社会学系棟 B507 kanetani.masaru.gb[at]u.tsukuba.a*c.j*p(at を at に変え、*を消す)

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	英語学特講 (4A)
科目番号	02DT547
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆前の学生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、表現力・発信力の充実を図る。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆前の段階の学生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、発信力・言語分析力の充実を図る。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回報告者の発表に基づく、コメントと討議 (1) 第 3 回報告者の発表に基づく、コメントと討議 (2) 第 4 回報告者の発表に基づく、コメントと討議 (3) 第 5 回報告者の発表に基づく、コメントと討議 (4) 第 6 回よいアブストラクトの書き方 第 7 回アブストラクト演習 (1) 第 8 回アブストラクト演習 (2) 第 9 回アブストラクト演習 (3) 第 10 回アブストラクト演習 (4) 第 11 回プレゼンテーション演習 (1) 第 12 回プレゼンテーション演習 (2) 第 13 回プレゼンテーション演習 (3) 第 14 回プレゼンテーション演習 (4) 第 15 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	評価は、タームペーパーならびに授業への貢献度を総合的に判断して行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回授業時に提示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	言語学的知識, 発信力

授業科目名	英語学特講 (4B)
科目番号	02DT548
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆前の段階の学生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力・言語分析力の充実を図る。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆前の段階の学生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力・言語分析力の充実を図る。
授業計画	<p>構文文法理論に関する英語で書かれた文献を使って読解力を鍛え、批判的検討を加えつつ、参加者による議論を行う。適宜、解説を加える。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (1)</p> <p>第 3 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (2)</p> <p>第 4 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (3)</p> <p>第 5 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (4)</p> <p>第 6 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (5)</p> <p>第 7 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (6)</p> <p>第 8 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (7)</p> <p>第 9 回プレゼンテーション演習と討議 (1)</p> <p>第 10 回プレゼンテーション演習と討議 (2)</p> <p>第 11 回プレゼンテーション演習と討議 (3)</p> <p>第 12 回プレゼンテーション演習と討議 (4)</p> <p>第 13 回プレゼンテーション演習と討議 (5)</p> <p>第 14 回論文全体の総括と討論</p> <p>第 15 回まとめ</p>
履修条件	
成績評価方法	授業への貢献度合い及びタームペーパーによる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回授業時に提示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	言語学的知識, 読解力

授業科目名	英語学特講 (5A)
科目番号	02DT549
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学の文献を教材として用いながら、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、考えをまとめて発信する能力の充実を図る。
備考	文芸・言語専攻英語学領域 2 年生に履修を制限する。 2020 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	主に修士論文執筆前の学生の受講を想定し、英語学の研究および勉強の仕方の基本を学ぶ。 具体的には、考えをまとめて発信する能力の充実を図る。
授業計画	第 1 回イントロダクション、ガイダンス 第 2 回論文を書くために必要な資料収集 1 第 3 回論文を書くために必要な資料収集 2 第 4 回アブストラクタイティング 1 第 5 回アブストラクタイティング 2 第 6 回アブストラクタイティング 3 第 7 回アブストラクタイティング 4 第 8 回中間のまとめ 第 9 回英語で考えをまとめる 1 第 10 回英語で考えをまとめる 2 第 11 回英語で考えをまとめる 3 第 12 回発表演習 1 第 13 回発表演習 2 第 14 回発表演習 3 第 15 回まとめ
履修条件	文芸・言語専攻英語学コース 2 年生のみ履修可
成績評価方法	授業への貢献度合い及びタームペーパーによる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回授業で案内する
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	英語学特講 (5B)
科目番号	02DT550
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学の文献を教材として用いながら、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力と問題解決への応用力の強化を図る。
備考	文芸・言語専攻英語学領域 2 年生に履修を制限する。 2020 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	主に修士論文執筆前の学生の受講を想定し、英語学の研究および勉強の仕方の基本を学ぶ。 具体的には、テキストの輪読を通して、言語学理論の個別言語への応用方法を学習するとともに、英語で書かれた文献の読み方、英語学の方法論を幅広く学習する。
授業計画	指定したテキストを輪読しながら、問題点を議論する。 第 1 回イントロダクション (授業の概要、テキスト、進め方)、構文文法理論の概要 第 2 回テキストの精読と討論 1 第 3 回テキストの精読と討論 2 第 4 回テキストの精読と討論 3 第 5 回テキストの精読と討論 4 第 6 回テキストの精読と討論 5 第 7 回テキストの精読と討論 6 第 8 回中間のまとめ 第 9 回テキストの精読と討論 7 第 10 回テキストの精読と討論 8 第 11 回テキストの精読と討論 9 第 12 回テキストの精読と討論 10 第 13 回テキストの精読と討論 11 第 14 回テキストの精読と討論 12 第 15 回まとめ
履修条件	文芸、言語専攻英語学コース 2 年生のみ履修可
成績評価方法	授業中の活動およびタームペーパーで評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	初回授業で案内する。

オフィスアワー等（連絡先含む）	耐震工事に伴う研究室移転でオフィスアワー設定が困難なため、メールでアポイントメントを取ってください。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	担当者はしっかりと事前にテキストを読み込んでおくこと。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	構文文法, 論文の読み方, 議論の仕方

授業科目名	歴史言語学 A
科目番号	02DT901
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 5
担当教員	池田 潤, 柳田 優子
授業概要	世界のさまざまな言語を例に、伝統的な歴史言語学の方法論の基礎を学ぶ。具体的には、(1) 歴史言語学の研究史、(2) 音法則 [概論]、(3) 音法則 [合流と分裂]、(4) 音法則 [同化]、(5) 音法則 [弱化]、(6) 音法則 [その他の変化]、(7) 借用、(8) 類推、(9) 内的再建、(10) 比較による祖語の再建を論じる。毎回の授業では講義を行った上で、それをふまえて受講生が自ら例題を通時的に分析してみることにより、言語変化の諸相、規則性、要因等に対する理解を深めていく。
備考	0ABAG10 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「知の活用力」、専門コンピテンス「研究力」「専門知識」「思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	(1) 歴史言語学の方法論の基礎を理解すること。 To gain fundamental understanding of methodology in historical linguistics (2) この専門知識を活用して自ら事例を分析することで、歴史言語学的な思考力と研究力を涵養すること。 To develop capacity for historical linguistic thinking and exploration by putting the understanding into practice through analysis of actual cases
授業計画	すべての授業を manaba で行う。 All sessions will be conducted via manaba. 第 1 回導入、歴史言語学とは?(概説) Reading: Campbell (2013), 1 Introduction (1.1-1.3) 第 2 回導入、歴史言語学とは?(例題) Exercises: Campbell (2013), 1 Introduction (1.4) 第 3 回音法則 (概説) Reading: Campbell (2013), 2 Sound change (2.1-2.9) 第 4 回音法則 (例題) Exercises: Campbell (2013), 2 Sound change (2.10) 第 5 回類推 (概説) Reading: Campbell (2013), 4 Analogical Change (4.1-4.7) 第 6 回類推 (例題) Exercises: Campbell (2013), 4 Analogical Change (4.8) 第 7 回祖語の再建 (概説) Reading: Campbell (2013), 5 The Comparative Method and Linguistic Reconstruction (5.1-5.5) 第 8 回祖語の再建 (例題) Exercises: Campbell (2013), 5 The Comparative Method and Linguistic Reconstruction (5.6)

	<p>第 9 回内的再建 (概説) Reading: Campbell (2013), 8 Internal Reconstruction (8.1-8.5)</p> <p>第 10 回内的再建 (例題) Exercises: Campbell (2013), 8 Internal Reconstruction (8.6)</p>
履修条件	
成績評価方法	<p>manaba 上のアクティビティ (閲覧、質問、小テストなど) と、隔週のミニレポートによって評価する。</p> <p>Activities on manaba (viewing contents, asking questions, quizzes, etc.) and biweekly papers</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>1) 概説の回:教科書の指定の箇所を読み、manaba で小テストを受ける。 Reading sessions: Read the assigned pages of the textbook and take a quiz on manaba.</p> <p>2) 演習の回:manaba で指定された問題を解き、ミニレポートとして提出する。 Exercise sessions: Solve the assigned exercises, and hand in your solutions via manaba</p>
教材・参考文献・配付資料等	<p>1. L. Campbell, Historical Linguistics, Third Edition, The MIT Press, 2013 各自、Kindle 版 (4463 円) かペーパーバック版 (7856 円) を Amazon 等から事前に入手しておくこと。</p> <p>Each Student is required to purchase a copy of the textbook (4463 yen for Kindle edition; 7856 yen for the paperback) prior to the first class.</p>
オフィスアワー等 (連絡先含む)	<p>池田 潤 金 4 限 (メールにて要予約) 人文社会学系棟 A517 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp</p>
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	<p>歴史言語学, 音変化, 類推, 内的再建, 比較言語学, historical linguistics, sound change, analogy, internal reconstruction, comparative linguistics</p>

授業科目名	歴史言語学 B
科目番号	02DT902
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 火 5
担当教員	池田 潤, 柳田 優子
授業概要	授業前半では、生成文法と言語類型論の枠組みで言語変化の普遍性と個別性について考察する。特に、語順、格の変化など、言語の骨格となる文法変化に焦点をあてて授業をすすめる。授業後半では日本語の文法変化を扱う。理論の枠組みを用いて仮説を立て、日本語の資料を見ていくと、日本語にも言語の普遍性に関わる変化が起こっていることがわかります。上代日本語 (8 世紀頃) から中古 (12 世紀頃) の散文資料を用いて、実証研究をする方法論を紹介する。
備考	0ABAG11 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「知の活用力」、専門コンピテンス「研究力」「専門知識」「思考力」に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	言語類型論の枠組みで言語の文法変化の分析方法を学ぶ。 生成文法の枠組みで言語の文法変化の分析方法を学ぶ。 英語と日本語、また関連する言語を具体的事例として学ぶ。
授業計画	第 1 回理論的枠組みの紹介 (Introduction: Theoretical approaches and research questions) 第 2 回再分析 (reanalysis) 第 3 回拡張 (extension) 第 4 回構造の単純化 (structural simplicity) 第 5 回語順の変化 (1) (word order) 第 6 回語順の変化 (2) 第 7 回語順の変化 (3) 第 8 回格システムの変化 (1) (alignment change) 第 9 回格システムの変化 (2) 第 10 回格システムの変化 (3)
履修条件	
成績評価方法	出席と最終レポートで評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	

教材・参考文献・配付資料等	資料は授業中に配布する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	語順 (word order), 格システム (alignment), 再分析 (reanalysis), 拡張 (extension), 言語接触 (language contact)

授業科目名	生成統語論 A
科目番号	02DT903
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 月 4
担当教員	加賀 信広, 島田 雅晴, 山村 崇斗
授業概要	チョムスキーに始まり「普遍文法」を視野にいれた生成統語論の観点から言語現象を考察する。具体的には、英語および日本語を中心とするいくつかの言語から題材をもとめ、生成統語論的な分析の実践例を数多く見ることを通して、研究の目的および手法を理解し、自らが生成統語論の立場で新たな文法現象の発掘、分析、議論ができるようになることを目指す。この授業では、主に句構造、形式素性、移動現象にかかわる問題に焦点をあてる。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG12 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	生成統語論の観点から言語現象を捉え、分析方法を身に付けるとともに、自らの言葉で議論できるようになる。
授業計画	生成統語論の最近の論文をとりあげ、担当者を決めて内容の報告を行い、関連する項目について解説するとともに、それに基づいた討論を行う。 第 1 回ガイダンス 第 2 回論文の内容報告、解説、および、討論 (1) 第 3 回論文の内容報告、解説、および、討論 (2) 第 4 回論文の内容報告、解説、および、討論 (3) 第 5 回論文の内容報告、解説、および、討論 (4) 第 6 回論文の内容報告、解説、および、討論 (5) 第 7 回論文の内容報告、解説、および、討論 (6) 第 8 回論文の内容報告、解説、および、討論 (7) 第 9 回論文の内容報告、解説、および、討論 (8) 第 10 回論文の内容報告、解説、および、討論 (9)
履修条件	
成績評価方法	プレゼンテーションの内容と学期末のタームペーパーの内容を総合して判断する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	第 1 回の授業時に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	生成文法, 統語論, 句構造, 形式素性, 移動現象

授業科目名	生成統語論 B
科目番号	02DT904
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 月 4
担当教員	加賀 信広, 島田 雅晴, 山村 崇斗
授業概要	チョムスキーに始まり「普遍文法」を視野にいれた生成統語論の観点から言語現象を考察する。具体的には、英語および日本語を中心とするいくつかの言語から題材をもとめ、生成統語論的な分析の実践例を数多く見ることを通して、研究の目的および手法を理解し、自らが生成統語論の立場で新たな文法現象の発掘、分析、議論ができるようになることを目指す。この授業では、主に構造格、束縛とコントロール、省略現象にかかわる問題に焦点をあてる。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG13 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	生成統語論の観点から言語現象を捉え、分析方法を身に付けるとともに、自らの言葉で議論できるようになる。
授業計画	生成統語論の最近の論文をとりあげ、担当者を決めて内容の報告を行い、関連する項目について解説するとともに、それに基づいた討論を行う。 第 1 回ガイダンス 第 2 回論文の内容報告、解説、および、討論 (1) 第 3 回論文の内容報告、解説、および、討論 (2) 第 4 回論文の内容報告、解説、および、討論 (3) 第 5 回論文の内容報告、解説、および、討論 (4) 第 6 回論文の内容報告、解説、および、討論 (5) 第 7 回論文の内容報告、解説、および、討論 (6) 第 8 回論文の内容報告、解説、および、討論 (7) 第 9 回論文の内容報告、解説、および、討論 (8) 第 10 回論文の内容報告、解説、および、討論 (9)
履修条件	
成績評価方法	プレゼンテーションの内容と学期末のタームペーパーの内容を総合して判断する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	第 1 回の授業時に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	生成文法, 統語論, 構造格, 束縛とコントロール, 省略現象

授業科目名	認知意味論 A
科目番号	02DT905
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 月 3
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら認知意味論的な観点から考察する。認知意味論の観点というのは、言語が語る意味の世界は客体世界そのものではなく、人間の目を通した世界であり、したがって言語の意味を考えると、人間がものごとをどのように理解し、経験するかという視点が不可欠とするものである。この授業では、特に、言語と認知の関係に関わる様々な語彙・構文現象に焦点をあてる。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAG14 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用いて自らの言葉でまとめたり、解説したりできるようになることが到達目標である。この授業では、認知言語学の考え方・歴史的背景・方法論・語の意味論を中心に考察する。
授業計画	英語で書かれたテキストを読みながら、主に言語の意味と認知の関係について考えるとともに、認知言語学の研究方法も身につける。 第 1 回ガイダンス:授業テーマの概観、授業の進め方確認、テキスト担当箇所割当など 第 2 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:認知言語学の考え方 (基礎) 第 3 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:認知言語学の考え方 (発展) 第 4 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:認知言語学の歴史的背景 (基礎) 第 5 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:認知言語学の歴史的背景 (発展) 第 6 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:認知言語学の方法論 (基礎) 第 7 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:認知言語学の方法論 (発展) 第 8 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:語の意味論 (基礎) 第 9 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:語の意味論 (発展) 第 10 回全体のまとめと総括
履修条件	言語学の英文論文を十分に読めるだけの英語力を必要とする。
成績評価方法	成績評価は、担当箇所報告の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	テキストの英文を精読し、その内容についてできるだけ自分なりのことばでも説明できるように、十分に予習して授業に臨むこと。
教材・参考文献・配付資料等	授業で読む英文テキストは、初回授業時に指示する。

オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約のこと。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論

授業科目名	認知意味論 B
科目番号	02DT906
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 月 3
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら認知意味論的な観点から考察する。認知意味論的観点というのは、言語が語る意味の世界は客体世界そのものではなく、人間の目を通した世界であり、したがって言語の意味を考えると、人間がものごとをどのように理解し、経験するかという視点が不可欠とするものである。この授業では、特に、文法と語用論の関係や言語使用に関わる様々な言語現象に焦点をあてる。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAG15 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用いて自らの言葉でまとめたり、解説したりできるようになることが到達目標である。この授業では、メタファー・メトニミー、構文、主観性、談話・コンテクストを中心に考察する。
授業計画	英語で書かれたテキストを読みながら、主に文法・認知・語用論の関係について考えるとともに、認知言語学と機能言語学の研究方法も身につける。 第 1 回ガイダンス:授業テーマの概観、授業の進め方確認、テキスト担当箇所割当など 第 2 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:メタファー・メトニミー (基礎) 第 3 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:メタファー・メトニミー (発展) 第 4 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:構文と意味 (基礎) 第 5 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:構文と意味 (発展) 第 6 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:主観性の文法 (基礎) 第 7 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:主観性の文法 (発展) 第 8 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:談話とコンテクスト (基礎) 第 9 回担当箇所の報告に基づく議論・解説:談話とコンテクスト (発展) 第 10 回全体のまとめと総括
履修条件	言語学の英文論文を十分に読めるだけの英語力を必要とする。
成績評価方法	成績評価は、担当箇所報告の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	テキストの英文を精読し、その内容についてできるだけ自分なりのことばでも説明できるように、十分に予習して授業に臨むこと。
教材・参考文献・配付資料等	授業で読む英文テキストは、初回授業時に指示する。

オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約のこと。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知言語学, 構文, 主観性, コンテキスト

授業科目名	対照言語学 A
科目番号	02DT907
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 月 5
担当教員	竹沢 幸一, 宮腰 幸一
授業概要	日本語のデータを出発点に他言語との比較対照をまじえながら、人間言語の普遍的および個別的側面について理論的な観点から考察する。この授業の目標は、対照言語分析に必要な理論的知識（主に生成文法）を獲得するとともに、言語間の異同さらには人間言語の個別性と普遍性に関する議論を具体的なデータからどのように組み立てるかを学ぶことである。最終的に受講生は、一定の理論的枠組みに則って研究論文が執筆できるまでになることが期待される。授業形態としては、基本的に前半を講義形式、後半を演習形式で授業を進める。
備考	0ABAG16 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	この授業の目標は、対照言語学の分析に必要な理論的知識（主に生成文法）を獲得するとともに、言語間の異同さらには人間言語の個別性と普遍性に関する議論を具体的なデータからどのように組み立てるかを学ぶことである。最終的に受講生は、一定の理論的枠組みに則って研究論文が執筆できるまでになることが期待される。
授業計画	第 1 回から 5 回までは講義、第 6 回から第 10 回までは学生による発表。受講生の人数によって予定を変更することがある。 第 1 回イントロ:生成文法における格研究 第 2 回標準理論と格研究 第 3 回 GB 理論と格研究 第 4 回ミニマリスト理論と格研究 第 5 回主格について 第 6 回学生発表 1 第 7 回学生発表 2 第 8 回学生発表 3 第 9 回学生発表 4 第 10 回学生発表 5
履修条件	
成績評価方法	発表 50% とレポート 50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	参考文献の内容理解に努める。
教材・参考文献・配付資料等	関連文献を manaba にアップする。
オフィスアワー等（連絡先含む）	アポイントメントによる。

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生成文法, 日本語統語論, 比較統語論・形態論

授業科目名	対照言語学 B
科目番号	02DT908
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 6
担当教員	竹沢 幸一, 宮腰 幸一
授業概要	このコースの目的は、対照言語学の基礎的知識と実践的研究能力の涵養である。まず、主に日本語と英語の身近な具体例を出発点に、いくつかの事例研究の概観・検討を通して対照言語学の射程・目標・方法・意義・成果などを学びながら、受講者それぞれが自分のテーマで対照言語学的研究を試み、実践的な観察・分析・実証・立論能力を養う。その後、各受講者に研究成果を順番に発表してもらい、その内容についてクラス全員で議論する。基本的に、前半は講義形式、後半は演習/セミナー形式で授業を進めるが、その割合は受講者の希望や進展状況に応じて調整する。
備考	0ABAG17 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	このコースの目標は、対照言語学の基礎（射程・目標・方法・意義・成果など）の獲得と具体的事例研究の実践である。受講者各自の研究成果は口頭発表/論文の形にまとめることが望まれる。
授業計画	前半は講義、後半は学生による発表。講義では、具体的事例として主にヴォイス（受動/使役/逆使役/授受/結果表現など）を取り上げる。 第 1 回導入・講義 1(対照言語学の基礎) 第 2 回講義 2(受動表現の対照研究) 第 3 回講義 3(使役/逆使役表現の対照研究) 第 4 回講義 4(授受表現の対照研究) 第 5 回講義 5(結果表現の対照研究) 第 6 回学生発表 1 第 7 回学生発表 2 第 8 回学生発表 3 第 9 回学生発表 4 第 10 回学生発表 5
履修条件	
成績評価方法	フィードバック（各講義・発表への質問・コメント）50%、口頭発表/論文 50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各講義・発表の関連論文の読解
教材・参考文献・配付資料等	授業時に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	宮腰 幸一 水曜日 17 時~18 時 人文社会学系棟 B607 km.ut.students at gmail.com

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	比較・対照, 類型論, ヴォイス (受動/使役/逆使役/授受/結果表現)

授業科目名	音韻論 A
科目番号	02DT909
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 5
担当教員	那須 昭夫
授業概要	言語の音声・音韻に関する研究について理解するうえで必要とされる、基礎的な知識および観点を身につけることを目標とする。記述・理論にわたる音韻論の基礎的な概念および知見について、講義を通じて理解を深めるとともに、日本語を中心とする分節音韻現象の分析事例を学びながら、音韻研究の方法についての理解を図る。その理解に立って、実際の分析課題に受講者各自が取り組み、その成果を発表するとともに、相互の討議を通じて合理的な音韻分析のあり方について考察する。授業で扱う主要なトピックは次のとおりである。言語音の生成過程/言語音の分類/音韻対立と中和/音韻素性/異音の分布/素性階層/異形態現象
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG20 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	音韻理論に関する基礎的な知識を身につけ、分節音韻現象についての記述的・理論的考察が行えるようになる。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド教材を配信し、それに関する課題の提出・解説を manaba にて行う。 ・manaba と Microsoft Teams を併用する予定。教材（動画等）の URL・アクセスコード等は manaba に掲載する。 ・必要な連絡を行う場合、manaba を通じて行う。manaba がすべての履修情報の入り口となるので、頻繁に参照すること。 第 1 回ガイダンス（文献の解説等） 第 2 回言語音 第 3 回言語音の分類 第 4 回対立と中和 第 5 回音韻素性 第 6 回異音の分布 第 7 回素性階層 第 8 回異形態現象 第 9 回音韻過程の記述 第 10 回音韻過程の分析
履修条件	
成績評価方法	授業中のディスカッションの内容 (50%)、学期末レポート (50%) により評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・音声学の基礎知識は音韻研究の基盤であるので、音声学未修者は次のテキストを参考に自習を行うこと。齊藤純男『日本語音声学入門（改訂版）』三省堂 ・授業内容を十分に理解するためには参考文献による自習が欠かせない。とくに用語や概念については文献を通じて各自理解を定着させる。 ・授業資料（プリント）では、音韻現象・分析事例とともに、それらにかかわる設問を示してある。授業ではその設問について受講者自身が考え、発表する機会があるので、すべての資料にあらかじめ目を通しておく。 ・学期の後半には音韻分析の実例を取り上げるので、それまでに関連論文を通読しておくことが望ましい。
教材・参考文献・配付資料等	参考文献 1~6 は音韻理論のテキスト、7~8 は理論研究の成果をまとめたハンドブック。

オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	音韻論 B
科目番号	02DT910
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 C 火 3,4
担当教員	那須 昭夫
授業概要	音韻論の基礎的な事項の理解に基づいて、音韻分析の手法を身につけることを目標とする。音韻分析の理論的手法について講義を通じて理解を深めるとともに、日本語を中心とする分節現象・韻律現象の分析事例を学びながら、音韻論的考察の方法について理解を深める。その理解に立って、実際の分析課題に受講者各自が取り組み、その成果を発表するとともに、相互の討議を通じて合理的な音韻分析・韻律分析のあり方について考察する。授業で扱う主要なトピックは次のとおりである。音韻分析と音韻理論/音韻的不透明性/制約理論の基礎/アクセント論の基礎/韻律分析の手法/アクセント現象と一般化
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG21 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	音韻理論に関する基礎的な知識を身につけ、分節音韻現象ならびに韻律音韻現象について、記述的・理論的分析が行えるようになる。
授業計画	第 1 回ガイダンス (文献紹介など) 第 2 回音韻分析の手法 第 3 回音便現象 第 4 回不透明性 第 5 回連濁および硬音化 第 6 回アクセントと一般化 第 7 回方言アクセントの体系 第 8 回付属語於アクセント 第 9 回アクセントの変異 第 10 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	授業中のディスカッションの内容 (50%)、学期末レポート (50%) により評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・音声学の基礎知識は音韻研究の基盤であるので、音声学未修者は次のテキストを参考に自習を行うこと。齊藤純男『日本語音声学入門 (改訂版)』三省堂 ・授業内容を十分に理解するためには参考文献による自習が欠かせない。とくに用語や概念については文献を通じて各自理解を定着させる。 ・授業資料 (プリント) では、音韻現象・分析事例とともに、それらにかかわる設問を示してある。授業ではその設問について受講者自身が考え、発表する機会があるので、すべての資料にあらかじめ目を通しておく。

教材・参考文献・配付資料等	<p>1~5 は音韻理論のテキスト、 6~7 は日本語の音韻論に関するもの。 8 は日本語のアクセントに関するもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Kenstowicz, M., "Phonology in Generative Grammar", Blackwell, 1994. 2. Roca, I. and W. Johnson., "A Course in Phonology", Blackwell, 1999. 3. 菅原真理子編, 『音韻論 (日英対照言語学シリーズ 3)』, 朝倉書店, 2014. 4. 窪園晴夫, 『日本語の音声 (現代言語学入門 2)』, 岩波書店, 1999. 5. 田窪行則ほか, 『岩波講座言語の科学 2:音声』 岩波書店, 1998. 6. Kubozono, H. ed., "The Handbook of Japanese Phonetics and Phonology", Gruyter de Mouton, 2015. 7. 上野善道編, 『朝倉日本語講座 3:音声・音韻』, 朝倉書店, 2003. 8. 松森晶子ほか, 『日本語アクセント入門』 酸性度, 2012.
オフィスアワー等 (連絡先含む)	
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	

授業科目名	形態論 A
科目番号	02DT911
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 月 4
担当教員	田川 拓海
授業概要	屈折形態論に関する研究史を概観し、それぞれの理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見るとともに、主要な問題・対立点について整理する。次に、同形性、補充、ゼロ形態等、屈折形態論研究における重要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討し、各理論・モデルを用いた分析の利点・難点について考える。対象言語は日本語・英語を中心とするが、必要に応じて様々な言語を取り上げる。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAG22 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」、「2. 専門知識」、「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	日本語を中心とした様々な言語の屈折形態論に関わる形態現象を取り上げ、形態論研究において基礎となる理論・モデル、用語・概念、主要な研究テーマに関する基本的な知識および研究の方法論を身に付ける。
授業計画	<p>屈折形態論に関する研究史を概観し、主要な理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見る。次に、同形性、補充、ゼロ形態等、主要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討する。対象言語は日本語・英語を中心としながら、必要に応じて様々な言語を取り上げる。</p> <p>第 1 回言語学における屈折形態論の位置づけ 第 2 回屈折形態論と統語論、形態統語論 第 3 回屈折形態論と音韻論、形態音韻論 第 4 回形態素基盤モデルとパラダイム基盤モデル (1):形態論研究史 第 5 回形態素基盤モデルとパラダイム基盤モデル (2):現代の形態理論 第 6 回屈折形態論の基本概念 (1):同形性、補充、ゼロ形態 第 7 回屈折形態論の基本概念 (2):総合性と分析性、迂言法 第 8 回日本語の屈折形態論 (1):活用と膠着性 第 9 回日本語の屈折形態論 (2):対照研究 第 10 回現代における形態論的類型論</p>
履修条件	
成績評価方法	期末課題 (レポート)60%, 授業内の課題への取り組み 40%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	

教材・参考文献・配付資料等	1. Lieber, Rochelle,(2010) Introducing Morphology. Cambridge University Press. 2. 漆原朗子編,(2016) 『朝倉日英対照言語学シリーズ 4 形態論』朝倉書店.
オフィスアワー等（連絡先含む）	木:8:40-9:55 人文社会学系棟 A613 tagawa.takumi.kp at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	形態論 B
科目番号	02DT912
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 月 4
担当教員	田川 拓海
授業概要	複合を含む派生形態論に関する研究史を概観し、それぞれの理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見るとともに、主要な問題・対立点について整理する。次に、同音異義性・類義性・多義性、阻止、項構造等、派生形態論研究における重要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討し、各理論・モデルを用いた分析の利点・難点について考える。対象言語は日本語・英語を中心とするが、必要に応じて様々な言語を取り上げる。
備考	西暦奇数年度開講。 0ABAG23 と同一。 2020 年度開講せず。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」、「2. 専門知識」、「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	日本語を中心とした様々な言語の派生形態論に関わる形態現象を取り上げ、形態論研究において基礎となる理論・モデル、用語・概念、主要な研究テーマに関する基本的な知識および研究の方法論を身に付ける。
授業計画	派生形態論に関する研究史を概観し、主要な理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見る。次に、同音異義性・類義性、多義性、阻止、項構造等、主要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討する。対象言語は日本語・英語を中心としながら、必要に応じて様々な言語を取り上げる。 第 1 回言語学における派生形態論の位置づけ 第 2 回派生形態論と統語論、形態統語論 第 3 回派生形態論のモデル (1): 語彙主義 第 4 回派生形態論のモデル (2): 統語的アプローチ 第 5 回派生形態論の基本概念 (1): 範疇と品詞 第 6 回派生形態論の基本概念 (2): 項構造と複合 第 7 回派生形態論の基本概念 (3): 阻止と同音異義性、類義性、多義性 第 8 回日本語の派生形態論 (1): 複合動詞と関連現象 第 9 回日本語の派生形態論 (2): 外来語の形態的・文法的性質 第 10 回派生形態論と対照研究
履修条件	
成績評価方法	期末課題 (レポート)60%, 授業内の課題への取り組み 40%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	

教材・参考文献・配付資料等	1. Lieber, Rochelle,(2010) Introducing Morphology. Cambridge University Press. 2. 漆原朗子編,(2016) 『朝倉日英対照言語学シリーズ 4 形態論』朝倉書店.
オフィスアワー等（連絡先含む）	木:8:40-9:55 人文社会学系棟 A613 tagawa.takumi.kp at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	日本語文法論 IA
科目番号	02DT921
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 C 木 3,4
担当教員	矢澤 真人, 沼田 善子, 杉本 武, 橋本 修, 石田 尊
授業概要	現代日本語文法の文法カテゴリーについて、これまでの研究を踏まえ、さらにどのような課題があるか考察し、現代日本語文法の諸現象に関して、課題発見型のアプローチを行う能力を身につける。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG30 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語文法の諸現象に関して、課題発見型のアプローチを行う能力を身につける。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回格 第 3 回ヴォイス 第 4 回テンス・アスペクト 第 5 回とりたて 第 6 回修飾 第 7 回復文 第 8 回モダリティ 第 9 回その他の文法カテゴリー 第 10 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	討論への参加度 (40%) とレポート (60%) を総合して評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	指示された文献を読み、どのような課題があり、どのように解決すべきか検討する。
教材・参考文献・配付資料等	テキストは授業時に指示する。参考文献は以下の通り。 1. 仁田義雄・村木新次郎・柴谷方良・矢澤真人, 『日本語の文法 1 文の骨格』, 岩波書店、2000 年 2. 金水敏・工藤真由美・沼田善子, 『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』, 岩波書店、2000 年 3. 森山卓郎・仁田義雄・工藤真由美, 『日本語の文法 3 モダリティ』, 岩波書店、2000 年 4. 野田尚史・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則, 『日本語の文法 4 複文と談話』, 岩波書店、2002 年 その他、授業時に適時指示する。

<p>オフィスアワー等（連絡先含む）</p>	<p>矢澤 真人 火:2時限（要予約） 4時限（要予約） 水:2時限（要予約） 木:2時限（要予約） 5時限 金:3時限 人文社会学系棟 A606 yazawa.makoto.gn at u.tsukuba.ac.jp http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/myazawa/ 沼田 善子 金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp 杉本 武 メールによるアポイントメント 人文社会学系棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/ 橋本 修 水:13:30～17:00（会議日等を除く）要予約 木:11:30～13:00 要予約 人文社会学系棟 A610 hashimoto.osamu.gf at u.tsukuba.ac.jp 石田 尊 メールによるアポイントメント ishida.takeru.ft at u.tsukuba.ac.jp</p>
<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	
<p>キーワード</p>	<p>日本語文法</p>

授業科目名	日本語文法論 IB
科目番号	02DT922
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 C 木 3,4
担当教員	矢澤 真人, 沼田 善子, 杉本 武, 橋本 修, 石田 尊
授業概要	現代日本語文法と言語の機能などがどのように関わるか、複合的な観点と応用的な観点から考察し、現代日本語の文法について様々な角度から、課題解決型のアプローチを行う能力を身につける。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG31 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	現代日本語の文法について様々な角度から、課題解決型のアプローチを行う能力を身につける。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回文法と事態認識 第 3 回文法と空間認識 第 4 回文法と時間認識 第 5 回文法と主観性 第 6 回文法と語用論 第 7 回文法と教育 第 8 回文法と辞書 第 9 回文法と自然言語処理 第 10 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	討論への参加度 (40%) とレポート (60%) を総合して評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	テキストは授業時に指示する。参考文献は以下の通り。 1. 仁田義雄・村木新次郎・柴谷方良・矢澤真人, 『日本語の文法 1 文の骨格』, 岩波書店、2000 年 2. 金水敏・工藤真由美・沼田善子, 『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』, 岩波書店、2000 年 3. 森山卓郎・仁田義雄・工藤真由美, 『日本語の文法 3 モダリティ』, 岩波書店、2000 年 4. 野田尚史・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則, 『日本語の文法 4 複文と談話』, 岩波書店、2002 年 その他、授業時に適時指示する。

<p>オフィスアワー等（連絡先含む）</p>	<p>矢澤 真人 火:2時限（要予約） 4時限（要予約） 水:2時限（要予約） 木:2時限（要予約） 5時限 金:3時限 人文社会学系棟 A606 yazawa.makoto.gn at u.tsukuba.ac.jp http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/myazawa/ 沼田 善子 金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp 杉本 武 メールによるアポイントメント 人文社会学系棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/ 橋本 修 水:13:30～17:00（会議日等を除く）要予約 木:11:30～13:00 要予約 人文社会学系棟 A610 hashimoto.osamu.gf at u.tsukuba.ac.jp 石田 尊 メールによるアポイントメント ishida.takeru.ft at u.tsukuba.ac.jp</p>
<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	
<p>キーワード</p>	<p>日本語文法</p>

授業科目名	日本語意味論 A
科目番号	02DT925
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 金 4
担当教員	杉本 武
授業概要	現代日本語の動詞 (空間に関わる動詞群) を対象に、コーパス等を用いながら、用例収集、用例分析を行い、動詞の意味を含む語彙的特性の記述し、文法と関わりを考察する。これによって、用例収集、用例分析の方法論を学ぶ。具体的には、意味全般、語彙の意味と文法の意味を含む語の意味の捉え方について概観した上で、空間表現と、存在、移動、移動様態などの空間に関わる動詞群の分析をコーパスの用例などから行う。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG36 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	現代日本語の語彙の意味を含む語彙的特性の記述を行うことで、用例収集、用例分析の方法論を学ぶ。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回意味の諸相 第 3 回語の意味的特性 第 4 回語の意味的特性と文法 第 5 回用例収集、用例分析の方法 第 6 回空間の表現 第 7 回意味分析 (1) 存在動詞など 第 8 回意味分析 (2) 移動動詞 第 9 回意味分析 (3) 移動様態動詞 第 10 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	討論への参加度 (40%) とレポート (60%) を総合して評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業時の指示に基づき、用例収集、用例分析を行う。
教材・参考文献・配付資料等	授業時にプリントを配布する。参考文献は以下の通り。 1. 影山太郎, 『動詞意味論』、くろしお出版、1996 年 2. 影山太郎, 『日英対照 動詞の意味と構文』、大修館書店、2001 年 3. 国立国語研究所 (宮島達夫), 『動詞の意味・用法の記述的研究』、秀英出版、1972 年 その他、授業時に適時指示する。

オフィスアワー等（連絡先含む）	メールによるアポイントメント 人文社会学系棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語, 意味分析, 用例収集, 用例分析

授業科目名	日本語意味論 B
科目番号	02DT926
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 金 4
担当教員	杉本 武
授業概要	現代日本語の動詞(働きかけ、変化などに関わる動詞群)を対象に、コーパス等を用いながら、用例収集、用例分析を行い、動詞の意味を含む語彙的特性の記述し、文法と関わりを考察する。これによって、用例収集、用例分析の方法論を学ぶ。具体的には、接触・打撃、状態変化などを表す動詞群の分析をコーパスの用例などから行った上で、意味と文法の関係について考察する。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG37 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	現代日本語の語彙の意味を含む語彙的特性の記述を行うことで、用例収集、用例分析の方法論を学ぶ。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回意味の諸相 第 3 回働きかけと変化 第 4 回意味分析(1) 接触・打撃動詞 第 5 回意味分析(2) 状態変化動詞 第 6 回意味分析(3) 接触・打撃動詞、状態変化動詞と移動動詞 第 7 回意味分析(4) 心理動詞 第 8 回意味分析(5) 思考動詞 第 9 回意味と文法 第 10 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	討論への参加度(40%)とレポート(60%)を総合して評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業時の指示に基づき、用例収集、用例分析を行う。
教材・参考文献・配付資料等	授業時にプリントを配布する。参考文献は以下の通り。 1. 影山太郎, 『動詞意味論』、くろしお出版、1996 年 2. 影山太郎, 『日英対照 動詞の意味と構文』、大修館書店、2001 年 3. 国立国語研究所(宮島達夫), 『動詞の意味・用法の記述的研究』、秀英出版、1972 年 その他、授業時に適時指示する。

オフィスアワー等（連絡先含む）	メールによるアポイントメント 人 文 社 会 学 系 棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語, 語彙, 用例収集, 用例分析

授業科目名	古典日本語学 A
科目番号	02DT929
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 4
担当教員	大倉 浩
授業概要	文献資料から日本語史をたどり、古典日本語、特に中世・近世の日本語を考察する。具体的には江戸期刊行の版本狂言記(万治三(1660)年刊行)を講読し、狂言という芸能の言語を通して、古典日本語について考察する。日本語史上の中世・近世の位置付けからスタートし、狂言の歴史を映像を使って確認したうえで、版本のコピーを実際に読み解き、文献資料の扱い方、語学的な問題のとりえ方、狂言という芸能に関する知識など、日本語史研究のための基本的な事項も確認する。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG44 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	文献資料から日本語史をたどり、古典日本語、特に中・近世の日本語を考察する。具体的には江戸期刊行の版本狂言記を読み、狂言という芸能の言語を通して日本語の特性を考察する。芸能としての能・狂言の歴史にふれたうえで、万治三(1660)年刊『絵入り狂言記』の講読をする。
授業計画	<p>原本コピーを講読しながら、文献資料の扱い方、語学的な問題のとりえ方、狂言という芸能に関する知識など、日本語史研究の基本的な事項にふれてゆく。</p> <p>今年度はオンライン授業となるため計画と異なることもある。詳細は manaba にて周知する。</p> <p>第 1 回日本語史研究と文献資料 第 2 回能と狂言 狂言の歴史 1 前史 第 3 回狂言の歴史 2 日本語史上の中世・近世 第 4 回『狂言記』という資料について 第 5 回「未広がり」を読む 1 第 6 回「未広がり」を読む 2 第 7 回「釣り女」を読む 第 8 回「柿山伏」を読む 第 9 回「武悪」を読む 第 10 回狂言を見る</p>
履修条件	
成績評価方法	くずし字の読み解きの習熟度と授業への参加姿勢、期末のレポートにより総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	

教材・参考文献・配付資料等	<p>本学図書館蔵無刊記『絵入り狂言記』の写真コピーと翻字を配布する。</p> <p>1. 北原保雄・大倉浩, 『狂言記新注』武蔵野書院 1992 年</p>
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語史 古典日本語 狂言の用語 狂言記

授業科目名	古典日本語学 B
科目番号	02DT930
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 火 4
担当教員	大倉 浩
授業概要	日本語史の資料としての狂言台本の価値を考え、あらためて中世から近世への日本語の変遷との関わりを確認する。狂言や古典芸能の基礎知識をふまえて、江戸期の版本狂言記と諸流派の狂言台本の詞章を詳しく比較していく。可能な場合は実演映像も含めて、詞章の異同を検証し日本語史上の問題としてどのように捉えるべきか、具体例から考えていく。受講者にも諸台本の読み比べを行ってもらい、様々な観点から言語事象を捉える練習とする。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG45 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	日本語史料としての狂言台本の価値を考え、中世から近世の日本語の変遷上に位置付ける。具体的には古典芸能としての能・狂言の基礎知識をふまえて、版本狂言記を比較し日本語史上の問題を考える。
授業計画	狂言諸台本の日本語史料としての位置づけを考える。その手がかりとして江戸期の版本狂言記を他台本と比較し原題の狂言の映像も参考にして読む。 第 1 回狂言について 能との共通点・相違点 第 2 回狂言台本と中世・近世の日本語 第 3 回狂言記について 第 4 回版本の講読: 『狂言記拾遺』三本の柱 前半を読む 第 5 回三本の柱 後半を読む 第 6 回版本の講読と他の狂言台本との比較 1 第 7 回版本の講読と他の狂言台本との比較 2 第 8 回現行狂言の映像・詞章と比較する 第 9 回「不似」「類似」「不明」の狂言の位置づけ 第 10 回日本語史上の狂言資料の位置付け
履修条件	
成績評価方法	授業への参加状況（実際に版本を読み上げる、他の狂言台本との比較読みをする）と、期末のレポートにより総合的に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	版本のコピーおよび翻刻を受講者に配布する。 1. 橋本朝生・土井洋一、『狂言記』新日本古典文学大系 岩波書店
オフィスアワー等（連絡先含む）	

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語史 中世の日本語 狂言 狂言記

授業科目名	英語意味論 A
科目番号	02DT943
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 月 3
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学や構文文法を中心とした、現代英語をめぐる様々な意味論的アプローチの研究動向を探る。この授業では、特に、形式と意味機能の対応関係や認知と比喻の関係を中心に扱い、主観性に基づく意味論を基にした分析方法について考察する。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表内容を基に批判的検討を加え、授業参加者による討論を行なう。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG54 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、形式と意味機能の対応関係や認知と比喻の関係を扱った文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的検討を加える。 第 1 回ガイダンス:授業の進め方の確認、プレゼンテーションの順番の決定、導入など 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:主体性と主観性 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:メタファー 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:メトニミー 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:シネクドキ 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:語彙意味論と LCS 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:認知言語学と構文 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:構文文法 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:プロトタイプ理論 第 10 回総括
履修条件	言語学の英文論文を十分に読めるだけの英語力を必要とする。
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度、タームペーパーなどを総合して行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	テキストの英文を精読し、その内容についてできるだけ自分なりのことばでも説明できるように、十分に予習して授業に臨むこと。

教材・参考文献・配付資料等	<p>テキストは、初回授業時に指示する。</p> <p>全般的な参考書としては、例えば、以下を参照。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Huddleston, P. and G. Pullum (2002), The Cambridge Grammar of the English Language (Cambridge University Press) 2. Aarts, B. and A. McMahon (2006), The Handbook of English Linguistics (Blackwell) 3. Lakoff, G. and M. Johnson (1999), Philosophy in the Flesh (Basic Books).
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで随時予約のこと。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	意味論, 認知言語学, 構文文法

授業科目名	英語意味論 B
科目番号	02DT944
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 月 3
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	語用論研究や言語使用に関する日英語比較を中心とした、現代英語をめぐる様々な意味・語用論的アプローチの研究動向を探る。この授業では、特に、語用論・言語使用と意味機能の関係を扱い、代表的な意味論・語用論に関する理論についても触れる。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表内容を基に批判的検討を加え、授業参加者による討論を行なう。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG55 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得できるようになることが到達目標である。特に、語用論・言語使用と意味機能の関係を扱った文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的検討を加える。 第 1 回ガイダンス:授業の進め方の確認、プレゼンテーションの順番の決定、導入など 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:Grice の会話の公理 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:Austin の発話行為理論 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:Searle の発話行為理論 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:Neo-Gricean:Horn 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:Neo-Gricean:Levinson 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:関連性理論 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:認知機能論 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討:日英語比較 第 10 回総括
履修条件	言語学の英文論文を十分に読めるだけの英語力を必要とする。
成績評価方法	評価は、担当箇所報告の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	テキストの英文を精読し、その内容についてできるだけ自分なりのことばでも説明できるように、十分に予習して授業に臨むこと。

<p>教材・参考文献・配付資料等</p>	<p>テキストは、初回授業時に指示する。</p> <p>全般的な参考書としては、例えば、以下を参照。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Talmy, L. (2000), Toward a Cognitive Semantics. Two volumes (MIT Press) 2. adden, G. and R. Dirven (2007), Cognitive English Grammar (John Benjamins) 3. Levinson, S. (2000), Presumptive Meanings (MIT Press)
<p>オフィスアワー等（連絡先含む）</p>	<p>メールで随時予約のこと。</p>
<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	
<p>キーワード</p>	<p>語用論, 言語使用, 意味機能</p>

授業科目名	ドイツ語学 A
科目番号	02DT951
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 2
担当教員	伊藤 眞, 大矢 俊明, 住大 恭康
授業概要	現代ドイツ語の特徴を、語彙、文法ならびに語史の観点から明らかにする。また、必要に応じて日本語や英語などとドイツ語を比較対照し、ドイツ語ないしゲルマン語が持つ個別の特徴と、人間言語が持つ普遍的特徴について、記述的、理論的ならびに通時的ないし歴史的な視点から考察を行うことになる。授業は、まず重要なキーワードなどを含めた総論を講義し、参考文献を批判的に検討した上で、特定のトピックについて参加者全員で議論する。
備考	0ABAG66 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	ドイツ語で書かれた専門文献を精読しながら、ドイツ語ないしゲルマン語における統語的現象を的確に分析し、同時に他言語と比較することにより、履修者自身の観点から問題点を明確にし、その上で自らの主張を明示する。
授業計画	第 1 回ガイダンス, ならびに分担の決定 第 2 回文献の精読と議論 (1) 第 3 回文献の精読と議論 (2) 第 4 回文献の精読と議論 (3) 第 5 回文献の精読と議論 (4) 第 6 回文献の精読と議論 (5) 第 7 回文献の精読と議論 (6) 第 8 回文献の精読と議論 (7) 第 9 回文献の精読と議論 (8) 第 10 回議論の総括
履修条件	
成績評価方法	文献精読に対する準備, ならびに議論に対する積極性をもとに評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	必要に応じて、他の関連文献について報告を行ってもらうこともある。
教材・参考文献・配付資料等	精読する文献は授業中に配布する。また、参考・関連文献も授業中にアナウンスする。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	V2, 情報構造, 生成文法

授業科目名	ドイツ語学 B
科目番号	02DT952
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 火 2
担当教員	伊藤 眞, 大矢 俊明, 住大 恭康
授業概要	現代ドイツ語の特徴を、意味論的ならびに語用論的な観点から明らかにする。また、必要に応じて日本語や英語などとドイツ語を比較対照し、ドイツ語ないしゲルマン語が持つ個別的特徴と、人間言語が持つ普遍的特徴について、記述的、理論的ならびに通時的ないし歴史的な視点から考察を行うことになる。授業は、まず重要なキーワードなどを含めた総論を講義し、参考文献を批判的に検討した上で、特定のトピックについて参加者全員で議論する。
備考	0ABAG67 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	ドイツ語で書かれた専門文献を精読しながら、ドイツ語ないしゲルマン語における統語論と意味論・語用論のインターフェースについて議論する。同時に他言語と比較することにより、履修者自身の観点から問題点を明確にする。その上で、自らの主張を明らかにし、どのように形式化・明示化するべきかを考察する。
授業計画	第 1 回ガイダンス, ならびに分担の決定 第 2 回文献の精読と議論 (1) 第 3 回文献の精読と議論 (2) 第 4 回文献の精読と議論 (3) 第 5 回文献の精読と議論 (4) 第 6 回文献の精読と議論 (5) 第 7 回文献の精読と議論 (6) 第 8 回文献の精読と議論 (7) 第 9 回文献の精読と議論 (8) 第 10 回議論の総括
履修条件	
成績評価方法	文献精読に対する準備, ならびに議論に対する積極性をもとに評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	必要に応じて, 他の関連文献について報告を行ってもらうこともある。
教材・参考文献・配付資料等	精読する文献は授業中に配布する。また, 参考・関連文献も授業中にアナウンスする。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	情報構造, 生成文法

授業科目名	中国語学 A
科目番号	02DT961
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 木 5
担当教員	佐々木 勲人, 池田 晋
授業概要	中国語の文法研究に関する優れた論文を演習形式で読み進めながら、中国語の諸現象について考える。文法現象に表れた中国語の事態把握捉の特徴を他言語（主に日本語）との対照を通して検討する。中国各地の方言データも取り上げながら、標準語のみを対象とする従来の文法研究が看過してきた特徴を明らかにする。研究テーマをどのように設定するか、またそれをどのように分析していくかなど、研究方法や分析手順を学ぶこともこの授業の目的の一つである。
備考	0ABAG70 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	中国語文法に関する基本文献を読み進めながら、中国語の諸問題について考える。具体的な研究の方法論を学ぶこともこの授業の目標の一つである。
授業計画	オンライン授業によりおこなう。 鄧思穎『形式漢語句法学（第二版）』の前半部分を演習形式で読み進めていく。 第 1 回「第一章:諸論」を読む 第 2 回「第二章:語法和漢語語法」を読む 第 3 回「第三章:特徴・詞和詞類」を読む 1 第 4 回「第三章:特徴・詞和詞類」を読む 1 第 5 回「第四章:短語」を読む 1 第 6 回「第四章:短語」を読む 2 第 7 回「第五章:名詞性結構」を読む 1 第 8 回「第五章:名詞性結構」を読む 2 第 9 回「第六章:主謂結構」を読む 1 第 10 回「第六章:主謂結構」を読む 2
履修条件	中国語の論文が読めること。
成績評価方法	平常点 50% とレポート 50% による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	事前に指定した章を読んで、問題点を整理しておくこと。
教材・参考文献・配付資料等	テキストの入手方法については、初回の授業で指示する。 1. 鄧思穎,『形式漢語句法学（第二版）』 2. 朱德熙,『語法講義』
オフィスアワー等（連絡先含む）	池田 晋 事前予約により随時 人文社会学系棟 B510 ikeda.susumu.ge at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	しっかり読み込んできてください。

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	なし
キーワード	中国語学, 統語論, 論文演習, 方法論

授業科目名	中国語学 B
科目番号	02DT962
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 木 5
担当教員	佐々木 勲人, 池田 晋
授業概要	中国語文法研究をおこなううえで、必ず通読し理解しておくべき基礎文献を演習形式で読み進めていく。品詞分類、語順、主題、アスペクト、モダリティ、ヴォイス、ダイクシスなど中国語の個性が色濃く現れると思われるテーマを取り上げ、中国語文法研究に必要な最低限の知識を身に付けることを目指す。授業では、内容に対する正確な理解が求められるだけでなく、各自が批判的な視点を以て問題点・疑問点を見つけ出し、積極的に議論に参加することが求められる。
備考	0ABAG71 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	中国語文法に関する研究論文を読み進めながら、中国語の諸問題について考える。問題設定の方法や分析の手順など、研究方法を学ぶこともこの授業の目標の一つである。
授業計画	演習形式によって進める。
履修条件	
成績評価方法	平常点 50% とレポート 50% による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	授業時に配布する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	佐々木 勲人 予約により随時 人文社会学系棟 A718 sasaki.yoshihito.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	積極的な発言を歓迎します、
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	中国語学 A
キーワード	中国語学, 論文演習, 問題設定, 研究方法

授業科目名	言語政策論 A
科目番号	02DT971
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 火 6
担当教員	白山 利信
授業概要	ロシアや中央アジア諸国などの多民族・多言語社会を事例として、地位計画(言語の法的地位)、実体計画(標準語の整備)、普及計画(言語教育政策他)等の観点から各国の言語政策の現状と課題を検討・考察する。授業では、当該国の言語状況・言語政策に関する研究論文を取り上げ、論点を整理し、議論する。また講義、学生の発表や議論などを通じて、言語政策研究の方法論や分析手法などについての理解も深める。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG80 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」「5. 国際性」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」「5. 総合力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	言語政策に関する最新の研究成果を学ぶプロセスを通じて、現代社会、特に日本社会における言語政策課題を解決する糸口となる視点を見つけ出す力を養う。
授業計画	第 1 回言語政策のキーワードについて理解を深める。 第 2 回「自治体の外国人移民政策と言語問題」(瀬戸一郎著) から言語政策課題を学ぶ。 第 3 回「自治体の外国人移民政策と言語問題」(瀬戸一郎著) の主要な論点について考察・討議する。 第 4 回「社会を支える外国人移住者と受入れ社会とのコミュニケーション構築」(松岡洋子著) から言語政策課題を学ぶ。 第 5 回「社会を支える外国人移住者と受入れ社会とのコミュニケーション構築」(松岡洋子著) の主要な論点について考察・討議する。 第 6 回「ヨーロッパ市民のための言語文化リテラシーとヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)(宮崎里司著) から言語政策課題を学ぶ。 第 7 回「ヨーロッパ市民のための言語文化リテラシーとヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)(宮崎里司著) の主要な論点について考察・討議する。 第 8 回「言語政策-オーストラリア多文化主義の中心とその周縁で」(ジェセフ・ロ・ピアンコ著) から言語政策課題を学ぶ。 第 9 回「言語政策-オーストラリア多文化主義の中心とその周縁で」(ジェセフ・ロ・ピアンコ著) の主要な論点について考察・討議する。 第 10 回授業で扱った社会の言語政策課題解決の糸口となる具体的な施策について検討・討議する(まとめ)。
履修条件	
成績評価方法	発表(35%)、討議の参加状況(15%)、レポート(50%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	1. 授業で使用する論文を事前に精読する。 2. 論文の著者の主張に対して、賛同できる点と賛同できない点を整理する。 3. 賛同できない点について、その理由を整理し、代案等の自身の考えや意見をまとめる。

教材・参考文献・配付資料等	1. 宮崎里司・杉野俊子編著, 『グローバル化と言語政策』明石書店
オフィスアワー等(連絡先含む)	授業の前後あるいはメールでアポイントメントをを取ってください。 e-mail: usuyama.toshinobu.gf@u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	将来、地方公務員をキャリアの一つとして考えている学生にすすめます。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	言語政策, 地位計画, 実体計画, 普及計画, 共生計画

授業科目名	言語政策論 B
科目番号	02DT972
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 火 6
担当教員	白山 利信
授業概要	世界 (特に旧ソ連・旧東欧地域) の多民族・多言語国家の言語状況や言語政策に関する研究事例を通して、多言語社会における言語政策の役割について考察する。その上で、比較という観点から日本社会の言語状況・言語政策の実情と課題について検討する。また講義、学生の発表や議論などを通じて、社会に貢献する言語政策研究の研究対象としての新たな可能性を探求する。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG81 と同一。
授業形態	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」「5. 国際性」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」「5. 総合力」に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	言語政策に関する最新の研究成果を学ぶプロセスを通じて、現代社会、特に日本社会における言語政策課題を解決する糸口となる視点を見つけ出す力を向上させる。それとともに、言語政策分野における、特に地方自治体の政策立案者の発想力を磨く。
授業計画	第 1 回日本の地方自治体の言語政策について理解を深める。 第 2 回「文化の持続可能性と部族言語-インド・サントル語の事例を通して」(野沢恵美子著) から言語政策課題を学ぶ。 第 3 回「文化の持続可能性と部族言語-インド・サントル語の事例を通して」(野沢恵美子著) の主要な論点について考察・討議する。 第 4 回「変容する社会における専門日本語言語教育とは」(栗飯原志宣著) から言語政策課題を学ぶ。 第 5 回「変容する社会における専門日本語言語教育とは」(栗飯原志宣著) の主要な論点について考察・討議する。 第 6 回「中国語圏からの外国人観光客受入れに求められる多言語対応」(藤井久美子著) から言語政策課題を学ぶ。 第 7 回「中国語圏からの外国人観光客受入れに求められる多言語対応」(藤井久美子著) の主要な論点について考察・討議する。 第 8 回「司法手続きにおける言語権と多文化社会 (中根育子著)」から言語政策課題を学ぶ。 第 9 回「司法手続きにおける言語権と多文化社会 (中根育子著)」の主要な論点について考察・討議する 第 10 回授業で扱った社会の言語政策課題解決の糸口となる具体的な施策について検討・討議する (まとめ)。
履修条件	
成績評価方法	発表 (35%)、討議の参加状況 (15%)、レポート (50%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	1. 授業で使用する論文を事前に精読する。 2. 論文の著者の主張に対して、賛同できる点と賛同できない点を整理する。 3. 賛同できない点について、その理由を整理し、代案等の自身の考えや意見をまとめる。

教材・参考文献・配付資料等	1. 宮崎里司・杉野俊子編著, 『グローバル化と言語政策』明石書店
オフィスアワー等(連絡先含む)	授業の前後あるいはメールでアポイントメントを取ってください。 e-mail: usuyama.toshinobu.gf@u.tsukuba.ac.jp 将来、地方公務員をキャリアの一つとして考えている学生にすすめます。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	言語政策, 多文化共生社会, 地方自治体, 多言語対応

授業科目名	日本語教育学 IA
科目番号	02DT975
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 木 3
担当教員	松崎 寛
授業概要	日本語教育学分野の論文講読および発表者・受講生間の討論を通じ、クリティカルに物事を捉える基礎的な力を身につける。具体的には、「日本語教育方法の改善に役立つ実験・調査を行っている論文(日本語)」をとりあげ、その研究の方法論に関して討議する。受講生は、口頭による発表方法を工夫し、また積極的に議論に参加することが期待される。
備考	0ABAG90 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」「3. コミュニケーション能力」「5. 国際性」に関連する 専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」「5. 総合力」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	日本語教育方法の改善に役立つと思われる論文を取り上げ、方法論上の問題点や、推論の妥当性について全員で討議する。この授業を通して受講生は、日本語教育方法学に関する知識を得るとともに、論文を批判的に検討するための方法論を学ぶことができる。
授業計画	「日本語教育方法の改善に役立つと思われる実験・調査を行っている論文(日本語)」をとりあげ、その研究の方法論に関して討議する。受講生は、口頭による発表方法を工夫し、また積極的に議論に参加することが期待される。 第1回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 第2回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 第3回日本語教育学分野の論文講読および討議 第4回日本語教育学分野の論文講読および討議 第5回日本語教育学分野の論文講読および討議 第6回日本語教育学分野の論文講読および討議 第7回日本語教育学分野の論文講読および討議 第8回日本語教育学分野の論文講読および討議 第9回日本語教育学分野の論文講読および討議 第10回まとめ
履修条件	
成績評価方法	発表, 討論参加, 他者評価内容, 期末課題等による総合判定。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	

教材・参考文献・配付資料等	授業内で適宜指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	随時（要アポイントメント）
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	オンライン授業は同時双方向型を進めます。 指示は manaba を通じて行いますので、履修登録前にとりあえず話を聞いてみたいという人は、manaba で検索して自己登録してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語教育学, 日本語教育方法論, クリティカルシンキング

授業科目名	日本語教育学 IB
科目番号	02DT976
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 金 5
担当教員	松崎 寛
授業概要	第二言語習得研究の観点から、日本語音声教育の理論と方法について考察する。また、学習者の発音の分析や、教材・教具の分析を行い、音声指導法について検討する。扱う素材は音声であるが、根底にあるものは「教育方法の追究」である。さまざまな知識を統合して、広い視野から「学習が起こるための支援」はどうあるべきかを考えていきたい。
備考	0ABAG91 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」「3. コミュニケーション能力」「5. 国際性」に関連する 専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」「5. 総合力」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	日本語教育における音声教育の問題を取り上げ、研究論文や教材について批判的に検討する。この授業を通して受講生は、日本語音声教育に関する知識を得るとともに、論文を批判的に検討するための方法論を学ぶことができる。
授業計画	日本語音声教育に関連する以下のテーマに沿って、複数の研究論文や教材を取り上げて批判的に検討し、よりよい方法論を追究する。受講生は、口頭による発表方法を工夫し、また積極的に議論に参加することが期待される。 第 1 回オリエンテーション 第 2 回学習者のニーズ、ピリーフ 第 3 回発音評価研究 第 4 回母語別発音指導の是非 第 5 回ヴェルボ・トナル・メソッド 第 6 回拍感覚、リズムの指導 第 7 回子音・母音の指導 第 8 回アクセントの指導 第 9 回イントネーションの指導 第 10 回まとめ
履修条件	
成績評価方法	発表, 討論参加, 他者評価内容, 期末課題等による総合判定。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	授業内で適宜指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	随時（要アポイントメント）

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	日本語教育学, 音声教育, 自己モニター理論

授業科目名	外国語教育学 A
科目番号	02DT979
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 月 6
担当教員	小野 雄一
授業概要	外国語教育 (特に外国語としての英語教育) の文脈において、テクノロジーを活用した授業モデルの言語習得に対する効果について論じた研究論文や関連文献を検討し、言語接触、中間言語の観点からどのような意味合いが求められるかについて検討する。授業は、論文発表と討論を中心に進めていき、授業の最後の段階では、ミニリサーチを行う。特にこの授業では、授業の中で得られるテキストデータ、コーパスの利用に焦点を置き、データの分析や分析結果の報告に関する活動も行っていく。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG96 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 「1 知の活用力」 「3 コミュニケーション能力」 「5 国際性」に関連する。 専門コンピテンス 「1 研究力」 「2 専門知識」 「4 思考力」 「5 総合力」に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	第二言語習得理論と理論言語学に関する文献を講読し、特に心理言語学における概念、理論、量的研究法に関する知識を習得する。
授業計画	<p>【重要:2020/4/12 追記】</p> <p>2020 年度については Zoom 等を利用したオンライン授業を実施する。原則として、通常の授業時間帯にリアルタイム配信をして実施するものとする (オンデマンドにも対応します)。第 1 回目の授業は、受講者の ICT 環境調査、テキスト、授業形態などについて確認をします。ので、かならず授業時間にオンラインで待機してください。詳細は初回授業の 1 週間前までに manaba のコースコンテンツまたはコースニュース (掲示板) に情報を掲載するので、あらかじめ manaba にログインして内容を確認し、授業開始までに必要な準備をしておくこと。manaba のコースページへの参加は TWINS での履修登録の翌日から可能になるので、余裕を持って履修登録すること。</p> <p>第 1 回 General Introduction and Preparation for Online Course 第 2 回 Basics of Language Acquisition Theories (Linguistics Focused) 第 3 回 Universal Grammar in L1 Acquisition 第 4 回 The Logical Problem of L1 Language Acquisition 第 5 回 Parameters of Universal Grammar 第 6 回 "Tapping" Linguistic Competence 第 7 回 UG and the Logical Problem of L2 Acquisition 第 8 回 L2 Input and L1 Grammar as the Source of Knowledge of UG Principles 第 9 回 Problems for the UG Claim: Wild Interlanguage Grammars 第 10 回 General Discussion</p>
履修条件	
成績評価方法	授業への参加度 (30%)、レポート (70%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業前の予習、発表に関する準備など。
教材・参考文献・配付資料等	White, L.(2003) Second Language Acquisition and Universal Grammar. Oxford: Cambridge University Press.

オフィスアワー等（連絡先含む）	火:16:45-19:00、他は適宜相談して下さい 人文社会系棟 B601 ono.yuichi.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	英語学領域の院生のみならず、言語学的視点から言語習得について学びたい学生の受講を歓迎する。
キーワード	第二言語習得, 量的研究, 心理言語学

授業科目名	外国語教育学 B
科目番号	02DT980
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 月 6
担当教員	小野 雄一
授業概要	外国語教育 (特に外国語としての英語教育) の文脈において、テクノロジーを活用した授業モデルの言語習得に対する効果について論じた研究論文や関連文献を検討し、特に心理言語学の観点からどのような意味合いが考えられるかについて検討する。授業は、論文発表と討論を中心に進めていき、授業の最後の段階では、ミニリサーチを行う。特にこの授業では、量的研究方法論、質問紙の作成、結果の記述などの演習に焦点をおき、データの分析や分析結果に関する活動も行なっていく。
備考	西暦偶数年度開講。 0ABAG97 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 「1 知の活用力」, 「3 コミュニケーション能力」, 「5 国際性」に関連する。 専門コンピテンス 「1 研究力」, 「2 専門知識」, 「4 思考力」, 「5 総合力」に関連する。
授業の到達目標 (学修成果)	第二言語習得理論及び理論言語学に関する文献を講読し、概念、理論、量的研究法に関する知識を習得する。
授業計画	第 1 回 Introduction 第 2 回 A Grammar as the Initial State 第 3 回 Interlanguage Representation: Defective or Not 第 4 回 Grammars Beyond the Initial State: Parameters and Functional Categories 第 5 回 Parameters in Interlanguage Grammars 第 6 回 Parameter Setting and Resetting 第 7 回 The Transition Problem, Triggering, and Input 第 8 回 Morphological Variability and the Morphology/Syntax Interface 第 9 回 Surface versus Abstract Morphology 第 10 回 General Discussion
履修条件	
成績評価方法	授業への参加度 (30%)、レポート (70%)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	発表の準備、予習、授業中のディスカッションなど。
教材・参考文献・配付資料等	White, L.(2003) Second Language Acquisition and Universal Grammar. Oxford: Cambridge University Press.
オフィスアワー等 (連絡先含む)	火:16:45-19:00、他は適宜相談して下さい 人文社会系棟 B601 ono.yuichi.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	英語学領域の院生のみならず、言語学的視点から言語習得について学びたい学生の受講を歓迎する。

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	第二言語習得理論

授業科目名	言語情報論 A
科目番号	02DT981
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春 AB 水 2
担当教員	和氣 愛仁, 小野 雄一, 石田 尊
授業概要	言語研究を行うにあたって理解しておくべき ICT(情報コミュニケーション技術) の基礎的な知識・技能の習得を目的とした演習を行う。
備考	0ABAGA0 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」「5. 総合力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	(1) コンピュータおよびインターネットの基礎、情報のデジタル化、正規表現を用いたテキスト検索等について知識と技能を習得する。 (2) ICT を活用した研究発信を目的として、著作権に関する知識と、動画を組み込んだコンテンツを制作する技能を習得する。 (3) 言語データを利用した量的実証研究を行うために必要となる自然言語処理技術、統計に関する知識と技能を習得する。
授業計画	<p>【重要:2020/4/12 追記】2020 年度については、Zoom 等を利用したオンライン授業とする。リアルタイム配信(双方向ビデオ会議)、オンデマンド配信(事前収録の講義動画視聴)のいかんにかかわらず、通常の授業時間帯に実施する。詳細は初回授業の1週間前までに manaba のコースコンテンツまたはコースニュース(掲示板)に情報を掲載するので、あらかじめ manaba にログインして内容を確認し、授業開始までに必要な準備をしておくこと。その後も状況に応じて必要な連絡を manaba を通じて行うので注意すること。manaba のコースページへの参加は TWINS での履修登録の翌日から可能になるので、余裕を持って履修登録すること。</p> <p>第 1 回 4/29 インTRODクシヨN 担当:和氣 愛仁 第 2 回 5/13 コンピュータおよびインターネットの基礎 担当:和氣 愛仁 第 3 回 5/20 情報のデジタル化 担当:和氣 愛仁 第 4 回 5/23 正規表現を用いたテキスト検索 担当:和氣 愛仁 第 5 回 5/27 研究・教育と著作権(講義) 担当:石田 尊 第 6 回 6/3 動画の収録・生成と編集(演習) 担当:石田 尊 第 7 回 6/10 動画のスライドおよび web ページへの組み込み(演習) 担当:石田 尊 第 8 回 6/13 コーパスの利用、データの検索についての講義と演習 担当:小野 雄一 第 9 回 6/17 データの要約と記述について講義と演習 担当:小野 雄一 第 10 回 6/24 有意性の検定について講義と演習 担当:小野 雄一</p>
履修条件	
成績評価方法	授業内の課題(80%)および授業への参加態度(20%)に基づいて判定する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎回の授業で相当量の知識を扱うので復習をしっかりと行って確実に身につけておくこと。

教材・参考文献・配付資料等	授業中に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	和氣 愛仁 随時 (要事前連絡) 人文社会学系棟 B612 (内)4420 waki.toshihito.fn at u.tsukuba.ac.jp 小野 雄一 火:16:45-19:00、他は適宜相談して下さい 人文社会系棟 B601 ono.yuichi.ga at u.tsukuba.ac.jp 石田 尊 メールによるアポイントメント ishida.takeru.ft at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	コンピュータの初歩的な使用法はマスターしておくこと。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	インターネット, 情報のデジタル化, 正規表現, 著作権, 動画, コーパス, 検定

授業科目名	言語情報論 B
科目番号	02DT982
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋 AB 水 2
担当教員	和氣 愛仁, 小野 雄一, 石田 尊
授業概要	言語研究をより深めるための ICT(情報コミュニケーション技術) 活用法について、履修者の専門分野・問題意識に基づいた実践的な演習を行う。
備考	0ABAGA1 と同一。
授業形態	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス「1. 知の活用力」、専門コンピテンス「1. 研究力」「2. 専門知識」「4. 思考力」「5. 総合力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	(1) 大量の言語データを扱うテキストマイニングに関する知識と、プログラムを利用したデータの自動収集・分析についての技能を習得する。 (2) 研究発信方法の多様化を目的として、静止画・動画・音声編集に関する知識と技能を習得する。 (3) WWW を通じた研究資源の共有・成果発信等を目的として、CMS を用いたウェブサイト構築およびそれに必要なデータベース設計等についての知識と技能を習得する。
授業計画	【重要:2020/4/12 追記】2020 年度については、授業の実施形態が変わる可能性があるもので掲示等に注意すること。詳細は manaba 上に随時情報を掲載する予定。 第 1 回 10/7 言語処理環境の構築と簡単な演習 担当:小野 雄一 第 2 回 10/14 言語変化の特徴抽出に関する講義と演習 担当:小野 雄一 第 3 回 10/21 テキストマイニングに関する研究事例と研究法について 担当:小野 雄一 第 4 回 10/28 研究発信方法の多様化の状況 (講義) 担当:石田 尊 第 5 回 11/4 静止画・動画の編集 (演習) 担当:石田 尊 第 6 回 11/11 音声の編集 (演習) 担当:石田 尊 第 7 回 11/18 データベースの基本的知識 担当:和氣 愛仁 第 8 回 12/2 CMS を用いた研究支援サイトの構築 (1) 担当:和氣 愛仁 第 9 回 12/9 CMS を用いた研究支援サイトの構築 (2) 担当:和氣 愛仁 第 10 回 12/16 CMS を用いた研究支援サイトの構築 (3) 担当:和氣 愛仁
履修条件	
成績評価方法	授業内の課題 (80%) および授業への参加態度 (20%) に基づいて判定する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎回の授業で相当量の知識を扱うので復習をしっかりと身につけておくこと。
教材・参考文献・配付資料等	授業中に指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	和氣 愛仁 随時 (要事前連絡) 人文社会学系棟 B612 (内)4420 waki.toshihito.fn at u.tsukuba.ac.jp 小野 雄一 火:16:45-19:00、他は適宜相談して下さい 人文社会学系棟 B601 ono.yuichi.ga at u.tsukuba.ac.jp 石田 尊 メールによるアポイントメント ishida.takeru.ft at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	コンピュータの初歩的な使用法はマスターしておくこと。

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	テキストマイニング, データの自動収集, 静止画, 動画, 音声, WWW, CMS, ウェブサイト構築, データベース設計